

第二十二回 帝國議會 貴族院議事速記録第十六號

明治三十九年三月十九日(月曜日)

午前十時九分開議

議事日程 第十六號 明治三十九年三月十九日

午前十時開議

- 第一 廢兵院法案(議院送付) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第三 鐵道國有法案(議院送付) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第五 京釜鐵道買收法案(議院送付) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第七 醬油稅則中改正法律案(議院送付) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第九 軍人恩給法中改正法律案(議院送付) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十一 郡制廢止法律案(議院送付) 第一讀會
- 第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十三 市制改正法律案(議院送付) 第一讀會
- 第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十五 町村制改正法律案(議院送付) 第一讀會
- 第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十七 明治三十九年法律第六十三號ニ代ルヘキ法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第十九 貯蓄銀行法案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員長報告)
- 第二十 鹽專賣法中改正法律案(議院送付) 第一讀會ノ續(特別委員長報告)
- 第二十一 屯田兵土地給與規則廢止法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第二十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十三 明治三十九年法律第四十二號廢止法律案(衆議院提出) 第一讀會

第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第二十五 會計法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(特別委員長報告)

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

〔小原書記官朗讀〕

去ル十六日議員三崎龜之助君卒去セラル依テ昨十八日弔詞ヲ贈レリ

○議長(公爵德川家達君) 他ノ御報告ハ本日モ省略ヲ致シマシテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異存ナイト認メマス

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

去ル十六日本院ニ於テ否決シタル明治三十九年度歲入歲出總豫算追加案(第一號)ハ即日更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奏請シ及否決ノ旨ヲ衆議院ヘ通知セリ

同日本院ニ於テ可決シタル臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案ハ即日之ヲ衆議院ヘ送付セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

鐵道國有法案

京釜鐵道買收法案

去ル十五日決算委員會ニ於テ分科兼務委員ヲ設置シ第一分科擔當委員谷森眞男君ハ第二分科ヲ兼務セリ

一昨十七日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

醬油稅則中改正法律案

軍人恩給法中改正法律案

郡制廢止法律案

市制改正法律案

町村制改正法律案

同日衆議院ヨリ同院提出債務者ニ代位スル債權者ノ登記申請ニ關スル法律

案ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上セル旨通牒ヲ受領セリ

韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案

內國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案

同日政府ヨリ明治二十九年法律第六十三號ニ代ルヘキ法律案ヲ受領セリ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第一ニ移リマス、癸卯院法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省略イタシマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

癸卯院法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月十三日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

癸卯院法案

〔小字ハ衆議院修正〕

第一條 戰鬪ノ爲傷痍ヲ受ケ軍人恩給法ニ依リ増加恩給ヲ受クル者ニシテ

救護ヲ要スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ癸卯院ニ收容ス

癸卯院ニ收容シタル者ハ國費ヲ以テ終身之ヲ扶養ス

第二條 公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ軍人恩給法ニ依リ増加恩給ヲ

受クル者ニシテ救護ヲ要スルモノハ特ニ癸卯院ニ收容スルコトヲ得

第三條 癸卯院ニ收容シタル者ニハ其ノ間恩給ノ支給ヲ停止ス

第四條 癸卯院ニ收容シタル者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ退院ヲ命ス

- 一 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ剝奪セラレ又ハ停止セラレタルトキ
- 二 救護ヲ要セサルニ至リタルトキ

三 屢懲罰ニ處セラレ改悛ノ見込ナキトキ

第五條 癸卯院ニ收容シタル者ニシテ退院ヲ命セラレ又ハ自己ノ便宜ニ依リ退院シタル者ハ退院ノ日ヨリ二箇年ヲ經過スルニ非サレハ再ヒ癸卯院ニ收容スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 癸卯院ニ收容シタル者ハ其ノ犯罪及審判ニ關シテハ服役ヲ免セラレタル當時ノ官等級ニ應シ現役陸軍軍人ト看做ス

第七條 癸卯院ニ於テ寄附ヲ受ケタル不動産、金錢及有價證券ハ癸卯院基金ト爲シ其ノ利子其ノ他ノ果實ト共ニ之ヲ蓄積ス

第八條 癸卯院基金ノ利子其ノ他ノ果實ハ癸卯院ニ收容シタル者ニ係ル費用ニノミ之ヲ使用スルコトヲ得

第九條 癸卯院基金及其ノ利子其ノ他ノ果實ノ收支ニ係ル檢査ハ會計檢査院法第十六條ニ依ル

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣寺內正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(寺內正毅君) 癸卯院ノコトニ付キマシテ概要ノ説明ヲ致シテ置キマス、戰役ノ結果、戰鬪若クハ公務ノ爲ニ負傷其外ノ原因ニ依リマシテ癸卯院ニ收容シタル者ハ、ソレノ恩給ノ制度モゴザイマスルガ、又家ニ扶養スベキ人ノ居リマセヌ等ニ依リマシテ家庭ノ給養ノ出來マセヌ者ハ、國家ガ之ヲ收容イタシマシテ相當テ救護慰安ノ途ヲ講ジマスルノハ國家ノ義務ト考ヘマシテ此法案ヲ提出イタシマシタ次第デゴザイマス、御審議ノ上、御協賛アラムコトヲ希望イタシテ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第二ニ移リマス、右議案ノ審查ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三ニ移リマス、鐵道國有法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ヲ朗讀イタサセマス

〔小原書記官朗讀〕

鐵道國有法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

鐵道國有法

第一條 一般運送ノ用ニ供スル鐵道ハ總テ國ノ所有トス但シ一地方ノ交通ヲ目的トスル鐵道ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 政府ハ明治三十九年ヨリ明治四十四年迄ノ間ニ於テ左ニ掲クル私設鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ

- 一 北海道炭礦鐵道株式會社
- 一 北海道鐵道株式會社
- 一 日本鐵道株式會社
- 一 岩越鐵道株式會社
- 一 北越鐵道株式會社
- 一 甲武鐵道株式會社
- 一 川越鐵道株式會社
- 一 總武鐵道株式會社
- 一 成田鐵道株式會社
- 一 東武鐵道株式會社
- 一 上武鐵道株式會社
- 一 房總鐵道株式會社
- 一 豆相鐵道株式會社
- 一 水戸鐵道株式會社
- 一 七尾鐵道株式會社
- 一 中越鐵道株式會社
- 一 豐川鐵道株式會社
- 一 關西鐵道株式會社
- 一 尾西鐵道株式會社

一 近江鐵道株式會社

一 參宮鐵道株式會社

一 京都鐵道株式會社

一 南海鐵道株式會社

一 西成鐵道株式會社

一 高野鐵道株式會社

一 河南鐵道株式會社

一 阪鶴鐵道株式會社

一 山陽鐵道株式會社

一 中國鐵道株式會社

一 德島鐵道株式會社

一 九州鐵道株式會社

一 博多灣鐵道株式會社

前項ニ掲ケサル私設鐵道株式會社ニシテ本法發布ノ日ニ於テ未タ運輸ヲ開始セサルモノモ亦前條ノ規定ニ準シテ之ヲ買收スルコトヲ得

第三條 前條ニ掲ケタル各鐵道買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス

第四條 政府ハ兼業ニ屬スルモノヲ除クノ外買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有

スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務、拂込株金ノ支

出殘額並收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラ

ス

第五條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス

一 會社ノ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間

ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費

ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

二 貯藏物品ノ實費ヲ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シタル金額但シ借

入金ヲ以テ購入シタルモノヲ除ク

前項第一號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費、賞與金及收益勘

定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割

合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度

ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ

二倍ヲ謂フ

第六條 借入金ハ建設費ニ使用シタルモノニ限り時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲サス又ハ鐵道建設規程ニ依リ期限内ニ改築若ハ改造ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修、改築又ハ改造ニ要スル金額ハ前項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 資本勘定ニ屬スル支出ハ借入金ヲ以テシタルモノヲ除クノ外順次ニ建設費及貯藏物品ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做ス

借入金ノ支出ハ前項ノ支出ノ後ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第八條 會社カ明治三十八年前半期ノ營業年度末ニ於テ運輸開始後六營業年度ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ第五條第一項第一號ノ金額カ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ政府ハ其ノ建設費以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ第五條第一項第一號ノ金額ニ代フ

第二條第二項ノ規定ニ依リ買收ヲ爲ストキハ其ノ價額ハ建設費以內ニ於テ之ヲ協定ス

第九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ政府ハ審査委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

一 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキ

二 前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ

審査委員ノ決定ハ終局トス

審査委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 買收ノ執行ハ審査委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス

第十一條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十二條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス

第十三條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第十四條 政府ハ鐵道買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス

第十五條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第四條ニ依リ承繼シタル債務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外整理公債條例ヲ適用ス

第十七條 第五條第一項第二號及第六條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

第十八條 買收ヲ受クヘキ會社カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

附則

第二條ニ掲クル會社ノ明治三十九年二月一日以後ニ於ケル貯藏物品ノ購入、建設費ニ増加ヲ生スヘキ施設及債務ノ負擔ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケサルモノニ付テハ政府之ヲ承繼セス但シ政府ハ價額ヲ査定シテ之ヲ承繼スルコトヲ得

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、西園寺總理大臣ガ本案ノ説明ヲ致サレル筈デアリマスガ、マダ出席ガアリマセヌカラ、後ヘ同シテハ如何デアリマセウカ

〔贊成〕異議ナシト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 第七ノ議事日程ニ移リマス、醬油稅則中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ヲ致サセマス

〔小原書記官朗讀〕

醬油稅則中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

明治三十九年三月十七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

醬油稅則中改正法律案

醬油稅則中左ノ通改正ス

第二條 醬油製造人ハ左ノ造石稅ヲ納ムヘシ

一 醬油

諸味一石ニ付

金一圓。八十錢
〇七十五

二 溜

製成一石ニ付

金一圓。八十錢
〇六十五

第十四條 削除

第十六條 削除

第二十條第二項中「第十四條第二項」ヲ削ル

第二十一條 第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者、第八條第九條ヲ犯シタル者又ハ逋稅ヲ謀ル爲帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

醬油製造人カ本法施行前ニ買受ケタル鹽ヲ以テ仕込ミタル醬油ニ關シテハ

本法施行後ト雖舊稅率ニ依リ造石稅ヲ課ス

改正稅率ニ依リ造石稅ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非常特別稅法ニ依ル醬油稅ノ増徴ヲ爲サス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選舉モ御任セニナリマスカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無ケレバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 總理大臣ガ出席セラレマシタカラ議事日程第三ノ議事ニ移リマス

〔國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 諸君、鐵道國有法案ニ付キマシテ聊カ提出ノ理由ヲ陳述イタシマス、戰後ノ經營ハ其事極メテ多端デゴザイマスルガ、其最モ急務トスル所ハ即チ今日ノ民力ヲシテ更ニ發展セシメ以テ國富ノ充實ヲ圖ルト云フニ外ナラスノデゴザイマス、即チ各種ノ産業ヲ盛ニシ、海外ノ貿易ヲ擴張シ、商工業相俟ッテ謂ハユル平時ノ戰爭ニ勝ヲ制セムト欲スルノデゴザイマス、之ヲ爲スニハ鐵道國有ノ如キ其最モ必要ナル事デアッテ、今日實ニ萬已ムヲ得ヌノデゴザイマス、抑我國鐵道ノ現狀ヲ見マスレバ、官設ノ外三十有餘ノ私設鐵道ガ錯綜シテ居ルノデゴザイマス、北海道ヨリ九州ニ至ル僅々二千哩ニモ足ラヌ主要ナル幹線スラ尙且ツ數箇ノ管理ニ分レテ居ルト云フ有様デゴザイマス、其時間ノ複雜ナル、運送費ノ不廉ナル、貨物ノ延著、或ハ停滯スル等、其他種々不便ノアルハ實ハ怪ムニ足ラスノデゴザイマス、軍事ニ經濟ニ國家ハ如何ナル不利ヲ被ッテ居リマスルカ、理ノ略易キコト考ヘマス、之ノミナラズ或ハ他日、我國ニ鐵道「トラスト」ノ如キ事ガ起ラヌトモ考ヘラレマセヌ、前途甚ダ憂懼スベキコト考ヘマス、又一方ヨリ申シマスルト、我國ニ於ケル鐵道國有ノ主義ハ敢テ今日ニ始マッタノデハナイノデゴザイマス、維新ノ當初ニ新橋橫濱間、京都神戸間ニ官設イタシマシタニ端ヲ開キマシテ、明治二十五年ニ鐵道敷設法ニ悉ク重要ナル線路ヲ豫定イタシマシテ、且ツ鐵道公債ヲ以テ之ヲ經營スルトノ大綱ヲ示シマシタ、又二十七八年戰爭後ニハ官線ノ擴張ヲ圖リマシテ、建設ニ、改良ニ、巨額ヲ投ジタノデゴザイマス、是モ亦官設主義ノ遂行ニ外ナラスノデゴザイマス、又三十三年私設鐵道法ニ民有買收ノ原則ヲ極メタルノモ矢張り同様ノ主義デゴザイマス、蓋シ我國鐵道ノ一部ヲ民業ニ委スルトノ政策ヲ採リマシタノハ、實ハ當時財政ノ許サナカッタノト、軍事上、經濟上、一日モ猶豫ノナラス急務デアッタノ爲デゴザイマス、是ハ已ムコトヲ得ザル措置ニ出タノデ、主義方針デハ無カッタト考ヘマス、即チ民業ニ特許スルニ當ッテモ皆行ク行クハ國有ニ歸セシムルトノ條件ガ保留シテアッタノデゴザイマス、故ニ我國鐵道國有ノ主義ハ始終一貫シテ居ルノデ、假令此萬已ムヲ得ザルノ時勢ニ遭遇セザルモ自ら遂行セネバナラスコトデアッタト考ヘマス、尙序デニ一言イタシマス、韓國ニ於ケル鐵道ノ如キモ私設鐵道、軍用鐵道、併存シマシテ其軍用管理ノ統一ヲ缺キマスルハ策ノ得タルモノデゴザイマセヌ、殊ニ彼ノ京釜鐵道ノ如キ最モ重要ナ

ルモノデアッテ、一日モ此儘ニ致シテ置クコトハ出來ヌノデゴザイマス、即チ此度買収法案ヲ提出イタシマシタ所以デゴザイマス、尙ホ兩案ニ付キマシテハ其詳細ハソレノ主務大臣ヨリ説明ヲ致サセマス、諸君、此兩案ハ衆議院ニ於テハ大多數ヲ以テ通過イタシマシタ、以テ民意ノ在ル所ヲトスルニ足ルト者ヘマス、本院ニ於キマシテモ願ハクハ慎重ナル審議ヲ遂ゲラレ、速ニ御協賛アラムコトヲ冀ヒマス

○西村亮吉君 私ハ此鐵道國有法ニ付キマシテ總理大臣ト大藏大臣ト遞信大臣ト陸軍大臣トヨリ御答ヲ願ヒタウ存ジマス、總理大臣ニ質問イタシマスルハ段々唯今御述ベニ相成リマシタガ、現今ノ國家財政ノ情況ニ付テハ斯クナツテ居ル、是デ鐵道ヲ國有ニスルニ付テ國債ヲ四億七千九十八萬六千餘圓増發ヲシテモ、國家ノ財政ニ於テ何モ差支ナイト云フコトノ御演說ハ伺ヒマセナンダ、又衆議院ニ於テ段々質問ニ御答ニナツテ居ル中ニモ右等ノコトハ見エマセヌ、ソレデ總理大臣ハ此鐵道ヲ國有ニスルハ京濱鐵道ヲ敷設スル時ニ既ニ國有ノ主義デアアル、國家一日モ猶豫ハナラヌト云フコトノ様ニ述ベテ居ラレマスルガ、國家ノ財政ハ之ガ爲ニ如何様ニナツテモ差支ナイ、顧ミスト云フ御考デアアルカ、又遞信大臣ノ經畫セラレタル計算ハ、何ヲ根據トシテ調査シタルモノデ、確實ナモノト云フコトヲ御認メニナツテ居ルカ、此事ヲ總理大臣ニ伺ヒタイ、ソレカラ其次ハ陸軍大臣ニ御伺ヒヲシタイ、陸軍大臣ガ衆議院デ御述ベニナツテ居ル所ヲ見ルト、敵ガ紀州半島ヘ上陸シタモノト假定シテ、鐵道ハ國有ヲ最必要トスルト云フコトヲ御述ベニナツテ居リマスルガ、此紀州半島ニ敵ガ上陸スルト云フコトニナルト、我海軍ハ全滅シタモノト見エバナラヌ、所ガ我海軍ハ世界ニ有名ナル東郷大將ノ現職ニ居ラル、又其他智勇兼備シタ海軍大將中將幾ラモ居ラル、其上ニ日英攻守同盟トナツテ居ル以上ハ、東洋ノ海上ハ實ニ萬全デアルト思ヒマスガ、サウシテ見ルト紀州半島ヘ敵ノ上陸スルト云フコトハ萬々無イ、萬々無イト見タトキニハ此一地方限リ交通シテ居ル鐵道ハ國防上ニ必要ハアルマイト思ヒマスルガ、ソレデモ必要ガアルト云フ御見込デアアルカ、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラ其次ハ大藏大臣ヘ御伺ヒヲシタイ、大藏大臣ハ衆議院ニ於テ述ベラレテ居ル所ヲ見ルト、遞信大臣ノ經畫セラレタ計算ニ御疑ガアルヤウニ見エル、皆様モ速記録デ御承知ニナツテ居ルコトと思フガ、遞信大臣ノ計算デ見ルト、四十年スルト鐵道公債ヲ償却シテ仕舞ウテ何ボ餘リガアル、斯ウ云フ計算デアアル、此計算ト

云フモノガ間違ヒデアレバ固ヨリ財政ノ方ハ崩レテ仕舞フト言フコトヲ言ウテゴザル、シテ見ルト大藏大臣ハ此遞信大臣ノ經畫セラレタ計算ニ於テ信ヲ置カレテ居ラヌモノト見ラル、此計算ニ信ヲ置カレテ居ラズシテ之ヲ贊成シテ何所マデモ徹底セヌナラヌト云フコトハ、ドウ云フ譯デアラウカ、之ヲ伺ヒタイ、ソレカラ遞信大臣ニ御伺ヒヲシタイノハ、遞信大臣ハ財政上ニ付テハ大藏大臣ガ御答ニナルデアラウカラト云ウテ財政上ニ付テハ御答ハ避ケテゴザル、遞信大臣ハ國務大臣トシテ財政ノ上ニ付テ此四億七千九十八萬六千餘圓ノ公債ヲ發行シテモ差支ハ無イ、一向財政上ニ影響ヲ及ボサヌト云フノ御認メニナツテ居ルカ、而シテ此計算ハ根據ノ確實ナル計算デアアルカ、何ヲ根據トシテ計算ヲ立テラレテ居ルモノカ、之ヲ段々統計ニ依ッテ調べテ見ルト遞信大臣ノ御調ベニナツタモノデ、之ヲ國有トスル初年ニ於テ非常ノ利益ニナル、尤モ此三十七年三十八年ハ戰爭中ヲ輸送モ多イカラ、ソレハ見合ヒニ取ラナイ、三十六年ヲ見合ヒトスル、三十六年ハドレ程ノ利益ニナツテ居ルカト云フコトヲ見ルト、千九百九十九萬七千六百九圓ト云フモノノ利益ニナツテ居ル、之ト比較シテ見ルト官有ニ移シタ初年ハ四百五萬七百八十九圓ト云フ利益ニナツテ居ル、之ヲ十年遡ッテ見ルト、一年モソノ利益ト云フモノハ無イ、實ニ是ハ不思議千萬ナ計算デアルト言ハネバナラヌ、是カラ唯鐵道ヲ國有トシタ曉ニハドレ位利益ガアルカト云フト、初年ニハ三十一萬六百三十七圓、ソレカラ段々ト推シテ行クト十六年目ニ六十萬二千五百七十六圓ニナル、國有ニナルトエライ利益ガ少イ、發達ガ少イ、ソコデ民有カラ國有ニ移ッタ時ハ非常ノ利益ニナル、ト云フハドウ云フ根據ニ依ッテ遞信大臣ハ斯ノ如キ御調ベニナツテ居ルカ、甚ダ分ラヌ、ドウゾ是ダケヲ總理大臣、陸軍大臣、大藏大臣、遞信大臣ヨリ御答ヲ願ヒタイ

〔國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 唯今ノ西村君ノ御質問ニ御答イタシマス、今日此鐵道ヲ國有ニ致シタ所デ財政ニ於テ差支ガ無イカト云フ御尋ノヤウニ考ヘマス、差支ハ無イノデゴザイマス、如何トナレバ此鐵道國有ニ要スル公債ト云フモノハ是ハ生産的ノモノデゴザイマス、即チ御參考トシテ差出シマシタ書付ニ就テモ御覽ニナツタコト考ヘマスルガ、生産的デ當ニ今日ノ財政ニ差支ナイノミナラズ四十四年ノ終リニ至ッテハ總テ此元利ヲ拂ヒマシテ、尙ホ國庫ノ收入ヲ五千萬以上モ増スト云フノデアリマス、故ニ私ハ是ハ差支ナイ

ト考ヘル、又逕信大臣ノ計算ニ於テハ疑ヒハ容レヌカ、是ハ信ジテ居ルカ如何デアルカト云フヤウナ御尋ト記憶イタシマスルガ、苟モ本大臣ガ勅許ヲ得マシテ之ヲ國會ニ差出シマスル以上ハ斷トシテ一點ノ疑ヒハ懷イテ居ラヌノデアリマス、ソレカラ初期……初年ヨリ鐵道國有デアッタ云々ハ如何デアアルカト云フヤウナ御尋デアッタト考ヘマスガ、唯今私ノ申シマシタノハ維新ノ當初ニ新橋橫濱間京都神戸間ニ官設ヲ致シタニ端ヲ開イタト申シタノデ、如何ニモ端ヲ開イタモノデ、是ハ民設デハナイ、即チ政府ガ架ケタ即チ鐵道國有ハ此時ニ端ヲ開イタト言ッテ差支ナイノデアリマス

○西村亮吉君 尙ホ伺ヒタウゴザイマス、總理大臣ハ此計算ハ確實ノモノト認メテゴザルト申サレルナラバ、此國有トナルト從前無イ利益ガ四百萬モアル、ソレハドウ云フ譯デ是ダケアルカト云フコトヲ御述ベニナラナカッタ思ヒマスガ、ドウ御確メニナリマシタカ、伺ヒマス

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) ソレハアタハサウ御考デアリマセウガ、其委細ハ當局ヨリ辯明イタシマス

○西村亮吉君 ソレデハ總理大臣ハ仰シヤラナイ……

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) ソレハ當局ヨリ御答イタス

〔登壇登壇ト呼ブ者多シ〕

○男爵伊達宗敦君 唯今總理大臣ノ西村君ノ質問ニ御答ノ中ニ、參考書ヲ回シテ置イタト云フコトデゴザイマシタガ、私ドモハ其參考書ハ文書函ニモドコニモ見エヌヤウニ思ヒマスガ、是ハ各員ニ御配付ニナッタモノデアリマスレバ私ドモヘモ頂戴ヲ願ヒタウゴザイマス

〔國務大臣山縣伊三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山縣伊三郎君) 唯今御尋ノ參考書ハ今日一般ニ御同シスルコトニナツテ居リマス

〔ソナナラ無理デセウト呼ブ者アリ〕

ソレハ少シク印刷ノ都合ガアリマシテ後レタノデゴザイマスカラ此段申上ゲマス

○男爵伊達宗敦君 ドウカ成ルタケ速ニ願ヒタウゴザイマス、人ニヨルト持ッテ居ルカノヤウニ承リマスガラ、是ハ公平ニ行渡ルヤウニ願ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 私モ細カイ質問ハ致ス積リハアリマセヌガ、唯一言質問ヲ致シタウゴザイマスガ、今總理大臣ノ御演說中ニ京濱ノ鐵道或ハ明治二

十五年ノ敷設法ニ廻ッテ鐵道ノ國有ハ我が主義デアッタト云フコトヲ御説明デアリマシタガ、本員ノ伺ヒタイノハ昨年即チ前議會ニ提出サレマシタ鐵道抵當法案及工場抵當法案ト云フモノハ、其主義ハ私ガ考ヘルニハ民業ニ委ネ、サウシテ抵當ニシテ外資或ハ内債ト云フモノノ融通ノ途ヲ付ケルト云フコトデ昨年ノ……マダホンノ昨年ノ議會ニ提出サレタバカリデアリマス、實ニ主義ト云フモノガ朝令暮改ト云フナラバ構ヒマセヌガ、或ハサウ云フ大問題ハ或ハ民業ニシテ抵當法案ノ如キモノヲ出サレテ、或ル會社ナドハ外債マデ成立シテ居リマス、サウスルト政府ハ民業ノ發達ヲ期スルノデアアルカ、或ハ國家的社會政策ヲ取ラレルノデアアルカ、實ニ民業ガ今後折角發達セムトスル時ニ當ッテ民間ニ於テハ迷フノデアアルカラ、政府ハ根本……主義トシテドウ云フ主義ヲ御取リニナルカ伺ヒタイ、昨年ノ鐵道抵當法案ハアレハ一時萬已ムヲ得スト云フ點ガアリマシタカ知レマセヌガ、サウトスレバ、其萬已ムヲ得ザルト云フ點ヲ此處デ委シク御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、本員モ大ニ迷フ所ガアリマス

〔國務大臣寺內正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(寺內正毅君) 唯今西村君ノ御質問ノ一箇條トシマシテ、軍事上ノコトニ付テハ私ヨリ説明ヲセヨト云フコトガゴザイマスカラ、一言説明申シマス、此鐵道ヲ國有ニ致シマスルニハ國防ニ如何ナル關係ヲ持ツカト云フコトハ私ガ喋々辯ジマセヌデモ御分リニナツテ居ルコトデアラウト思ヒマス、即チ全國ノ兵要ノ地點ヲ鐵道ヲ以テ連絡イタシマシテ、此鐵道ガ脈絡系統ヲ一ニシテ圓滿ニ使用サレルノハ國防ノ爲ニ必要ナルト云フコトハ申スマデモ無イ、唯今ノ御質問中ニ過日衆議院ニ於キマシテ軍事上鐵道國有ノ必要ト云フコトニ付キマシテ私ガ所見ヲ述ベテ置キマシタ、其節一ノ例ヲ假定イタシマシテ軍事ノ點カラ鐵道ヲ使フトキニハ斯ウ云フモノニナルト云フ一ノ例ヲ假定シテ述ベテ置キマシタ、サウ致シマスルト唯今ノ御尋デ見マス帝國ニハ儼然タル海軍ガアル、此海軍ガ全滅セヌ以上ハ敵ハ決シテ我國ニ上陸スルモノデハナイ、恰モ語ヲ換ヘテ言フト陸軍大臣ハ此海軍ヲ蔑視シタ、或ハ國防ノ上ニ付テ悲觀の考ヲ持ッテ居ル、斯ウ云フヤウナ御考ヘデアラウト推察イタシマス、本大臣ハ此海軍ノ優勢ナルコトヲ承知シテ居リマス、又威力アル海軍ト云フコトモ深ク承知シテ居リマス、又今日ノ海軍ヲ統治スル人ガ總テ經驗ニ富ミ智謀ニ富ンデ居ルト云フコトモ能ク承知シテ居リマス、是等

ノ事ニ付テハ一點ノ疑モ持チマセヌ、併ナガラ國防ヲ經畫シマスル上ニ就テハ我ノ爲スコトハ彼モ爲スモノト考ヘテ十全ナル慎重ナル注意ヲ以テ國防ヲ經畫スルト云フコトガ當然デアラウト考ヘル、其一例ヲ舉ゲテ申シマスレバ、古イ例ヲ取ルニハ及バナイ、近イ所ノ例ヲ取ッテ見マスレバ、恰モ一昨年第二軍が金州半島ニ上陸シマシク時ハ如何デアアル、彼ノ時ハ露西亞ノ海軍ハ全滅シテハ居リマセヌ、我が海軍ハ十分優勢ナル力ヲ有ッテ居リマシタガ、露西亞ノ海軍ハマダ其時ハ勢力ヲ失ッテハ居リマセヌ、然ルニ敵ガ我海軍ト相對シテ居ル所ノ距離ヨリ僅ニ五十里ヲ隔タリマシタ所ニ於テ一ノ陸軍ガ上陸ヲサヒマシタ、即チ鹽大澳ヨリ陸軍ヲ上陸サセマシタ、恰モ我海軍ト敵ノ海軍ト相對シテ居ル時ニ上陸シタノデアリマス、此一例ヲ以テ見マシテモ凡ソ此我ノ爲シ得ルコトハ敵モ爲シ得ルモノト云フコトヲ考ヘテ國防ノ經畫ヲスルコトガ當然デアラウト私ハ考ヘル、サウ云フ次第デゴザイマシテ、決シテ此海軍全滅ノ後デナケレバ敵ハ我が領土ニ向ッテ一步モ足ヲ染メルコトハナラヌモノデアルト云フノハ餘リ輕卒ニ考ヘタ判斷デアラウト考ヘマス、此邊ヲ能ク慎重ニ考ヘテ國防ノ經畫ヲスルト云フコトガ我が國威ヲ確乎ト保存スル上ニ就テ大ニ必要デアラウト私ハ考ヘマス、是ダケ申上ゲマス

○子爵谷干城君 一ツ陸軍大臣ヘ伺ヒタイデアリマスガ、此明治二十五年ノ鐵道會議ガ初メテ開ケタ時分ニ、私ハ日本ノ鐵道ノコトニ就テ建議案ヲ官ヘ提出シテ、サウシテ鐵道ノコトニ就テハ大ニ意見ヲ述ベタノデアアル、ケレドモ遂ニ其時分ハ頻ニ其鐵道ヲ私設鐵道ヲマア獎勵スルヤウナコトデ、私ドモノ考ヘトハ殆ド反對デ、サウシテ其時分ニハ僅ニ全國ニ松山アタリノ狹軌ヲ通ジテ、サウシテ千八百哩ホカ架ッテ居ラス、ソレ故ニ今陸軍大臣ノ申サル、通りノ主義ヲ以テ鐵道ハ最モ軍事ニ必要デアアル、ソレデ此要港要塞其他衛戍地等ニハドウシテモ此廣軌鐵道ニシテ置カネバ船ノ速力ト鐵道ノ速力ハ今ノ所デハ逆モ追ッ付カナイ、ソレ故ニ餘ホド考ヘテ建議ヲシマシタガ、多ク其攻撃者、私ニ反對者ハ陸軍ノ諸君デアッテ、唯海軍ノ代表者タル有馬新一君ガ全然私ノ論ヘ御同意デアッタ、是ハ速記録ニ其通りアル、過日陸軍大臣ノ衆議院ニ於テ委員會デ多分アリマシタラウカ答ヘラレタ所ノ……ドウシテモ此軍事ニ必要デアリ統一セヌナラヌ、所デ其今ノ所デハ一大隊ヲ切レ切レニシテ發送セネバナラヌト云フ理窟ニナル、ソレデドウシテモ之ヲ大ニ改良シテ一列車ニ千人ヲ積載スルコトニシナケレバナラヌ、ソレ等

モ此改良ガ必要デアルカラ政府ハ買收シナケレバナラヌト云フヤウナ御説ガアッタヤウニ見エマス、若シ果シテ其通り一列車ニ輸送スル軍人ヲ千人ト積ルナラバ、唯今ノ三尺三寸ノ軌道デハ逆モ出來ナイ、サウスレバ矢張り歐羅巴ニ行ハレテ居ル普通ノ狹軌、即チ四尺八寸ノモノニ改良セネバ出來マイト私ハ考ヘテ居ル、サウスルト此買收シタ曉ハ、私ドモノ從來考ヘテ居ル通りニ追々政府ニ於テ廣軌ニ改良ナサル思召デアラウカト推察スル、之ヲ伺ヒタイ

〔國務大臣寺內正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(寺內正毅君) 谷子爵ノ御問ニ對シテ御答イタシマスガ、鐵道會議デ子爵ト會議ヲ同一ニシテ居リマシタコトハ私モ大分ノ間、御同席ヲ致シマシタ、唯今ノ御説ニ就テハ經過ヲ能ク記憶イタシマセヌガ、陸軍トシマシテ此鐵道ガ國防ニ必要デアアル爲ニ此建設ニ反對シタコトハ一モ無イノデ、唯此經濟上ノ趨勢カラ私設鐵道ヲ許サレタト云フコトデゴザイマスガ、ソレハ私設鐵道ニシマシタ所ガ無イヨリ宜シイノデ、陸軍トシテハイッデモ此鐵道ガ非常ニ國防ニ害ガ無イ限リハ皆贊成シテ成立タセタ譯デアリマス、又記憶シマス所ニ依リマス、子爵ノ廣軌鐵道ト云フコトハ其時分、中山道ハ廣軌鐵道ガ宜カラウト云フ御議論デアッタカト思ヒマス、是ハ私ドモ確ニ反對イタシマシタ、ソレハ全國ヲ通ジテ鐵道運輸ヲスル目的カラ申セバ、或ル一部ダケ廣軌デアッタ所ガ效用ヲ爲シマセヌカラ、其當時ハ反對イタシマシタ、又過日衆議院ニ於キマシテ鐵道運輸ノ材料ノ區々ナル、竝ニ材料ノ小ニ過ギル、細カクナッテ居ルト云フ趣意カラ自然軍隊ヲ輸送スルニハ兵語デ申シマスト單位、戰鬪ノ單位ニ區分シマシテ輸送スルノハ困ル、ソレデ千人クラ井即チ一大隊グラ井ナモノヲ一列車デ送リタイト云フコトヲ私ハ申シマシタ、是ハ今ノ鐵道デモ材料……希望通りノ材料ガゴザイマスルノト又機關車ヲ……相當ノ有力ナ機關車ニシマスレバ今ノ軌道デモ出來マスガ、奈何セム今日ハ多數ノ小會社カラ成立ッテ居リマスルノデ、材料ガ殆ド齊一ノ物ヲ以テ軍事輸送ノ目的ヲ達シヤウト云フコトハ甚ダ困難デアリマス、故ニ此材料ヲ採集メマスルト、唯今ノ貨車デ申セバ十人ナリ二十人ナリ三十人ナリト云フヤウナモノガ多イノデアリマス、兎ニ角此軍隊ノ單位ヲ極メタ一大隊ト云フモノヲ纏メテ乗セルダケノ材料ヲ得ルノニ甚ダ困難イタシマス、ソレ等ノコトハ鐵道ヲ統一シマシテ總テノ材料ガ略目的ニ適フヤウニシヤウト云フコトハ、

平素運輸ノ上ニ必要ナルノミナラズ又軍事ノ上ニ於テモ必要デアリマス、相俟ッテ其目的ヲ達セラレバデアラウト云フコトヲ申シマシタ、委クハ速記録ニゴザイマスカラ前後御通覽ニナリマシタラ、私ガ述べマシタ所ノ趣意ハ能ク御分リニナリマセウト考ヘマス

○子爵曾我祐準君 總理大臣ニ廣澤伯爵ノ問ハレタコトニ就テ是非御答辯ヲ得ナケレバナラヌト思ヒマス、今日ハ大體、實ハ成ルタケ廣澤君ノ問ハレタ如キ問題ニ此質問ハ致シタイト思ヒマス、ドウカ速ニ御答辯ヲ願ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 本員モ請求イタシマス、ドウゾ御答辯ヲ願ヒマス

〔國務大臣山縣伊三郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山縣伊三郎君) 唯今ハ廣澤伯爵ヨリ昨年鐵道抵當法案ヲ出シテ今年鐵道國有法案ヲ出シタノハ大ニ矛盾シタ譯デハナイカト、斯ウ云フコトデアリマルガ、鐵道抵當法案ヲ昨年提出イタシマシタノハ一時權宜ノ方法トシテ外資輸入ノ途ヲ開ク積リデアッタノデアリマス、又此鐵道ノ國有主義ハ從來政府ノ執來ッテ居ル主義デアリマシテ、既ニ御承知ノ通り去ル二十四年、二十五年、其後鐵道敷設法竝ニ私設鐵道法案ナドガ出マシテ、早晚國有ニナルト云フコトハ、是ハ分リ切ッテ居ル譯ナノデアリマスカラ、ソレデ今日ハ之ヲ國有ニスルト云フ、即チ必要ノ時機ガ來タノデアッテ、此必要ナル理由ガアル爲ニ此法案ヲ提出イタシタノハ何等矛盾シタル所ハ無イト考ヘマス

〔子爵谷干城君議長、チヨットト呼ブ〕

ソレカラ西村君ノ御問ニ就テ、序デニ答ヘテ置キマスルガ、私ガ衆議院ニ於テ財政上ノコトハ財政當局者ニ聞カレタラ宜カラウト、斯ウ言ウタト云フコトデアリマスルガ、是ハ法案ニ買收ノ時期ガ五箇年間ト定マッテ居ッテ、其中ニ初年ニハドレホド、二年デ、ドレホドト云フコトハ決メテアリマセヌノデス、是ハ財政ノ都合ヨリ此間ニ其狀況ヲ見テ買收スル等ニナッテ居リマスルカラ、其邊ノコトハ大藏大臣ニ聞イテ貰ハヌト分ラスト、斯ウ云フ次第デアリマスルカラ、何モ私ガ責任ヲ遁レタト云フ譯デハアリマセヌ、又此計算ガ確實ナリヤ否ヤト、斯ウ云フ御問デアリマシタガ、是ハ委員會ニ於テ十分御説明スルコトニ致シタ方ガ却ッテ御便利デアラウカト思ヒマス、數字ニ互ッテ徒ラニ此時間ヲ費ヤスト云フコトニ至ッテハ甚ダ恐入ル次第デアリマスカラ、其邊ハ委員會ニ御譲リ下サルヤウニ願ヒタウゴザイマス

○子爵谷干城君 唯今ノ陸軍大臣ノ御答ハ甚ダ要領ヲ得ヌデ間違ッテ居ル、御記憶ガ無イト思ヒマス、鐵道會議ノ速記録ノ第二號第三號ヲ御記憶ニナルナラバ、今ノ様ナ御答ハアルマイト思ヒマス、ト云フモノハ私ハ決シテ輕々ニヤッタノデハ無イ、ソレデ中山道バカリヤルノデ無イ、總テ此官線ハ廣軌ニスル、ソレカラシテ要港要塞、總テ兵ヲ置ク地ニ便利ナ方ハ皆其通リニスル、單ニ中山道ヲ廣軌ニスルト云フコトハ決シテ無イノデ、是ハ其二號三號ノ速記録ヲ御覽下サレタナラバ明ニ分ル、ドウゾサウ御承知ヲ願ヒタイ

○村田保君 本員モ總理大臣ニ少々伺ヒタイ、本員ノ見マスル所デハ、此鐵道法ト申シマスルモノハ餘ホド壓制法ト思フノデゴザイマス、其壓制法ト申ス理由ト申スモノハ第一、如何ナル事情ガアラウトモ政府ガ斷然無理ニ買上ゲテ仕舞フト云フコトト、ソレカラ此第九條ニゴザイマスル審查會、此審查會ノ決議ト云フモノハ、如何ナル決議ガアラウトモ之ニ對シテ不服ヲ言フコトモ出來ズ、謂ハユル訴願モ出來ナケレバ行政訴訟モ出來ヌト云フコトニナッテ居ル、斯ノ如キ法律ハ本員ノ見マスル所デハ唯今マデハ無イ、例ヘバ土地買收法デゴザイマシテモ、審查會ノ決議ト申シマスルモノニ對シテハ、是ハドッ云フ不都合ナ事ガアルカモ分リマセスカラシテ、其決議ニ對シテハ訴願モ許シテゴザイマスルシ、行政訴訟モ許シテアリマス、然ルニ此鐵道國有法ニ限リマシテハ、如何ナル事ヲ定メテモ訴願モ出來ヌ行政訴訟モ出來ヌト云フコトハ、如何ナル理由ヲ以テ斯ノ如ク御定メニナリマシタノデゴザイマスカ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ、又總理大臣ハ鐵道ト云フモノハ是ハ初メカラシテ國有ニ極ツタモノダト云フコトヲ仰セデゴザイマスガ、私ノ考ヘマスル所デハ、サウデアアルマイカト思フ、成ルホド最初ハ民間カラ出來マセヌカラ是ハ官ガヤッタニ違ヒナイ、併ナガラ既ニ此京濱鐵道デモ一時ハ之ヲ民間ニ拂下ゲルト云フコトノ御評議ガアッタコトガアラウト思ヒマス、又或ハ炭礦ノ如キハ最初官設デアリマシタノヲ、ソレヲ民間ニ拂下ゲタモノダト思フ、ソレ故ニ決シテ是ハ初メカラシテ是非國有ト云フコトニ決ッテ居ルノデハアルマイカト考ヘマス、ソレハ或ハ唯今ノ總理大臣ガ必ズ之ヲ國有ニスルト云フコトヲ御考ヘ付キニナッタモノデハナイカト思フノデアリマス、ソレデ此案ト云フモノハ恐ラク本員ハ前内閣カラノ引繼デ無クシテ唯今ノ内閣ニ於テ是ハ國有ト云フコトニ決メラレタコトデハアルマイカト思フ、ナゼト申シマスルト若シ是ガ前内閣カラシテ國有論ガ出テ居リマシタナラバ、昨年先キホド既ニ

廣澤君カラ質問ニナリマシタ鐵道抵當法ト云フモノハ出サヌ譯デアル、アノ鐵道抵當法ト云フモノハ私設鐵道ヲ大ニ盛ニシテ外資輸入ヲ大ニシヤウト云フ、アレハ目的ノモノデアル、ソレ故ニ私設鐵道ヲ盛ニシヤウト云フコトハ明ニ鐵道抵當法デ分ツテ居リマス、ソレ故ニ是ハ或ハ唯今ノ總理大臣ガサウ云フ御考ヘデハナイカト存ジマスルガ、初メカラ是非シナクテハナラヌト云フコトデハ無カッタ本員ナドハ思ヒマス、ソレト又總理大臣ノ仰セデゴザイマスルト云フト、四十四年後ニハ五千萬圓ノ歲入ヲ政府ハ増スカラト云フコトガ重モニナツテ居リマス、然ル所鐵道ト申シマスルモノハ、一體公衆ノ利益ノ爲ニ開ケタノダラウト思ヒマス、公衆ノ便利ノ爲ニ開ケルモノナラバ、ドウゾ買収ニナリマシタ後ニハ貨錢モ廉クシテヤルトカ、斯ウ云フ便利ガアルトカ云フヤウナコトハ、第一ニ御述ベニナラナクテハナルマイト考ヘマス、ソレデ本員ナドノ考ヘマスルノニハ、買収ニナリマシタナラバ運賃等ハ必ズ高クナリマス、却ツテ人民ノ迷惑ニナリハシマイカト云フ考ガゴザイマスルガ、併ナガラ何レ政府ハ之ヲ買収ノ後ニハ貨錢モ廉クスルト云フコトノ御考ヘダラウト存ジマスルガ、ソレナラバドウゾ此貴族院ノ議會ニ於キマシテ必ズ買収ノ後ハ貨錢ヲ廉クスルト云フコトノ斷言ヲナサレムコトヲ偏ニ希望イタシマス、是ダケヲ御答ヲ願ヒタイ、其他ノ事ハ色ミゴザイマスガ、ソレハ尙委員會ノ時ニデモ伺ヒマス

○伯爵德川達孝君 チョット私モ總理大臣ノ御答辯ノ前ニ申上ゲテ置キマスガ、唯今廣澤伯カラ根本的ノ質問ガアリ、曾我子爵カラモ色ミ御質問モゴザイマシタガ、今以テ御答ガゴザイマセヌガ、ドウゾ明瞭ニ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス、サウ致セバ村田君ノ御問ヒノ事モ自然分ラウト思ヒマスカラ、ドウゾ御答ヲ願ヒマス、若シ之ヲ明瞭ニ御答ガ無ケレバ、政府ニ於テハ根本的ノ御考ガ鞏固デナイモノト認定イタシマス外アリマセヌ

○伯爵廣澤金次郎君 本員モ總理大臣若クハ遞信大臣ノ御答辯ノ前ニ私ノ先程ノ質問ヲモウ一度繰返シテ明瞭ノ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス、今遞信大臣ハ私ノ質問ニ答ヘテ昨年ノ鐵道抵當法案ヲ提出、アレハ一時ノ權宜的ノモノデアル、即チ謂ハバ便宜ノ爲ニ一時ノ方便主義デアッタト云フ御答辯デアッタト思ヒマス、併ナガラ此鐵道抵當法案ト云フモノハ外資ト云フモノガ目的デアッタラウト云フコトハ諸君モ御同意デアラウト思ヒマス、既ニ或ル關西鐵道ノ如キハ外資ハ成立シテ居リマス、此外資ヲ仰グト云フコトハ必ズ鐵道

會社ヲ買収スル以上ハ外國人トノ關係ガアリマスカラ、成ルベクナラバ國有ト云フコトヲ首尾一貫スル以上ハ鐵道ヲ抵當ニシテ外債ヲ入ル、ト云フコトハ益、鐵道國有ニ付テハ不便ナコトデアラウト思ヒマス、加之外資ヲ輸入シタ其外資ノ資本家トナル者ハ何モ是ハ唯モ昨年ヨリ今日ニ掛ケ一年間、日本ニ放資シタイト云フ外資デハアルマイト考ヘマス、即チ二十年ナリ三十年ナリ長イ間ノ利息ヲ見積ッテ初メテ發行價格ト云フコトモ出テ來ル算盤ト思ヒマス、然ルニ政府ニ於テハ今日之ヲ國有ニシマスルト、此外資ノ資本家ト云フ者ガ如何ナル觀念ヲ起スカト云フコトヲ第一ニ聽キタイ、ソレト將來民業ニシテ斯ウ云フ風ニ、或ハ「マッチ」ノ專賣ト云フヤウナコトモ聞キ、或ハ砂糖ノ專賣ト云フコトモ聞キマス、一方ニハ政府ハ成ルベク外資ノ輸入ヲ獎勵シテ折角事業ガ成立ツヤウニナルト國家的社會主義ニ移替ッテ之ヲ政府ガ官營ニスルト云フコトニナルト、私ハ民業ト云フモノハ、何處ニ發達スルカト云フコトヲ懸念シマスカラ、將來ハ如何ナル主義ヲ執ラレルカト云フコト、今ノ鐵道法案ヲ出サレタ理由ヲ、モウ少シ委シク説明ヲ願ハヌト、私ハ本案ノ贊否ヲ決スルニ甚ダ苦ムノデアリマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

〔村田保君〕本員ハ總理大臣ニ伺フノデス、大藏大臣ニ伺フノデハアリマセヌ、總理大臣ニドウゾ願ヒマス〔ト述ブ〕

○國務大臣〔阪谷芳郎君〕 先刻西村君ノ御尋ノ中ニ、遞信大臣ノ計算書ヲ信ズルカト云フ御尋ガゴザイマシタガ、本大臣ノ衆議院ニ於ケル言葉ノ尻ヲ捉マヘテノ御尋ト思ヒマス、固ヨリ遞信大臣ノ計算ハ信用ヲ致シテ居ル次第デアリマス、此段ヲ御答ヲ致シマス、ソレカラ唯今廣澤伯ノ御尋ハ此工場抵當法案ニ關係ノ御尋デゴザイマスガ……

〔伯爵廣澤金次郎君〕工場デアアリマセヌ、鐵道デス〔ト述ブ〕

是非、總理大臣カラ御答辯ヲ求メタイト云フコトデアリマスレバ、本大臣ハ差控ヘマスガ、此關係ハ前内閣ノコトデゴザイマシテ、其當時カラノ事情ヲ申セト云フコトデゴザイマスレバ、本大臣カラ……

〔伯爵廣澤金次郎君〕求メマセヌ〔ト述ブ〕

併シ總理大臣ニ是非、答辯ヲ求ムルト云フナラバ……

〔伯爵廣澤金次郎君〕前内閣ノ御方針ノ御答辯ハ必要アリマセヌ〔ト述ブ〕

〔國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 唯今廣澤伯爵ノ御尋ネハ、鐵道抵當法案ヲ提出シテ外資輸入ヲ仰イダノデアラウ、外資ヲ放資スル人タチハ長イ間ニ利益ヲ收メムコトヲ期シテ居ッタノデアアル、然ルニ今日之ヲ國有ニサレテハ甚ダ迷惑デアアル、ソレハドウ云フ譯デアアルカト云フヤウヤウナ御尋ネデアッタト考ヘマスガ、サウデアリマスカ

○伯爵廣澤金次郎君 少シ違ヒマス、私ハ根本的ノ政府ノ主義ヲ伺フノデアリマス、即チ昨年ハ此民設、民業ト云フコトヲ獎勵スル爲ニ、鐵道マデモ外債募集ヲスルニ抵當ニシテ宜シイト云フ御方針ヲ執ッテ、今日ハ又直グト民業ハ根本的ニ認メナイ、鐵道ハ國有ニシナケレバナラヌト云フ、昨今ト今日ト一年ノ間ニ非常ニ政府ノ御方針ノ變化シタノハドウ云フ理由デアアルカ、政府ハ將來、國家的社會主義ト云フ政策ヲ無論御採用ニナルカト云フコトヲ明ニ伺ヒタイ

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 大層能ク分リマシタ、...

〔子爵曾我祐準君「總理大臣ノ說明ノ前ニ...」ト述ブ〕

○議長(公爵德川家達君) 總理大臣ノ發言中デアリマス

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 既ニ私ノ先程ノ演說中ニモ申シマシタ通り、一時官設デアッタモノヲ民有ニ移シタコトモゴザイマス、昨年其法案ナドモ出マシタガ、是ハ當時ノ財政ガ許サナカッタノデアアル、又經濟上軍事上ニ一日モ...官設デハ出來ヌカラ經濟ガ許サナカッタノデアアル、得ズ民業ニ移シタノデアアル、即チ主義方針デハナク權宜ノ處置デアッタノデアリマス、又外資輸入ノ爲ト仰シタルハ其通りデアッタノデアリマス、併シ是モ一時ノ權宜デアッタ、即チ遞信大臣ノ答辯セラレタ通り主義方針デハ無カッタ、主義方針ヲ今日カラ明ニ致シテ伯爵ノ御尋ノ如ク是カラ先キハ即チ國有ノ主義ヲ貫徹スルノデアリマス、是デ十分明カト考ヘマス

○子爵伊集院兼知君 本員ハ此席ヲ汚シマスコトハ未ダ時間ガ淺イコトデゴイマシテ、又經驗モ極ク乏シイ人間デゴザイマス、今度出マシタル鐵道法案ハ即チ國家ノ大事件ト私ハ思ヒマス、色々今マデ御說明ヲ承リマシタ、速記録ニモゴザイマスガ、此御說明ニ依リマスルト云フト、是ハ御考ガ順當ニ進ンデ行ッタ時ノ御說明デゴザイマス、斯クアレバ誠ニ本員モ満足至極ニ思ヒマスガ、世ノ中ノ事ハ順モアレバ必ズ逆ガアルモノデゴザイマス、若シ此逆

境ニ遭ッタ場合ニハ如何ナル御考ヲ以テ處理セラル、ヤ、如何ナル御覺悟ヲ以テ此逆境ニ處セラル、ヤ、本員ハ承リタイ、實ニ心配デ堪マラナイノデゴザイマス

○村田保君 總理大臣ニ御答辯ヲ願ヒマシタガ、私ノ質問ニハ御答辯ガゴザイマセヌガ、答辯ガ無イノヲ見マスルト、此内閣ハ實ニ壓制内閣ト認メルノ外ハ無イ

○男爵尾崎三良君 私モチヨット少シバカリ質問ヲシタイデスガ、サウ根本的ダノ何ノト、ムヅカシイコトハ言ヒマセヌガ、此鐵道國有ト云フコトハ本員等モ極ノ贊成デ、一體ノコトハ國有ニセヌナラヌト云フ論ナンデス、既ニ明治二十四年デアリマシタガ、松方内閣ノ時デ、私ハ即チ法制局長官ノ席ヲ汚シテ居リマシタガ、其節ニ内閣ニ於テ鐵道國有ト云フカ、買收ト云フカ、委員ヲ設ケラレテ、私モ其一人ニナリ、其時分ノ參謀次長ヲシテ居ラレタ川上陸軍中將モ委員ノ一人ニナラレテ取調ベタコトガアリマスガ、其時ニ若シ行ハレテ居ッタナラバ今日ハ非常ナ好都合ニナッテ居ルニ違ヒナイ、其時ハ既ニ九州鐵道ナドハ非常ナ悲境ニ陥ッテ、拂込ダケナラバ喜ンデ此買收ニ應ズルト云フコトデアリマシタ、然ルニ遺憾ナガラ内閣モ早ク更迭ニナリ、其意思モ貫徹ヲ致サズニ今日ニ在リイタシタ譯デアアルガ、併ナガラ本員等ガ其節調ベタトキニハ決シテ之ヲ強制的ニヤルト云フ論デハ無カッタ、即チ其持主、所有權者ト協定シテ之ヲ買收スルト云フ論デアッタ、又ソレガ適當ノ論デアラウト思ヒマスガ、然ルニ今度ノ此法案ヲ見マスルト一向サウ云フコトハ無イ、イヤデモ應デモ取上ゲル、斯ウ云フマア精神ノヤウニ存ジマスガ、成ルホド功ヲ急ガル、上カラバ斯ウシタイデモアリマセウ、併ナガラ是ハ頗ルドウモ文明ノ伍伴ニ入ッタ國トシテハ、スマジキコトデアラウト思フ、成ルホド法律決メタモノデアリマスカラ其法律ヲ改正スレバ無論、前ノ法律ハ無効ニナルト云フ道理ハ、ソレハマアドコマデモアル、サリナガラサウ云フ無理ニ人民ノ所有權ヲ侵害スルヤウナ法律ト云フモノハ、是ハ立憲國トシテスマジキコトデアラウト思フ、若シ此論ヲ推シ詰メテ見マスレバ、公債證書ノ如キモノモ法律決メタモノデアアルカラ、何時デモ法律改正スルコトガ出來ルト云フ論ニナル、成ルホド單純ナル法律論カラ論ズレバサウナル、法律デ五分ト決メテアルケレドモ、モウ本年ヨリ四分ニスル、斯ウ云フ改正ヲシタナラバ、矢張り其法律ハ效力ハアルデセウ、サリナガラ是ハ非常ニ國ノ

信用ヲ害シテ、今日立憲國トシテ各國ノ間ニ立ッテ各國ノ信用ヲ得テ居ル以上ハ、サウ云フコトヲスルノハ即チ國ヲ亡ボス所以デアル、成ルホド上下議院ニ於テ決シタ以上ハドンナコトデモ出來ルデセウ、ソレハ今日上下兩院ヲ通ジテカラニ磔刑ノ刑ヲ復スルコト云フ法律ヲ作レバ、ソレハ法律ダカラ決シテ無効デアルトハ言ハナイ、ケレドモ、サウ云フコトヲシタラバ如何デアリマセウ、是マデ日本ノ國ガ文明國ノ伍伴ニ入り各國ノ信用ヲ得テ來タモノハ、ドコモデモ地ニ墜チルデアラウト思フ、其様ナコトマデシテモ、ソレヲ急速ニシナケレバナラヌコト云フ論ハ無カラウト思フ、ガマアソレハ各ノ論デアリマスカラ茲デ論ジタ所ガ謂ハユル議論ニナリマスガ、質問ニハナリマセヌデゴザイマセウ、ソレデ之ヲ根本的内閣ノ主義ハドウダトカ斯ウダトカ云フコトハ是ハチト無理ナ話デアッテ

「ノー／＼」ト呼ブ者アリ」

内閣ノ人ト雖モ皆顔ガ變ッテ居ル以上ハ、意見ガ變ッテ居ルニ違ヒナイ、ダカラ此内閣ガ迷レバ又次ノ内閣ガドウ云フ論ヲスルカモ知レナイ、民有ニ拂下ゲルト云フ論ガ起ルカモ知レヌ、ソレハドウモ又法律決メル以上ハ構ハヌト云フコトニナルニ違ヒナイ、サウ云フコトハ無イヤウニ希望スルノデアリマスガ、併シ前々ノ仕來リヲ突キ止メテ、ソレハ斯ウダ、アレハドウダト云フヤウニヤッタナラバ、恐ラクハ今ノ内閣ノ、萬能主義ノ御方デモ、一々ソレヲ貫徹シテ御答辯ナサルト云フコトハ無理デアラウ、コレハマア仕方ガ無い、今日斯ウ云フ成行ニナッテ來タ以上ハ、サテソレハ強ヒテ答メマセヌガ、私ノ質問ハ極ク小サイノデス、此中ニハ既成鐵道バカリ擧ゲテアリマスカ、然ルニ其既ニ免許ヲ得テ未ダ設立ヲシナイ鐵道ガアル、例ヘバ横濱鐵道ト云フ如キモノハ、是ハドウナサルノデアリマスガ、私ノ質問ハソレダケ

「國務大臣山縣伊三郎君演壇ニ登ル」

○國務大臣(山縣伊三郎君) 尾崎男爵ノ御尋ネニ御答イタシマスルガ、唯今ノ横濱ノ鐵道ハドウスルカト云フコトデアリマスガ、是ハ此第二條第二項ニ掲ゲテアル通り、此末項ニアリマスル如ク「前條ノ規定ニ準シテ之ヲ買收スルコトヲ得」斯ウ云フノデアリマスルカラ、スルトセヌハ即チ之ヲ取調ベタ上デナイト茲デ明言イタス譯ニ行キマセヌ

○子爵伊集院兼知君 本員ガ誠心誠意ヲ以テ御尋ネ申シタコトニ付テ御答辯

ノ無イノハ、ドウ云フ譯デゴザイマセウ、若シ私ガ申シタ覺悟ト云フコトガ分ラスト云フコトナラバ、私ノ考ダケヲ申ス積リデアリマスガ、私ハソレダケノコトヲ言フ必要ハ無イト思フ、ドウゾ御答辯ヲ願ヒマス

「國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル」

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 唯今伊集院君ヨリ御質問デゴザイマスガ、是ハ國家ガ順境ニ處シタトキハドウデアアル、逆境ニ處シタトキハ如何スルト……

○子爵伊集院兼知君 サウデゴザイマセヌ、順潮ニ參ッタトキハ誠ニ結構デゴザイマス、何ノ質問スル必要ハ無イノデス、若シモ逆境ニ參ッテ國家ノ經濟界ガ壞亂シタ曉ニハ如何ニ總理大臣初メ内閣ノ諸公ハ如何ニ處置ナサル、カト云フコトガ非常ニ心配ナノデゴザイマス、之ヲ承リタイ

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 左様ナ境遇ニナリマシタトキハ、即チ有ラム限りノ智慧ヲ絞リ出シマシテ

「笑聲起ル」

有ラム限りノ勇氣ヲ奮ッテ國家ノ爲ニ盡力スルヨリ外ニ仕方ガ無い

○男爵伊達宗敦君 私ハ今質問イタス譯デハアリマセヌガ、先キホド村田保君ガ殊更ニ總理大臣ニ對シテ御質問ガアリマシタ、ソレニ對シテハ未ダ總理大臣ハ御答辯ガ無イヤウニ考ヘマスルガ、此案ノ通過ヲ御計リニナル上ニ付テモ、又議員ニ對シテハドウカ總理大臣ニハ——議員ノ中カラ總理大臣ニ說明ヲ請求シタ場合ニハ、成ルタケ懇篤明細ニ分ルヤウニ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、サウ致シマセヌト、他ノ國務大臣ガ出ラレタ場合ニ於ケマシテ、アナタハイケナイカラ引込メト云フヤウナコトハ言ヒ惡イノデゴザイマス、ドウカ總理大臣ニ對シテ質問ヲセラレタ議員ノアツタ場合ニハ、御苦勞デハゴザイマスルケレドモ細カニ懇篤ニ御答アルヤウニ致シタイ、私ハソレダケデゴザイマス、村田保君ニ對シテ總理大臣カラマダ御答辯ガ無イト考ヘマスカラ一應其事ヲ

「國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル」

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 唯今村田君ヨリ御質問ガゴザイマシテ、所ガ本大臣ガ未ダ此御答ヲ致シマセヌニ付キマシテ、伊達男爵ヨリ御親切ナル御演說ガゴザイマシテ、喜ンデ私ハ御答ヲスルノデアリマス、決シテ本大臣ハ議員諸君ニ對シテ、答辯ヲ各ム次第デハゴザイマセヌ、甚ダ御面倒デゴザイ

マスルガ、ドウカ村田君ニモウ一應極ク簡單ニ御質問ノ要旨ヲ其席カラ御述ベテ願ヒマス

○村田保君 本員ノ御尋不致シマシタノハ、總テ土地買収法デモ協議ガ調ハナイ、或ハ利益上ノコトニ付テ決定シマシタトキニ、ソレニ對シテ不當ナコト或ハ不都合ト認メタ場合ニハ訴願ト云フモノガ出來ル、内務大臣ニ訴願ガ出來ル、ソレカラ或ハ又ソレヲ不當ト見マスレバ行政裁判所ニ行政訴訟ト云フモノガ出來ル、是ハ總テサウ云フ權利、利益上ニ關シテハドノ法律デモ人民ニサウ云フ權利ガ與ヘテアル、獨リ此法案ノミニ於キマシテハ、ドノヤウナコトヲ審査會デサレマシテモ、訴願モ出來ナケレバ行政訴訟モ出來ナイト云フコトハ、餘程ヒドイコトニナツテ居ル、何故ニ此法案ハソレヲ御許シニナラスト云フコトヲ第一ニ御尋ネシタ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 其訴願ガ出來ル出來ヌ如何ニ付キマシテハ、私ハ甚ダ心得マセヌカラ、法制局長官ヲシテ御答辯イタサセマス

○村田保君 トウゾ、ソレデハ法制局長官カラ御答辯ヲ願ヒマス

○男爵尾崎三良君 チョット法制局長官ノ出ラレルマデ、御質問イタシタウゴザイマス、丁度遞信大臣ノ御序デスカラ、今鐵道免許ヲ得テ敷設セザル鐵道ニ付テハ如何アルカト御尋ネシタ所ガ、ソレハ買収スルコトヲ得ルト云フ箇條ガアルト云フ御説デシタガ、サウスルト買収シテモ、シナイデモ宜イコトニナリマス、其場合ニハドウ云フ價格ニ依リマス、ドウモチョット私ノ法案ノ見樣ガ粗漏ナノデアリマス、カ分リマセヌガ、若シ之ヲ協定ニ依ルコトニナルト既成鐵道ニ對シテハ強制執行デ値段ヲ定メテヤル、ソレヨリ何ト云ウテモ餘計ヤライ、此未ダ始メナイモノニ付テハ協定スルト云フコトニナルト、餘ホド其所ガ偏頗ニナルヤウニ考ヘマスガ、其所ハドンナモノデスカ、遞信大臣ノ御説ヲ伺ヒタイ

〔政府委員仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(仲小路廉君) 第一ニ村田君ノ御質問ニ向ッテ返答ヲ致シマス、御質問ノ要旨ハ審査會審査委員ノ決定ヲ終局トシテ居ルコトハドウデアアルカ、斯ウ云フコトデゴザイマシタガ、是ハ實際ノ情況ニ鑑ミマシテ、斯様ナ場合、徒ラニ紛議ニ紛議ヲ重ネ、尙ホ訴訟ニ訴訟ヲ重ネマシテ、非常ニ遷延ヲ致シマシテハ、實際ノ害モ容易デ無イト考ヘマス、之ヲ以テ終局ノ決定ト致シマスノデアリマス、ト申シマスモノハ大體ノ買収ノ價格ノコトナリ其

外ハ、大略此法律デ決ッテ居ルコトデゴザイマス、詰リ此審査會ノ決定ヲ經マスル場合ハ、大要此法律ニ極ッテ點ニ付テノコトデアリマス、實際ノ弊害ヲ鑑ミマシテ、徒ラニ遷延ヲ避ケル爲ニ之ヲ以テ終局ノ方法ト致シマスノデアリマス、ソレカラ尾崎男爵ノ橫濱鐵道ノ如キモノノ買収ノ價格ハドウナルカト云フコトハ、是ハ第八條ノ第二項ニ記載シテゴザイマス、即チ「第二條第二項ノ規定ニ依リ買収ヲ爲ストキハ其ノ價格ハ建設費以內ニ於テ之ヲ協定ス」之ニ依ッテ致シマス

○村田保君 本員ハ唯今ノハ甚ダドウモ感服シナイ御答辯デスガ、是ハドウモ議論ニナリマス、申シマセヌ、先キホド總理大臣ニ伺ヒマシタガ、マダアリマス、ソレハ賃錢ノコトデス、賃錢ヲ廉クスルト云フコトデゴザイマスガ、ソレハ今日議場ニ於テ總理大臣カラ買収スル上ハ必ズ賃錢ヲ廉クスルト云フコトヲ御斷言ガ出來マスルカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレカラ是ハ必ズ鐵道ト云フモノハ國有ニスルニ決ッテ居ル、今マデモ國有ニスルナクテハナラスカッテケレドモ、ソレハ財政ガ許サナカッタ、斯ウ云フコトデアリマス、ソレデ何レノ内閣デモ是ハモウ國有ニスルコトニ決ッテ居タヤウニ仰セデゴザイマスガ、本員ノ考ヘル所デハサウデ無イ、隨分官設鐵道モ賣拂ヒモスルシ、賣拂ハムトシタコトモアルシ、ソレノミナラズ昨年ナドハ私設鐵道ヲ大ニ獎勵シ、サウシテ之ヲ以テ外資ヲ輸入スルガ爲ニ特ニ鐵道抵當法ナドト云フモノモ出來テ居リマス、ソレ故ニ内閣ノ變ル度毎ニ違フノデ、是ハ必ズ今日鐵道ヲ國有ニスルナクテハナラスト云フコトハ、恐ラク唯今ノ總理大臣ノ御考ヘデハ無イカト云フコトヲ御尋ネシタイ、ソレカラ時機ト云フコトハ、今日ハ其時機ダ、是マデハ財政ガ許サナダト云フコトデアリマシタ、今日ハ財政ガ許スト云フ仰セデゴザイマスガ、既ニ此公債モ殆ド二十億カラノ公債ヲ募ッテ居ル、其上ニ又四億五億ノ公債ヲ發スルト云フコトハ、ソレデモ今日ハ時機デゴザイマセウカ、ソレヲ一ツ伺ッテ置キタイ

〔國務大臣侯爵西園寺公望君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(侯爵西園寺公望君) 村田君ニ御答イタシマスガ、此賃錢ノ差ガアル如何ト云フコトハ、是ハ矢張り政府委員カラ説明ヲ致サセマス、ソレカラ時機ト云フコトノ御尋ネデゴザイマシタガ、私本日ノ演説ニハ時機ト云フコトハ申シマセナンダノデゴザイマス

○村田保君 先程ハ今日ガ時機ダト云フコトヲ本員ハ伺ッテ居ル、今マデハ財

政ガ許サナカタガ、今日ハ財政ガ許スカラ今日ハ時機ダト云フコトニ伺ッテ居リマスガ、サウデハナイノデスカ

○西村亮吉君 チョット此御答ハ政府委員カラ願ヒタウゴザイマス、此鐵道國有ニナツタトキノ綿密ナ御計算モアリマスガ、此鐵道ガ總テ國有ニナツタ其時ニハ、特ニ收益ガ多イヤウデアリマス、其後三十七、三十八年ハ戰爭中デノルニ依ッテ、是ハドウモ平年ノ見合ヒニナラヌ、三十六年ヲ見合ヒトシテ計算シテ見ルト、鐵道國有ニナツタ其時ニハ、其一年ノ收益ト云フモノハ四百五十七百八十九圓ノ收益ニナツテ居リマスル、所ガ政府ガ之ヲ國有トシテ鐵道局デ之ヲヤッテ行クコトニナルト、至ッテ收益ガ少イ、初ノ三年ハ三十一万六千三百七圓バカリニシカナラナイ、ソレカラ少々増シテ三十六年度ニハ六十万二千五百七十六圓、是ハ漸々發達シテ行ク、所ガ今ノ會社カラ、國有トシテ引受ケテ、國有ニナツタ年ハ二百萬圓ノ收益ニナツテ居ル、是ハドウ云フ豫想カラ斯ウ云フ豫想ヲ立テラレタモノデアルカ、固ヨリ三十九年度ノ上半期ノ末日ヲ豫想シテ計算ニナツテ居ル、是ハ何カ其前十年間ニ何カ據ルモノガアレバ之ニ據ルモノデアルト云フコトハ認メラレル、ケレドモドレニモ當ラヌ、ドウ云フ譯ノ御計算デアルカ、ソレヲ伺ヒタイ、此御計算ヲ以テ總理大臣初メ確信シテ居ラレルト途方モ無イ間違デアラウト思フ

〔政府委員平井晴二郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(平井晴二郎君) 先刻村田君カラノ御問ニナリマシタ私設鐵道ヲ買收ノ上ニハ政府ハ運賃ヲ下ゲルノデアルカ否ヤ斷言ヲセヨ、ト云フコトデアツタト考ヘマス、政府ハ先刻內閣總理大臣カラ申述ベラレタル如ク此鐵道ヲ買收イタシマシテ何ニ資スルカト云ヘバ、即チ國家ノ商工業ノ發達ニ資スルノデアリマス、故ニ買收ノ上ハ運賃ヲ低減スルノ方針ヲ以テ許ス限リ下ゲルノデゴザイマス

○子爵會我祐準君 チョット平井サンニ伺ッテ置キマス、御下ゲニナツタラ、例ノ三十九年度ニ償還スルト云フ所ノ勘定ニ障リマセヌカ、ソレヲ伺ヒタイ、取ルモノヲ少クシテ拂ッテ行クモノガ澤山アレバ、ソレハ何ヨリ結構デゴザイマスガ、數ハサウ云フコトハ許サヌヤウニナリマスカラ、餘計御下ゲニナツタラ三十九年度ノモノハ五十年トカ、或ハトウノ還セヌヤウナコトニモナリハセヌカ、ソレヲ伺ヒタイ

○政府委員(平井晴二郎君) 唯今ノ會我子爵ノ御尋ニ御答イタシマス、本員

ハ決シテ政府ガ無謀ニモ賃錢ヲ下ゲルト申シタノデハゴザイマセヌ、數字ノ許ス限リ漸次賃錢ヲ下ゲテ行クト云フコトヲ申シマシタ

○子爵會我祐準君 其償還ノ標準ガ狂ヒヲ生ジハセヌカ、償還表ノ何割ヲ下ゲルコトニシテ、ソレヲ御指ヘニナツタノデスカ、伺ヒタイ

○政府委員(平井晴二郎君) 償還表ノ許ス範圍ニ於テ下ゲルノデゴザイマス○子爵會我祐準君 償還表ハ何割下ゲルコトニ表ガナツテ居リマスカ、ソレガ無ケレバ表ハ無用ナモノデス

〔伯爵柳原義光君「償還表ヲ持ッテ居リマセヌカラ分リマセヌナ」ト呼ブ〕

○政府委員(平井晴二郎君) 御答イタシマス、此償還表ニ於キマシテハ、私設鐵道ノ從來ノ運賃ヲ其儘襲用シ、費用モ亦私設鐵道ノ費用ト同額ノモノガ要ルト假定シテ拵ヘテアリマス

〔子爵會我祐準君「然ラバ違ヒマスナ」ト呼ブ〕

故ニデス、鐵道ヲ統一スレバ即チソレヨリ輕減シ得ル經費ト云フモノハ、必ズ湧イテ來ル、其範圍ニ於テ之ヲ輕減ヲ致シマスノデアリマス

○男爵尾崎三良君 チョットモウ一言遞信大臣ニ質問イタシタウゴザイマスガ、是ハ極小サナコトデゴザイマスガ、唯今成ルホド第八條ニ「第二條第二項ノ規定ニ依リ買收ヲ爲ストキハ其ノ價格ハ建設費以內ニ於テ之ヲ協定ス」トアリマスガ、若シ其會社ニ於テ其建設費以內デハ應ジナイ、謂ハユル協定ガ出來ナカッタト云フ場合ハドウナサル御積リデスカ、ソレヲ一ツ伺ヒタイ

○政府委員(仲小路廉君) 尾崎男爵ノ御尋ハ若シ協定ガ出來ナカッタドウナルカト云フ御尋デゴザイマシタガ、是ハ則チ第九條ノ第二項ニ其規定ガアリマス、「前條ノ場合ニ於テ協定調ハサルトキ」其時分ハ矢張り政府ハ審査委員ヲシテ之ヲ決定セシメマスル積リデアリマス

〔男爵尾崎三良君「ソレハ矢張り無理ニヤルコトデスカ」ト呼ブ〕

○政府委員(山之内一次君) 西村君ノ御尋ニ御答イタシマスガ、併ナガラ實ハ其能ク御尋ノ意味ヲ了解イタシマセヌノデアリマスガ、要スルニ此償還法ノ立テ、アル其本ハ數ハドウカ出タカト云フ意味デアラウト思フノデアリマスガ……

○西村亮吉君 チョット申シマス、此鐵道ガ國有ニナル……去年ノ益金デアリマス、其益金ノ御積リト云フモノハ二千三百十四萬八千三百九十三圓トナ

テ居ル、ソコデ之ヲ以テ三十七年、八年ノ收益ニ至ッテ歩合ハ取ラレヌ、ナ
ゼ取ラレヌカト云フト戰時中デアッテ輸送ガ多クナッテ居ル、其間ノ收益ハ見
ラレヌ、依ッテ三十六年度ノ益金ト云フモノト歩合ヲ取ルト三十六年度ノ益
金ハ千九百九萬七千六百九圓ト云フモノデアルカラ、ソコデソレヨリ多キコ
トガ四百五萬七千八百八十九圓ニナッテ居ル、ソコデ十年間立戻ッテ前年度ト比較
ヲ取ッテ見テモ、ソコナ收益ハ一年モ無イ、政府ガ國有ノ初メノ年ニ是レホ
ド收益ガアルト云フコトヲ認メラレタト云フコトハ三十九年度ノ前半期末日
ヲ以テ當テラレテ居ル、シテ見ルトソレハ何カラサウ云フ勘定ヲ御出シナサ
レタカ、實ニ不確實ナコトデハ無イカト考ヘル、ソレヲ各大臣ガ信セラレテ
居ッタキトニハ、實ニ財政上ニ非常ナ影響ヲ及ボス、ソレ故ニ御尋イタシマ
ス

○政府委員(山之内一次君) 御答イタシマス、先刻斯ウ云フ數字ニ互ッタコト
ハ成ルベク委員會デ御願ヒシタイト云フコトヲバ申サレマシタケレドモ、強
ヒテ御尋デアリマスルカラ、今ノ御尋ノ大體ノ要領ガ分リマシタカラ、ソレ
ヲ御答イタシマス、此所ニ掲ゲマシタ所ノ其三十九年度ノ下半期ノ初メ即チ
前半期ノ終リノ計算ハ之ニ認メテアルノデアリマスカラ、此出マシタ本ノ數
ハ即チ三十二年度乃至三十六年度ノ五箇年間ニ於キマスル所ノ開業線各半期
末ノ建設費ニ對シマスル所ノ同年間ノ益金合計ノ割合ヲ求メマシタ、ソレガ
即チ八分九厘トナリマス

〔西村亮吉君「何年間デスカ」ト述ブ〕

三十二年カラ三十六年ノ建設費ニ對シマスル所ノ益金平均ノ割合ヲ求メマシ
タノデ、ソレガ基礎ニナリマシテ、サウシテ又年々多少ゾ、平均ヲ致シマス
ルト増進シテ參リマスカラ、其益金ノ増進ノ歩合ト云フモノヲ一方デ見マシ
タ、其増進ノ方法ハドウシテ見タカト申シマスルト矢張り三十六年カラ遡ッ
テ是ハ成ルベク長イ間ヲ見ル方ガ確實デアルト云フノデ十箇年ノ増進歩合ヲ
見テ居リマス、即チ平均ヲ致シマシタ所ガ十箇年ノ間ニハ或ハ澤山増シタ年
モアリ、或ハ増シテ居ラヌ場合モアリ、又多少減額シテ居ル所モアリマシテ、
矢張り此十箇年ヲ平均シマスレバ即チ増進歩合ガ出マス、其増進歩合ト云フ
モノヲバ三十六年度マデニ平均歩合ガ年々増シテ參リマシタ其歩合ヲ、即チ
三十九年度ノ建設費ト認メマスモノニ掛ケマシタモノカラ、此益金ガ出テ參
リマスノデアリマス、三十六年度ヲナゼ取リマシタカト云フト三十七年、三

十八年ト云フノハ戰爭中ノ時代デアリマシテ、餘ホド其時ハ増シテ居リマス
ル爲ニ、將來ノ經畫ヲ考ヘマスルニハ成ルタケ確實ナ、ジミナ方ニ參リマス
ノガ最モ適當ト思ヒマシタガ爲ニ此戰爭中ノ時期ヲ省キマシテ三十六年度カ
ラ前ノ有様ヲ取リマシタ所以デアリマス

○伯爵柳澤保惠君 伺ヒタイノデアリマスガ、大分大體ノ御質問ガゴザイマ
シタガ、又細カイ計算ニ涉ル御質問モゴザイマシタガ、殊ニ細カイ數字上ニ
付テノ質問ハ、或ル一部ノ御方ハ參考書ノ配付ヲ受ケテ居ラレルカラ其參考
書ニ據ッテ御質問デアリマスガ、恐ラク大多數ノ議員ハ今ノ様ナ御答ガア
テモ參考書ヲ持ッテ居リマセヌカラ、何ノコトヤラ分ラヌノデアリマス、デ私
ハ此第三ノ鐵道國有法案ノ第一讀會ヲ御延バシニナッテ、即チ第四ノ右議案ノ
審査ヲ付託スル委員ノ選舉モ、次マデ御延バシニナラムコトヲ希望イタシマ
ス、之ヲ動議トシテ提出イタシ

○子爵谷干城君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成

○西村亮吉君 贊成

〔贊成「ト呼ブ者多シ」〕

○伯爵柳原義光君 柳澤伯爵ノ申サレマシタコトヲ細カニ申シマス、謂ハユ
ル參考書ナルモノハ我々ハ持ッテ居ラヌノデ、一部ノ方々ハ知リマセヌガ、斯
カル大問題ニ十分ニ伺フダケノ材料ヲ持ッテ居ラヌノデアリマス、願ハクハ
此重大ナル問題、國家ノ大問題ニ對シテハ、須ラク慎重ノ態度ヲ以テヤラナケ
レバナリマセヌカラ、今日ハ質問ニ止メテ置イテ、更ニ十分ニ豐富ナル材料
ヲ持ッテ大々的質問ヲヤッテ、其上デ委員付託ト云フコトヲ本員ハ切ニ希望イ
タシマス

○西村亮吉君 大贊成

〔贊成「ト呼ブ者多シ」〕

○議長(公爵德川家達君) 唯今、柳澤伯爵ヨリ第一讀會ヲ延期スベシト云フ
動議ガ出マシテ、贊成者ガアッタト認メマスカラ採決ヲ致シマス、柳澤伯爵
ノ動議ニ贊成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者

〔多數「ト呼ブ者アリ」〕

〔少數「ト呼ブ者アリ」〕

○議長(公爵德川家達君) 多數少數ノ判斷ヲ致シマスノハ議長ノ權ニゴザイマス、少數ト認メマス

〔多數デス、異議ヲ申立テマス〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ反對諸君ノ起立ヲ請ヒマセウ
起立者

〔モウ一遍、明ニ宣告ヲ願ヒマス、中ニハ誤解ノ方ガアルカモ知レマセヌカラ〕ト述ブル者アリ

○議長(公爵德川家達君) 多數ト認メマス

〔少數〕ト呼ブ者アリ

〔異議ヲ申立テマス〕ト呼ブ者アリ

〔氏名點呼ヲ願ヒマス〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 異議ノ申立ニハ定規ノ賛成ヲ要シマス、十名ノ賛成者ヲ要シマス

○伯爵廣澤金次郎君 異議ノ申立ヲ致シマス

○子爵谷干城君 賛成

〔賛成〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 定規ノ賛成者ガアッタト認メマスカラ、氏名點呼ヲ行ヒマス、チヨット申上ゲマスガ、御靜肅ニ願ヒマス、念ノ爲ニ諸君ニ申上ゲマスガ、唯今問題トナツテ居リマスノハ柳澤伯爵ノ動議デ、第一讀會ヲ本日ハ延期スル、斯ウ云フ動議ト議長ハ認メマシタ、ソレデ柳澤伯爵ノ動議ニ御同意ノ方ハ賛成、御不同意ノ方ハ反對ト御唱ヘニナルコトヲ願ヒマス

〔氏名點呼ヲ行フ〕

○議長(公爵德川家達君) 願ハクハ賛成、反對ヲ御大聲ニ願ヒタイモノデゴザイマス

〔氏名點呼ヲ繼續ス〕

○議長(公爵德川家達君) 氏名點呼ノ結果ヲ御報告ニ及ビマス、柳澤伯爵ノ動議ヲ賛成スル者、總數ヲ先キニ申上ゲマセウ、出席總數二百三十六、柳澤伯爵ノ動議ヲ可トスル者百五、否トスル者百三十一、斯ノ如キ結果デゴザイマスカラ柳澤伯爵ノ動議ハ否決セラレマシタ

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第四ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託

スベキ特別委員ノ選舉

○子爵高野宗順君 此選舉ノコトニ付キマシテ他ニ異存ハゴザイマセヌガ、何シロ隨分大問題ノコトデゴザイマスカラ、ドウカ十八名ノ委員ヲ選定セラレムコトヲ希望イタシマス

○村田保君 本員ハ此特別委員ノ選舉ハ正式ニ依リタイト思フ、ソレデ議會ノ初メニ於キマシテハ屢々正式ヲ用ヰマシテ、サウシテ各議員カラ致シマシテ記名投票ヲ以テ選舉ヲシタモノデス、然ル所隨分時間ト手數ヲ要シマスガ爲ニ議長ノ指名ト云フコトヲ議員カラシテ御依頼ヲシタノデゴザイマス、サウ云フ簡便法ガ出來マシタ所ガ、近年ニナリマスト段々ニ簡便法ガ出來マシテ、近頃ハ議長カラシテ此議案ハ議長ノ指名デ異存ハ無イカト議長カラシテ御尋ネニナルヤウナ簡便法ガ出來マシタ、誠ニ是ハ通常ノ議案ニハ至極宜イ方法ト存ジマスガ、斯ノ如キ重大ナル問題ハ矢張り正式ヲ用ヰマシテ議員カラ選舉スルコトガ宜カラウト思ヒマス、ソレニ付キマシテハ、ドウゾ委員ノ數ハ二十五名ニ致シマシテ、サウ致シテ此議事日程ノ終リマシタ後ニ、各部ニ戻リマシテ、各部デ選舉イタスト云フコトニ致シタイト思ヒマス、ドウゾ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

〔賛成〕ト呼ブ者アリ

○子爵曾我祐準君 本員ハ村田サンノ御説ニ少シ反對ヲ致シマス、成ルホド委員ノ選舉ハ色ミヤリ様モゴザイマスガ、近來ハ議長ニ御委託ヲ申スコトガ殆ド慣習ノヤウニナツテ居リマス、村田君ノ御説デ見ルト、ドウモ鄭重ニスルニハ自分デヤラヌナラヌ、議長ニ委託スルノハ不鄭重デアルト云フヤウニ聞エマシタガ、是ハ語弊デゴザイマセウ、ソレヲ強ヒテ御答メ申スデハアリマセヌガ、議長ニ委託スルノハ不鄭重ダト云フコトハ無イト思ヒマス、案ガムヅカシイカラ、サウシナクテハナラヌト云フコトモ無イヤウニ思ヒマス、二十七人ニスルト云フ高野子爵ノ御發議ニハ是ニハ賛成シマス、而シテ此選舉ハ議長ニ願ヒタイト云フコトヲ……

〔賛成〕ト呼ブ者アリ

○子爵谷干城君 高野君ニ賛成

○伯爵正親町實正君 私モ曾我君ノ説ニ賛成デ、委員ノ數ハ二十七名トシテ議長ノ選舉ニ御委託スルコトヲ賛成シマス

○伯爵廣澤金次郎君 本員モ曾我子爵ニ賛成

○男爵西五辻文仲君 私ハ高野君ニ賛成イタシマス

○南郷茂光君 高野君ニ賛成シマス

○子爵堀田正養君 唯今ノ會我君ノ御説ニ賛成デスガ、高野君ニチヨット確メマスガ、高野君ハ十八名ト言ハレタヤウデスガ如何デスカ

○子爵高野宗順君 十八名

○子爵堀田正養君 ソレデハ會我君ノ言ハレタ通り、正親町君ノ説ニ賛成且其選舉ハ議長ノ指名ト云フコトニ願ヒタイ

○男爵松平正直君 本員ハ議長指名ガ希望デ、會我君ノ發議ニ賛成、即チ正親町君ノ説ニ賛成デ、二十七名ノ委員デ議長ニ指名セラレムコトヲ希望シマス

○子爵岡部長職君 會我君ノ説ニ付テ數ニ於テ少シ疑ヒマシタガ、モウ一應ニ會我君ハ高野君ニ賛成ト云フヤウニ言ハレタヤウニ思ヒマスガ、尙モウ一應明ニ...

○子爵會我祐準君 本員ハ高野君ガ二十七名ト言ハレタト思ヒマシテ、ソレニ賛成シマシタガ、唯今承ル所デハ十八名ト言ハレタヤウデアリマスカラ、更ニ二十七名ヲ提出シマス

○議長(公爵徳川家達君) 議長ハ村田君ニ伺テ見タイト思ヒマス、村田君ノ各部選舉説ニハ賛成ガゴザイマシタカラ問題トナリマシタ、問題トナリマシタガ、各部デ二十五名ト云フト、部ハ御承知ノ通り九ツニ別レテ居リマスガドウ云フ方法ニナリマスカ、ソレヲ確メテ置キタイ

○村田保君 各部デ選舉スルト云フノハ各部デ選舉シマシタノヲ議長ノ御手許ヘ出シテ計算スルノデ、毎々サウ云フコトニナッテ居ル、恐ラクハ會我子爵モ選舉ヲナサツタコトハ無イダラウト思フ、以前ハ此下ニ投票用紙ガ這入ッテ居ッテ、ソレニ筋ガアッテ名前ガ書キ入レラレルヤウニナッテ居ル、初期ノ議會ニハ能クソレヲヤリマシタガ、其後ヤリマセヌカラ、恐ラクハ一期カラ御繼續ノ方ノ外ハ御存ジナイ方モアリマセウガ、貴族院ノ規則ト云フモノハ有名無實ニナッテ、ヤラヌヤウニナッテ仕舞ッタ、本員ハ議長ヲ疑フナドサウ云フコトデハナイ

○議長(公爵徳川家達君) 村田君ノ趣意ハ分リマシタカラ...

○村田保君 サウ云フ譯デゴザイマスカラ本員ハ決シテ議長ヲ疑フナドト云フコトハ無い、斯ウ云フ規則ガ出來テ居ルカラ、タマニハ規則ヲ執行スルガ

宜イ、正則ノ規則ヲ用非テ...簡便法ヨリモ斯ウ云フヤウナ重大ナ問題ノ時

ニハ正則ノ規則ヲ用非ルガ宜イト云フ...

○子爵會我祐準君 議長指名モ規則デアアル

○村田保君 簡便法デアアル

○議長(公爵徳川家達君) 採決イタシマス、高野子爵ノ動議ニハ賛成者ガナイト認メマスカラ問題ニナリマセスガ...

○子爵谷干城君 アリマス、私が賛成イタシテ居リマス

○伯爵柳原義光君 私モ賛成デス

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ賛成ガアリマシタカラ問題トナリマス

○子爵高野宗順君 私ハ唯今此コトニ就テ發議者ノ一人デゴザイマス、最初私が申シタ所カラ色々御論ガ出タノデゴザイマスカラ、チヨット申シ改メテ置キマスガ、私ハ之ヲ十八名ト云フコトニシテ議長ニ其人選ヲ御依頼イタシマシタノハ、即チ數ノ上デ九部ニ別ッテ居リマスカラ、一部ニ於テ二名ト云フコトデ十八名ト割リ宜イヤウニ實ハ致シマシタノデゴザイマスガ、數ニ於キマシテ二十七名ニナリマシテモ決シテ異存ハ無イト云フコトヲ改メテ私ハ申上ゲマス、十八名ト申シタノヲ改メテ申シテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 村田保君ノ各部ニ於テ選舉スルト云フ動議カラ決ヲ採リマス、村田保君ノ動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵徳川家達君) 少數ト認メマス、高野子爵ノ十八名説ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ハゴザイマセヌ、正親町伯爵ノ動議即チ委員ノ數ハ二十七名...是ハ議長ガ誤リマシタ、會我子爵ノ二十七名説並ニ其委員ハ議長ガ選定スル、其動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、是ヨリ直ニ指名ヲ致シマス、書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

「太田書記官長朗讀」

鐵道國有法案特別委員

侯爵黒田 長成君 伯爵正親町實正君 伯爵徳川 達孝君

子爵谷 干 城君 子爵井 上 勝君 子爵曾 我 祐準君
子爵岡 部 長 職君 子爵堀 田 正 養君 子爵三 島 彌太郎君
子爵牧 野 忠 篤君 男爵松 平 正 直君 男爵小 澤 武雄君
平 山 成 信君 男爵有 地 品之允君 男爵伊 達 宗 敦君
小松原英太郎君 男爵野 田 豁 通君 山 川 健次郎君
男爵佐 野 延 勝君 男爵紀 俊 秀君 南 鄉 茂 光吉
古 市 公 威君 藤 田 四 郎君 武 井 守 正君
磯 邊 包 義君 桑 田 熊 藏君 下 鄉 傳 平君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第五ニ移リマス、京釜鐵道買收法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省略イタシマシテ御異存ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ハ無イト認メマス

京釜鐵道買收法案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十九年三月十六日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

京釜鐵道買收法

第一條 政府ハ本法ノ規定ニ依リ明治三十九年ニ於テ京釜鐵道株式會社所屬ノ鐵道ヲ買收スヘシ
買收ノ期日ハ政府ニ於テ之ヲ指定ス
第二條 政府ハ買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務並收益勘定、積立金勘定及雜勘定ニ屬スルモノハ此ノ限ニ在ラス
第三條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス
一 拂込株金ノ六分ニ相當スル金額ヲ二十倍シタル金額
二 京仁線ニ於ケル明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ六營業年度間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケ

ル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額

前項第二號ニ於テ益金ト稱スルハ營業收入ヨリ營業費及收益勘定以外ノ諸勘定ヨリ生シタル利息ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合ト稱スルハ明治三十五年後半期乃至明治三十八年前半期ノ每營業年度ニ於ケル建設費合計ヲ以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノノ二倍ヲ謂フ

第四條 會社ニ於テ填補スヘキ社債發行ノ差損金ハ會社ノ負擔トス

第五條 左ニ掲クル金額ハ時價ニ依リ公債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

一 京仁線ニ繰替使用シタル金額

二 京仁線ノ債務ニシテ政府ヘ返還スヘキ金額

前項第二號ノ金額ハ買收ノ日ヲ以テ年五分ノ單利利引法ニ依リテ之ヲ算定ス

第六條 會社カ鐵道及附屬物件ノ補修ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ補修ニ要スル金額ハ前條第一項ノ例ニ依リ買收價額ヨリ之ヲ控除ス

第七條 權利義務ノ承繼ニ關シ又ハ計算ニ關シ會社ニ於テ異議アルトキハ政府ハ審查委員ヲシテ決定ヲ爲サシムヘシ

審查委員ノ決定ハ終局トス

審查委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 買收ノ執行ハ審查委員ノ審査中ト雖之ヲ停止セス

第九條 會社カ買收ニ因リテ解散シタルトキハ主務大臣ハ解散ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十條 買收代價ハ買收ノ日ヨリ二箇年以内ニ於テ券面金額ニ依リ五分利付公債證書ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未満ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

會社殘餘財産ノ分配ハ前項公債證書ヲ以テス
第十一條 政府ハ買收ノ日ヨリ公債證書交付ノ日ニ至ル迄買收價額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ニ相當スル金額ヲ從前ノ決算期毎ニ會社ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付シタル金額ハ清算中ト雖之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得
第十二條 政府ハ買收ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行ス

第十三條 政府ハ前條ニ依リ發行シタル公債及第二條ニ依リ承繼シタル債

務ノ整理ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ利率、募集ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前二條ノ公債ニ關シテハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外整理公債條例ヲ適用ス

第十五條 第五條ニ規定シタル公債時價ハ買收期日前六箇月間ニ於ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル

前項平均相場ハ日本銀行ノ證明ニ依リ政府之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○平山成信君 唯今ト同一委員ニ御付託ニナツテ宜カラウト思ヒマス

○伯爵正親町實正君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 平山成信君ノ同一委員ニ付託スルト云フ說ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガ無イト認メマス、休憩ヲ致シマス
午後零時二十四分休憩

午後一時十九分開議

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ午後ノ會議ヲ開キマス、議事日程第九、軍人恩給法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省略イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイモノト認メマス、寺内陸軍大臣
軍人恩給法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十九年三月十七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

軍人恩給法中改正法律案

軍人恩給法中左ノ通改正ス

第六條但書中「四十年」ヲ五十年ニ改ム

第九條第一號中「二肢以上」ヲ「二肢」ニ改ム

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條第一號ニ該當スル傷痍疾病ニ加フルニ同第一號乃至第六號ノ一ニ該當スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ其ノ症項ノ等差ニ應シ第三號表甲號又ハ乙號第一項ノ金額十分ノ六以內ヲ増給ス

第十四條中「輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者」ヲ「輕症ナル者」ニ改ム

第十五條中「十三箇年分」ヲ「十箇年分」ニ改ム
第一號表ニ別表一、第二號表ニ別表二ノ如ク追加シ第三號表ヲ別表三ノ如ク改ム

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治三十七年二月六日以降現役ヲ離レ増加恩給、賑恤金又ハ服役年數四十年以上ニ該當スル退職恩給若ハ免除恩給ヲ受クヘキ事由發生シタル者ニ給スヘキ恩給ニ付テハ本法ノ規定ニ依ル前項但書ニ依リ恩給ヲ受ケムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ三箇年以內ニ請求ヲ爲スコトヲ要ス

明治三十七年二月六日以降本法施行後一箇年以內ニ於テ第十四條ニ依リ賑恤金ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ現役ヲ免除セラレタル後重症ニ趨キ第九條第六號ヨリ輕キ者ハ其ノ請求ニ依リ策定ノ上相當ノ賑恤金ヲ給ス但シ其ノ請求期限ハ本法施行前現役ヲ免除セラレタル者ニ在リテハ本法施行後一箇年以內、其ノ他ノ者ニ在リテハ現役免除ノ日ヨリ一箇年以內トス

本法施行前恩給ヲ受クヘキ權利發生シタル者ニ付テハ第一項但書ノ場合ヲ除クノ外總テ從前ノ規定ニ依ル

(別表一)

四十一年	二十二百五	千八百七	千五百七	九百	六百七十五	三百三十八	二百七十四	二百二十五
四十二年	二十二百七	千八百九	千五百九	九百	六百八十三	三百四十二	二百七十八	二百二十七
四十三年	二十二百九	千九百一	千六百一	九百	六百八十七	三百四十六	二百八十二	二百二十九
四十四年	二十三百一	千九百三	千六百三	九百	六百九十一	三百五十	二百八十六	二百三十一

四十五年	一千三百五十五	一千八百八十	一千六百四十	一千七百七十五	九百四十	七百五	四百七十	三百五十三	二百八十二	二百三十五
四十六年	二千三百七	一千九百	一千六百六十	一千八百十八	九百五十四	七百十	四百七十五	三百五十七	三百八十五	三百三十八
四十七年	二千四百	一千九百二十	一千六百八十	二千二百	九百六十	七百十	四百八十	三百六十	二百八十八	二百四十二
四十八年	二千四百一	一千九百四十	一千六百九十	二千二百十三	九百七十	七百二十八	四百八十五	三百六十四	二百九十一	二百四十三
四十九年	二千四百五	一千九百六十	一千七百一五	二千二百二十	九百八十	七百三十五	四百九十	三百六十八	二百九十四	二百四十五
五十年	二千四百七	一千九百八十	一千七百三十	二千二百三十	九百九十	七百四十三	四百九十五	三百七十二	二百九十七	二百四十八

四十一年	百六十五圓	百五十五圓	百四十五圓	百二十圓	百十五圓	百十圓	百五圓	百圓
四十二年	百六十四圓	百五十八圓	百四十八圓	百二十三圓	百十七圓	百十二圓	百七圓	百二圓
四十三年	百七十圓	百六十圓	百五十圓	百二十四圓	百十九圓	百十四圓	百九圓	百四圓
四十四年	百七十三圓	百六十三圓	百五十三圓	百二十六圓	百二十一圓	百十六圓	百十一圓	百六圓
四十五年	百七十五圓	百六十五圓	百五十五圓	百二十八圓	百二十三圓	百十八圓	百十三圓	百八圓
四十六年	百七十八圓	百六十八圓	百五十八圓	百三十圓	百二十五圓	百二十圓	百十五圓	百十圓
四十七年	百八十圓	百七十圓	百六十圓	百三十二圓	百二十七圓	百二十二圓	百十七圓	百十二圓
四十八年	百八十三圓	百七十三圓	百六十三圓	百三十四圓	百二十九圓	百二十四圓	百十九圓	百十四圓
四十九年	百八十五圓	百七十五圓	百六十五圓	百三十六圓	百三十一圓	百二十六圓	百二十一圓	百十六圓
五十年	百八十八圓	百七十八圓	百六十八圓	百三十八圓	百三十三圓	百二十八圓	百二十三圓	百十八圓

第三號 增加恩給表

[illegible]

〔國務大臣寺内正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(寺内正毅君) 唯今提出イタシテ置キマシタ軍人恩給法ノ改正案ニ就キマシテ一言イタシテ置キマス、此恩給法ノ改正ノ内容ハ、負傷並ニ公務

ニ依リマシテ癡疾不具トナリマシタ者ノ増加恩給ノ額ヲ改正イタシタイト云
フノガーツデゴザイマス、是ハ是マデノ恩給額デハ甚ダ少量デゴザイマシテ、
今日ノ生活ノ上ニ於テ相當ノ體面ヲ維持シ生活スルコトガ出來ナイト認メマ
シテ、増加恩給ヲ増額イタシタイト云フコトガーツ、ソレカラ此退職恩給ヲ
支給イタシマスル年限ガ今日マデハ四十年ヲ以テ限リトシテコザイマシタ、
然ルニ此年ノ經過イタシマスルノト、戰役ノ結果ニ依リマシテ、四十一年以上
勤務イタシマスル者ガ陸海軍ニ於テ大分殖エタノデアリマス、是等ノ者ニハ
年數ニ應ジテ相當ノ恩給ヲ給スルノガ至當ト考ヘマシテ、此恩給ノ最終年限
ノ四十年ト云フノヲ五十年ニ増シマスノガーツ、其他大體唯今述ベマスル所
ノ事柄ニ附帶シマシテ多少ノ修正ガゴザイマス、尙ホ委シイコトハ委員會デ
述ベルコトニ致シマスカラ、ドウゾ御調査ノ上、御賛成アラムコトヲ希望シ
マス

○議長（公爵徳川家達君） 別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ次ノ議事日程ニ移
リマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ次ノ議事日程ニ移
リマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ハ癩兵院法案ノ委員ニ付託シテハ如何デアリマセウカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一、郡制廢止法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、通牒文ノ朗讀ヲ致サセマス

〔小原書記官朗讀〕

郡制廢止法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月十七日

衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵德川家達殿

郡制廢止法律案

郡制ハ之ヲ廢止ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

法律ノ規定中郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ特ニ規定ヲ要スルモノ其ノ他郡制ノ廢止ニ伴ヒ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來郡及郡組合ニ屬スル財産、營造物、事業及權利義務ノ處分ハ關係アル府縣參事會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 内務大臣ガ唯今出席イタサレセヌカラ、アドニ延バシマス、御異存ガゴザイマセネバ議事日程ノ第十九ヲ議事ニ掛ケマスガ、御異存ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ左様イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十九、貯蓄銀行法案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

貯蓄銀行法案

右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治三十九年三月十五日

右特別委員長

伯爵德川 達孝

貴族院議長公爵德川家達殿

〔小字ハ特別委員ノ修正ハ削除ノ符號〕

貯蓄銀行法

第一條 本法ニ於テ貯蓄銀行ト稱スルハ公衆ノ爲複利ノ方法ニ依リ貯金ヲ預ルコトヲ營業トスル者ヲ謂フ

第二條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル業務ヲ營ムコトヲ得

一 元本ノ拂込ニ對スル有期年金又ハ一時金給付ノ契約

二 貯金切手ノ發行

三 兩替及送金爲替

四 保護預リ

五 金錢ノ取立及出納保管

第三條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 公債證券、確實ナル會社債券又ハ株券ヲ質トスル六箇月以内ノ貸付

二 公債證券又ハ確實ナル會社債券ノ應募又ハ買入

三 三箇月以内ニ支拂ハルヘキ證券ノ割引

四 法律ヲ以テ組織シタル公共團體ニ對スル貸付

五 耕地又ハ宅地ヲ第一抵當トスル一箇年以内ノ貸付

主務大臣ハ前項ノ資金運用ノ方法及金額ニ關シ制限ヲ設クルコトヲ得

第四條 貯蓄銀行ノ預金ハ大藏省預金部預金又ハ確實ナル銀行ノ當座預金ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

貯蓄銀行カ他ノ銀行ニ預金ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貯蓄預金高及第二條

第一號ノ契約ニ因ル拂込金高ノ四分ノ一ヲ限度トシ且預ケ先銀行ノ拂込

資本金及準備金ヲ合セタル總金額ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 貯蓄銀行ニ非サル者ハ第一條ノ營業及貯金切手ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ非サル銀行ハ一口三十圓未満ノ預金ニ對シ利息ヲ附ス

第八條 貯蓄銀行ハ資本金二十萬圓以上ノ株式會社タルコトヲ要ス

第九條 貯蓄銀行ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲サシムルコトヲ得ス

第十條 貯蓄銀行ハ其ノ商號ニ貯蓄銀行ノ文字ヲ附スヘシ

貯蓄銀行ニ非サル者ハ貯蓄銀行ト稱シ又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用弗ルコトヲ得ス

第十一條 貯蓄銀行ヲ設立セムトスル者ハ定款及主務大臣ノ必要ト認ムル

書類ヲ添附シテ主務大臣ニ申請シ設立ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 貯蓄銀行ノ定款ニハ商法第二百十條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 損益計算ニ關スル事項

二 準備金ニ關スル事項

定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ代理店ヲ設置セ

ムトスルトキ亦同シ

第十三條 貯蓄銀行ノ發起人ハ第十一條ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ株式ノ引受又ハ株主ノ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 貯蓄銀行營業ヲ開始シタルトキハ速ニ主務大臣ニ届出ツヘシ

貯蓄銀行設立認可書到達ノ日ヨリ一箇年以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ設立ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十五條 貯蓄銀行ハ毎日少ナクトモ午前九時ヨリ午後三時迄營業ヲ爲スヘシ

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ營業時間ヲ變更スルコトヲ得但シ其ノ營業時間ハ六時間ヲ下ルコトヲ得ス

貯蓄銀行ハ大祭日、祝日、日曜日及其ノ營業地ニ於ケル一般ノ休日ノ外休業スルコトヲ得ス

第十六條 貯蓄銀行ハ二箇月毎ニ實際報告表ヲ製シ翌月十日迄ニ主務大臣ニ提出スヘシ

第十七條 貯蓄銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十八條 貯蓄銀行ハ定時株主總會ニ於テ商法第九十二條ノ承認ヲ爲シタル日ヨリ一箇月以内ニ左ノ書類ヲ主務大臣ニ提出スヘシ但シ書類ニ記載スヘキ事項及様式ハ主務大臣之ヲ定ム

一 貸借對照表

二 營業報告書

三 損益計算書

四 準備金及利益金ノ配當ニ關スル書類

貸借對照表ハ前項ノ期間内ニ之ヲ公告スヘシ

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ第一項ノ外貯蓄銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十九條 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス但シ其ノ責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第二十條 貯金切手一枚ノ金額ハ十錢以下タルコトヲ要ス

貯金切手ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 貯蓄銀行ハ一定ノ割合ニ依リ利子ヲ支拂フノ外名義ノ何タル

ヲ問ハス金錢其ノ他ノ財物ヲ貯蓄預金者ニ配與スルコトヲ得ス但シ定款ニ定ムル條件ニ從ヒ平等ノ割合ヲ以テ金錢ヲ配與スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 貯蓄預金ノ通帳及第二條第一號ノ契約ニ因リ拂込金ノ通帳ニシテ記載金額一圓未満ノモノニハ印紙稅ヲ免除ス

第二十三條 貯蓄銀行ハ。商法第九十四條ニ依リ準備金ノ外貯蓄預金高及第二條第一號ノ契約ニ因リ拂込金高ノ四分ノ一ニ達スル迄毎營業年度利益金ノ十分ノ一以上ヲ特別準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ國債證券ハ破産又ハ清算ノ場合及預金支拂ノ請求ニ應スル爲主務大臣ノ認可ヲ受ケタル前項ノ特別準備金ハ現金又ハ有價證券ヲ以テ之ヲ供託スヘシ但シ特別準備金額カ前項ノ制限ヲ超過スル場合ニ於テハ貯蓄銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ超過額ヲ限度トシ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條 貯蓄銀行カ商法第二百二十一條ノ事由ニ因リテ解散シ、支拂停止ヲ爲シ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ取締役又ハ清算人ヨリ直ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツヘシ

第二十五條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行ニ非サル會社ト合併スルコトヲ得ス

貯蓄銀行合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會社各自ノ總取締役及總監査役之ニ連署シ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 總會決議錄謄本

二 合併ニ關スル契約書謄本

三 合併スヘキ會社各自ノ貸借對照表

四 合併ニ因リ存續シ又ハ設立スル會社ノ定款

第二十六條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ貯蓄銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十七條 主務大臣ハ貯蓄銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ債權者ノ權利ヲ保護スル爲必要ト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止ヲ命シ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 貯蓄銀行カ法令若ハ定款ノ規定ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ

行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改選ヲ命シ又ハ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第二十七條 貯蓄銀行ハ商法ニ定メタル會社解散ノ事由ニ依ルノ外設立認可ノ失効及取消ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十八條 貯蓄銀行解散ノ場合ニ於テ清算結了シタルトキハ清算人ヨリ決算報告書ヲ添ヘテ主務大臣ニ届出ヘシ

第二十九條 貯蓄銀行ノ清算人又ハ破産管財人ハ貯蓄預金者、勅令ノ定ムル所ニ依ル貯金切手所持者又ハ第二條第一號ノ契約ニ因ル債權者カ民法第七十九條又ハ商法第九百八十條第一項第五號ノ催告期間以内ニ申出ヲ爲ササルモ債權額ノ知レタル場合ニ於テハ之ヲ清算又ハ破産財團ノ配當ヨリ除斥スルコトヲ得ス

第三十條 貯蓄預金者及第二條第一號ノ契約ニ因ル債權者ハ第二十一條ノ特別準備金ニ付其ノ法定制限額ヲ限度トシ優先權ヲ有ス

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ營業者、發起人、清算人又ハ會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第三條乃至第七條、第十條、第十三條乃至第十五條、第十九條乃至第二十二條、又ハ第二十八條ニ違反シタルトキ

二 第三條第二項ノ制限ニ違反シタルトキ

三 認可ヲ受ケスシテ認可ヲ受クヘキ事項ヲ行ヒタルトキ

四 第十六條及第十八條ノ書類又ハ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 第十六條及第十八條ニ依ル書類ヲ提出セス又ハ公告ヲ爲ササルトキ

六 第二十四條ニ依ル検査ヲ避ケ又ハ之ヲ拒ミタルトキ

七 第二十五條及第二十六條ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

ルトキ

第二十一條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ前項ノ過料ハ監査役ニモ之ヲ適用ス

附則

第三十二條 本法施行ノ期日及施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 第八條ノ規定ハ既設貯蓄銀行及既設貯蓄銀行ノ合併ニ依ル新設貯蓄銀行ニハ之ヲ適用セス

第三十四條 既設貯蓄銀行及既設貯蓄銀行ノ合併ニ依ル新設貯蓄銀行ニシテ資本金二十萬圓未滿ノモノ其ノ資本金ヲ増加セムトスルトキハ商法第二百十條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十五條 本法施行ノ際既設貯蓄銀行ノ既ニ爲シタル取引ニ關シテハ第三條及第四條ノ規定ヲ適用セス

第三十六條 既設貯蓄銀行ニシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルモノ本法施行ノ際其ノ業ヲ廢止スルトキハ現在ノ貯蓄預金ニ關シテハ仍貯蓄銀行條例ヲ適用ス

第三十七條 既設貯蓄銀行ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本法ニ依リ其ノ定款ヲ變更シテ主務大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 此貯蓄銀行法案ノ特別委員會ノ經過及結果ヲ御報告イタシマス、此委員會ハ先日來屢、開キマシテ當局大臣ノ説明ハ勿論、委員中ヨリモ質問ガゴザイマシテ、十分ニ審議ヲ盡シタ次第ゴザイマス、抑、此法案ノ提出ニナリマシタ所ノ政府ノ説明ヲ承リマシタ其極ク大要ノ所ヲ此所デ簡單ニ申シマスレバ、現行ノ貯蓄銀行條例ト云フモノハ貯蓄銀行ヲ政府ガ監督スル點ニ於テ不備ノ點モ多々アル、又此度ノ此法案デハ貯蓄者ノ利益ヲ保護シ、又貯蓄銀行其モノノ基礎ヲ鞏固ニシテ檢束的ノ規定ヲ設ケ、貯蓄銀行ノ便

利ヲ開ク、斯ウ云フヤウナ趣意ヲ以テ法案ガ提出ニナッタト云フコトデゴザイマス、ソレデ委員會ニ於キマシテハ大體上、本案ノ必要ナコトハ認メテ居ル、併シナガラ尙ドウモ修正ヲ致サケレバナラヌ點モアルト云フ所ヲ以テ、即チ諸君ノ御手許ニ同ッテ居ル通り委員會ニ於テハ修正ニナッタ次第デアリマス、勿論委員會ニ於テハ多數、殆ド全會一致クラ非デ此修正案ハ出來マシタ、併ナガラ或ル箇條ニ於テハ委員中ニ一二同意シ兼ネルヤウナ點モゴザイマシタガ、詰リ大體ハ全會一致ト云ウテモ差支ナイカト思ヒマス、是ヨリ委員會ニ於キマシテ修正ニナリマシタ箇條ニ就テ餘リ長クナク簡單ニ其理由ヲ申述ベヤウト思ヒマス、先ヅ第一ハ此法案ノ第七條ノ所デアリマス、ソレニハドウ云フコトガ書イテアルカト申セバ、「貯蓄銀行ニ非サル銀行ハ一口三十圓未滿ノ預金ニ對シ利息ヲ附スルコトヲ得ス」斯ウ云フ箇條ガアル、ソレデ委員會ニ於キマシテハ一口三十圓未滿ノ預金ニ對シ利息ヲ附セヌト云フコトハ獨リ貯蓄銀行ガ困難ヲ感ズルノミナラズ、普通銀行ニ於テモ大方困ルデアラウ、ソレデ若シ此本案ノ通り施行サレタ以上ニハ普通銀行ガ勢ヒ貯蓄銀行ト兼業シナケレバナラヌ、若シ兼業スルコトナレバ單ニ貯蓄銀行者ト云フモノハ餘ホド困難ヲ感ズルノデ、折角政府ノ方針トシテ貯蓄銀行ヲ確實ニシ鞏固ニスルト云フ保護ヲ與ヘテモ其詮モ無イデアラウ、是ハ修正シタガ宜シイ、ソコデ然ラバ如何ニ修正スレバ宜イカト云ヘバ、現行ノ貯蓄銀行條例ノ第一條ニアルガ如ク五圓未滿ノ金額云々ト云フコトデアリマス、併ナガラ現行ノハ少シ違ッテ居リマスカラ、其大體ノ精神ヲ採リマシテ御手許ニ差上ゲテアリマス通り「新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ引受クルコトヲ得ス」斯ウ云フ風ニ直シタ方が穩カデアラウト、斯ウ云フ譯デ第七條ハ修正ニナッタ譯デアリマス、其次ハ原案ノ第十六條、是ハモウ僅カバカリノ字句ノ修正デ「提出」ト云フ文字ヲ「發送」ト云フ文字ニ直シタ「提出」ト云フ文字ヲ存シテ置クト報告表ヲ製シテ、ソレヲ主務大臣ノ所ヘ「提出」ト云フト、届出デルト云フヤウニ見エハセヌカ、詰リ「發送」ト云フコトニシテ二箇月毎ニ此報告書ヲ拵ヘテ出スト云フコトガ十日マデト云フコトナラバ宜カラウト云フコトデ「發送」ト云フ文字ニ直ッタ譯デアリマス、其次ハ原案ノ第十八條ノ次ヘ一條加ヘテ第十九條ト致シマシテ、是ガ本案中ノ大分議論ノアッタ所デゴザイマシテ、御承知ノ通り現行ノ貯蓄銀行ニハ連帶無限責任ト云フコトガアルガ、政府ノ提出サレタ所ノ案ニハ無イノデアリマス、ソレデ若シ連帶無限責任ト

云フコトヲ取ッタ日ニハ、却ッテ前ノ第七條同様ナ意味デゴザイマスガ、普通銀行ガ續々貯蓄銀行ヲ兼業スル、サウスレバ貯蓄銀行ガ却ッテ鞏固ニナラナクテ困難ヲシハセヌカ、ソレ故ニハ少シ規定ガ嚴シイカ知レヌ、矢張り連帶無限責任ト云フモノヲ存シタラ宜カラウト申シマシテ、ソレデ銀行法ノ第三條ノ所ヲソックリ其儘此所ニ挿入シタ譯デゴザイマス、次ハ第二十條ト原案ノ第二十一條ノ間ニ一條ヲ置キマシテ二十二條トシタ譯デアリマス、是ハ是マデハ御承知ノ通り通帳ニハ一圓未滿デモ印紙稅ヲ貼ッテ居ッタガ、是ハ斯ウ云フコトニシテハ貯金ヲ預ケル人モ又銀行ニ於テモ大分苦痛ヲ感ズル、故ニ一圓未滿ニハ印紙稅ヲ免除シタ方が宜カラウト云フノデ、斯ウ云フ條ガ出來マシタ、其次ニハ原案ノ第二十一條、是ガ本案デハ「毎年營業年度利益金ノ十分ノ一以上ヲ特別準備金トシテ積立ツヘシ」ト云フコトガアルガ、十分ノ一ト云フコトデハ餘リニ少額デアル、却ッテ會社ノ信用ニモ關係スルコトデアルカラシテ、是ハ之ヲ變ヘテ其代リニ「預金拂戻ノ擔保トシテ預金總高ノ四分ノ一ヨリ少カラサル金額ヲ國債證券ヲ以テ保有シ之ヲ供託スヘシ」斯ウシタ方が却ッテ宜カラウ、斯ウ云フ修正ガ出タ、其結果トシテ此二項ノ所モ亦修正セネバナラヌ、是ハ茲ニゴザイマス通りデ一々讀ミマセヌガ、詰リ破産又ハ清算ノ場合ノコトト、ソレカラシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタ場合ノ外ハ之ヲ還付スルコトヲ得ナイ、斯ウ云フ風ニ書ケバ貯蓄銀行ノ仕事ノ上ニ於テ餘ホド便利ヲ得ルデアラウト云フ意味デアリマス、其次ハ本案ノ第三十條即チ修正ノ第三十二條、是ハ今讀ミマシタ第二十三條ノ所ガ修正ニナリマシタ結果トシテ、特別準備金ト云フモノヲ廢シ、既ニ茲デハ國債證券デアリマスカラシテ、金デハアリマセヌカラシテ「特別準備金ニ付」云々ト云フヨリモ「供託物」ト云フ方が穩カダラウト云フ意味デ直ッタ、ソレカラ第三十三條即チ原案ノ第三十一條、此中ノ第一號ニ第十九條ガ第二十條ニナッタリ、第二十二條ガ第二十三條ニナッタリシテ居ル、是ハ前ニ條數ガ二箇條モ出來マシタ結果トシテ、勢ヒ條項ガ變更シタ譯デゴザイマス、是ハ一々申サズトモ御分リノコトデゴザイマスカラ略シテ置キマス、先ヅ大體右申シタ次第デゴザイマシテ、此修正ニ對シテハ政府ニ於テモ同意ヲ表セラレタ次第デゴザイマス、成ルベクドウゾ諸君ニ於テモ委員會ノ修正ニ御贊同アラムコトヲ希望イタシマス、先ヅ是ダケ御報告イタシテ置キマス

○子爵伊集院兼知君 是カラ私ハ請願ノ分科會ヲ開キタイト思フノデゴザイ

マス、雜科ノ會ヲ開キタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 御退席ノ御要求デスカ

○子爵伊集院兼知君 左様デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 伊集院子爵ノ要求通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガゴザイマセヌカラ宜シウゴザイマス

○千坂高雅君 政府委員ニチヨット質問シタウゴザイマスガ...

○議長(公爵徳川家達君) 御質問デスカ

○千坂高雅君 ハイ

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

○千坂高雅君 此貯蓄銀行法案ニ付キマシテハ、色々通常ノ銀行ニ餘ホド關係ヲ有ッテ居ル、貯蓄銀行ニ餘ホド關係ヲ有ッテ居ルガ、承レバ銀行條例ノ改正モ近ヨッテ居ルト云フコトヲ耳ニシテ居リマス、之ト同時ニ出サレテ然ルベキモノヲ之ヲ抜イテ出サレタ事情ヲ承リタイ、又委員會デノ御答辯ヲ速記録デ熟讀シテ見マスルト、是マデ貯蓄銀行ト云フ名ヲ以テ小銀行ガ所々方方ニ立ッテ今日甚ダイカヌコトデアアル、早ク之ヲ始末シナケレバナラヌ、斯ウ云フヤウナコトガ骨子トナッテ居ルヤウデゴザイマスガ、經濟社會ニ於キマシテ、斯ウ云フ法案ヲ突然ト出スト云フト銀行ガ破産シタリ或ハ人民ニ非常ナ不幸ヲ與ヘルコトハゴザイマセヌカ、斯ウ云フ經濟ニ關スルコトハ徐々ト御示シナリ、御諭シナリ、而シテ後斯ウ云フ法案ニ向ケツ、アッテ、サウシテ此法案ガ立ッテ然ルベキコトト考ヘル、ソレヲ待タズニ之ヲ直グ突然トサレタト云フコトハ他ニ必要ナル理由ガ有ルヤ否ヤ、之ヲ委シク承リタイ

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 唯今ノ第二ノ御尋ネハドウ云フコトデゴザイマシタカ、ツイ聽取レ兼ネマシタカラ...

○千坂高雅君 第二ノ...

○國務大臣(阪谷芳郎君) 末段ノ御尋ネデゴイマス

○千坂高雅君 此貯蓄銀行者、現在ノ貯蓄銀行ガ、チリノバラノ散ラバツテ貧民ノ金ヲ預カッタリシテ危險デアアル、ソレデサウ云フ危險ヲ防グガ爲デアルト云フヤウニ聞キマシタガ、サウ云フコトガ果シテ主ニナッテ居リマスカ、又ハ他ニ必要ナコトガアッテ、斯ウ云フ案ヲ御出シニナッタノデゴザイ

マスカ、ドウ云フ趣意デゴザイマスカ

○國務大臣(阪谷芳郎君) 分リマシタ、御答イタシマスガ、銀行條例トナゼ同時ニ出サスカト云フ御尋ネガ第一デアリマシタ、普通銀行條例ノ方ノ問題ニ付キマシテハ、未ダ調査ヲ少シ了リマセヌ分ガゴザイマス、是ハ色々關係モゴザイマシテ、種々ナ意見ヲ徴シテ成案ニ致シタイト考ヘテ居リマス、此議會ニハ最早提出スル餘日ガゴザイマセヌカラ、此議會ニハ普通銀行條例ノ方ハ提出イタシマセヌ、貯蓄銀行條例ノ方ハ是ハ既ニ十分ナル成案ガ出來マシテ、尙ホ委員會ノ御修正モゴザイマシタノデゴザイマスガ、戰後貯蓄ノ獎勵上極メテ必要ト認メマシテ出シマシタノデゴザイマシテ、現在ノ貯蓄銀行條例ニ依リマシテハ取締ガ不十分デ貯蓄銀行ニ預ケテ居リマスル預金者ノ權利ヲ十分ニ保護スルニ少シ足リナイカト政府ハ心配イタシマス、ソレ故ニ從來ノ色々ナル事蹟ニ鑑ミマシテ、斯ノ如クニ修正イタシマシテ提出イタシマシタ次第デゴザイマス

○千坂高雅君 ドウモ私ノ御尋ネハ惡カッタモノト見エテ十分ニ其要領ヲ得マセヌデゴザイマスガ、私ノ御尋ネシタル精神ハ貯蓄銀行法ヲ銀行條例ト共ニ出サレズニ、是非此貯蓄銀行法ダケヲ出サネバナラヌト云フ理由ヲ伺ヒタイ、且又今一ツニハ斯ウ云フ風ニ特別ノ法律ガ直リマスト一般ノ人民、貯蓄業者ニ非常ニ打撃ヲ與ヘテ、ソレガ爲ニ痛ミハ出ナイカ、斯ウ云フ懸念ヲ持ッテ居リマスガ、ソレハ政府ハ其懸念ハ無イ、ドウシテモ之ヲヤラネバナラヌト云フ理由ヲ伺ヒタイ、斯ウ云フコトデアリマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 此條例ニハ附則ガ設ケテアリマシテ、現在ノ取引ニ付テハ相當ナル猶豫ガ設ケテアリマスカラ、此條例ガ成立イタシマシテモ現在ノ取引ヲ其日カラ直グ直サナケレバナラヌト云フコトハ無イ、貯蓄業者ガ急ニヒドイ痛ミヲ感ズルコトハゴザイマセヌ、若シヒドイ痛ミヲ感ズルト云フモノデアルナラバ現在ノ條例ノ下ト雖モ、不安心ナ仕事ヲシテ居レバサウ云フコトガアリマスガ、決シテ此條例ガ出タガ爲ニ、其日カラ今マデ行ッテ居ル取引ヲ引直スト云フコトハシナイ、相當ノ猶豫ガ設ケテアリマスカラ貯蓄業者ニ急ニ色々ナル打撃ヲ與ヘルト云フコトハゴザイマセヌ

○谷森眞男君 私モ大藏大臣ニ質問イタシマス、本案ノ提出ノ理由トシテ此貯蓄銀行法ヲ改正シナケレバナラヌト云フ理由ノ中ニハ、現行ノ貯蓄銀行法

ニ於テハ無限責任ト云フコトニナツテ居ルカラシテ、適當ナル重役ヲ得ルコトガムツカシイ、依ッテサウ云フ所ノ條項モ改正ヲシタノデアルト云フコトデ、即チサウ云フコトガ改正ヲスル理由ノ一ツニ這入ッテ居タト承ッテ居リマス、然ル所ガ特別委員會ノ修正デハ又此第十九條ト云フモノヲ置キマシテ、無限責任ト云フコトニナツテ居リマスガ、シテ見マスレバ政府ノ方ニ於テハ此改正ヲシナケレバナラヌト云フ理由ノ一ツニ數ヘラレタコトガ破レルコトニナリマス、ソレデ政府ハ宜イノデアリマスカ、其御考ヲ承ッテ見タイノデアリマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 御答イタシマスガ、此點ニ付キマシテハ政府デ原案ヲ取調ベマシタ際ニモ矢張り種々議論ガゴザイマシタノデ、連帶無限ノ責任ヲ附スルガ宜イト云フ説ト、却ッテ是ハ適當ナル人ガ皆連帶無限ト云フコトヲ恐レテ重役ニナラヌカラ、却ッテ適當ナ重役ヲ得ルニ苦ムト云フ論ガアリマシタ、ソレデ政府ニ於キマシテハ、是ハ即チ改正ヲスルヲ適當ナリト信ジマシテ原案ヲ調査イタシマシタノデアリマスガ、委員會ニ於テ種々御論ガ出テ、是ハドウモ今日變ヘルコトハ宜シクアルマイ、矢張り現行ノ制度ヲ存シテ置ク方ガ却ッテ貯蓄銀行ノ爲ニ安全デアラウト云フ論ガ多數ヲ制シテ、ソレニ對シテハ、政府ガ絕對ニ反對ヲ表スルノ必要ガ無イ、多數ノ諸君ノ御論ニ從ッテ差支ナイト斯ウ考ヘマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ヲ第二讀會ニ移スベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一ニ移リマス、郡制廢止法律案、第一讀會

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 郡制廢止法律案ニ付テ大體ノ趣旨ヲ説明シテ置キマス、此郡制ハ御承知ノ通り最早實施後十五年ニ相成リマスガ、其經驗ニ依リマスレバ、此制度ヲ永ク存在スル必要ヲ認メヌ譯デアリマス、依ッテ今同市町村制ノ改正ト同時ニ之ヲ廢止イタスト云フコトニ決定イタシタノデアリ

マス、御承知ノ通り此郡制ハ郡ノ自治ヲ許シマシタ法律デアリマス、然ルニ從來ノ沿革ニ依ッテ考ヘテ見マスノニ、町村ノ如キハ古來自治ノ要素ガ不完全ナガラモ存在シテ居リマシタガ故ニ、法律ノ結果ニ依ッテ段々其發達ノ效果ヲ見ルヤウナ次第第二ナリマシタ、併ナガラ是トモ實驗上多少ノ改正ヲ今日ニ於テ加ヘナケレバナラヌ必要ニ迫リマシタ譯デアリマスガ、郡制ニ至ッテハ元來郡ノ自治ハ其要素ガ乏シイ次第デアリマシタ結果ト考ヘマスルガ、法律豫期イタシマシタヤウナ效果ヲ收メルコトガ出來マセヌ、而シテ之ヲ廢シマスレバ、府縣ノ次ニハ町村ト云フ自治體ガ二ツニ相成リマシテ、今日マデノ三段ノ階級ハ二ツノ階級ニ止マルノデアリマス、其中間ノ自治制ノ郡ヲ廢シマシテ何等不便ヲ感ズルデアラウト云フコトヲ見出シマセヌ、サリナガラ地方ノ制度ハ町村ヨリ郡ニ及ビ府縣ニ及ンデ今日マデ成立ッテ居リマシタ、故ニ此利害ニ付テハ十分ノ調査ヲ要スルヲ必要ト考ヘマシテ、成ルベクナラバ從來ノ儘存在スルガ先ヅ以テ本意デアラウト云フ方針ヲ執ッテ考慮ヲ致シテ見マシタガ、如何ニ考慮ヲ費シ、調査ヲ致シマシテモ、此郡制ノ存在シテ居ル必要ヲ見出シマセヌ、故ニ今回廢スル方ガ適當ナリト考ヘマシタ次第デアリマス、而シテ之ヲ廢シマスルニ付テハ今日マデ郡ノ自治ノ下ニ經營イタシマシタ仕事ハドウナルカト云フコトヲ考ヘマシテ、其處分ヲ定メナケレバナリマセヌカラ、之ニ付テハ法案ニ示シテアルガ如ク、種々ナル必要ノ規定ハ何レ勅令ヲ以テ定メマスガ、財産營造物等ニ關シマシテハ是ハ府縣參事會ノ意見ヲ求メマシテ、適當ノ分配ヲ致サウト考ヘマス、即チ或ルモノハ府縣ニ於テ其事業ヲ致スコトニナリマセウト考ヘマス、又或ル事業ハ市町村ニ於テ之ヲ營ムコトニナリマス、又ハ町村ノ組合ニ依ッテ之ヲ經營スルト云フコトニナリマス、ソレ等ハ各地情況ヲ異ニシテ居リマスカラ、郡制ノ廢止後ニハ其分界ハ其地方ノ府縣參事會ノ意見ヲ聞キマシテ相當ナル分界ヲ致サウト考ヘテ居リマス、而シテ此郡ノ自治ヲ廢シマシタ以上ハ町村ノ組合ト云フモノハ自然ニ必要ヲ感ジマスル、現ニ今日郡制ノ存在ノ下ニモ尙町村ノ聯合會ハアリマスルガ、郡制廢止後ニハ殊ニ此町村ノ聯合會ト云フモノガ必要ヲ生ジマセウト思ヒマス、是ハ其事柄ノ必要ニ應ジテ、ソレノ其組合ヲ設ケサセマシタナラバ宜シカラウト考ヘマスルガ、尙ホ國家ノ眼ヨリシテ其組合ヲ必要ト致シマスルナラバ政府ヨリ命ジテ組合ヲ設ケルヤウニ致シタイト考ヘマシテ、是ハ町村制ノ方ニ組合ヲ設ケルコトヲ命ズルヤウニ致シテ、即チ今回

改正案ヲ提出イタシタ次第デアリマス、デ郡制ヲ廢シテ唯今申シタ組合ガ陸續起ルヤウデハ折角廢止シタ功能ガ無ク、却テ複雜ヲ醸シハセヌカト云フ虞モ無キニシモアラズデゴザイマス、是モ研究イタシマシタガ、此組合ハ事業ノ必要ニ依ッテ生ズルノデアリマシテ、必シモ郡デ今日經營イタシタヤウナ事柄ヲ悉ク組合ニ依ッテ成立タセルト云フ次第ハ無いノデアリマス、差支ハ無カラウト考ヘマス、又之ヲ郡ノ自治ヲ廢シマスルニ付テハ自治ノ組織ノ上カラハ先刻申シマシタ如ク二階級ニナリマシテ簡便ナモノニナリマスルシ、又費用ノ點ニ行キマシテモ目下著シキ減額ハ見マイト思ヒマス、町村會ノ費用其他ヲ除キマスレバ差向キ減額ハ致スマイト考ヘマスケレドモ、サリナガラ幾部分ニ致シテモ減額スルニハ相違ゴザイマセヌ、加之今日、郡ノ自治制ノ下ニハ各郡ニ於テハ人情自然ノ弊ト致シマシテ、互ニ郡ハ競爭シテ營造物其他ノ事業ヲ企テルト云フコトヲ免レマセヌ、因ッテ現ニ戰爭以前ハ五百萬以上モ使用シテ居ッタヤウニ記憶イタシマスルガ、戰爭中ハイタク節減シテ居リマスガ、是ハ自然ノ情勢トシテ費用ヲ増スコトハ免レマセヌカラ郡ノ自治制ヲ廢シマシタ結果トシテ此費用ノ増額スルコトヲ止メルコトガ出來ヤウト思ヒマス、郡カラ減ズル所ノ金ハ少クトモ、此地方ノ費用ヲ増加スルト云フコトヲ幾部分カ止メ得ラウト信ジマス、又此廢止案ヲ提出イタシマシタ譯ハ、既ニ申シタガ如ク、今回ノ市町村制ノ改正ヲ機トシテ之ヲ決行イタサウト考ヘタノデアリマスガ、併シ此問題ハ決シテ今日ニ始マリマシタ問題デハゴザリマセヌ、既ニ各地ニ於テ之ヲ不用ナリトスル議論モ多イノデアリマス、又此法律ヲ初メテ制定シテ實施セラレマスルニ當リマシテノ必要不必要ノ論ハアリマシタト記憶イタシマス、併ナガラ地方ニ直接ノ利害ヲ持ッテ居リマスル事柄デアリマス故ニ、前々任者ハ地方官ニ諮問イタシタコトガアリマス、三四ノ地方官ヲ除クノ外、地方官ハ皆之ヲ必要ナラズトシマスルコトヲ答申イタシマシタ、又私ガ任ニ就キマシテ先頃召集イタシマシタ際ニモ地方官ニ諮リマシタガ、是亦以テ一二ヲ除クノ外、此郡制ヲ必要ナラズトシテ之ヲ廢スル方ニ同意ヲ表シマシタ次第デゴザリマス、斯様ナ事實ヨリ推測イタシマシテモ地方ニ於テ此郡制ヲ廢スルガ爲ニ甚シキ困難ヲ感ズルコトハ無論ナイト信ジマス、段々日露戰爭ノ結果ト致シマシテ地方制度ノ刷新ヲモ計ラネバナラス時節デアリマスカラ、其組織ヲ完全ニ致シ、費用ノ増加スル弊ヲ防ギ、因ッテ以テ地方行政ノ舉ラムコトヲ希望イタシマスカラ

此際郡制ハ廢止シタイト確信イタシマス、又一言添ヘテ置キマスルガ、此郡制廢止案ヲ提出イタシマシタノハ唯今申シマシタヤウナ次第デアリマス、決シテ之ニ因ッテ郡長ヲ廢スル、郡役所ヲ全廢スルト云フヤウナ考ヘハ持ッテ居リマセヌ、今日ノ行政組織ニ於キマシテハ、郡長ヲ廢スルト云フコトハ出來得ザルコトト考ヘマス、私モ決シテ之ヲ廢スルコトハ必要ナラズ、郡長ハ存在シ、郡役所ニ重キヲ置クヲ可ナリト確信イタシマス、尤モ郡ニ自治制ガ存在イタシテ居リマスル間ハ必ズ大小ヲ問ハズ一郡ニハ一郡役所ヲ設ケテ置カナクテハナラヌ譯デアリマスルカラ、即チ地方官官制ニ郡ヲ置キマス所ニハ必ズ郡役所ヲ置クコトニシテアリマス、郡ノ自治制ヲ廢シマシタ以上ハ大小ヲ問ハズ一郡ニ一郡役所ヲ置ク必要ハ見出シマセヌ、從來ノ如ク、或ハ二郡ニ一箇所、三郡ニ一箇所ノ郡役所ヲ置イテ差支ナカラウト考ヘル所ハ多クアリマス、併ナガラ私ハ郡長ヲ廢シ、郡役所ヲ全廢スルガ如キコトハ決シテ考ヘテ居リマセヌノデ、無論此郡制ヲ廢スルト云フコトト、郡長郡役所ト云フコトハ問題ガ全ク異ナッタ居リマスカラ、序デナガラ申上ケテ置キマス、又町村ノ監督ハ殊ニ必要ト感ジマシタノデ、十分ニ町村ノ監督ハ郡長ヲシテ致サセタイト考ヘマス、郡長ヲシテ十分ニ町村ノ監督ヲ致サセマスニハ尙更以テ郡長ヲ必要ト致シマスル、又此郡制ガアリマシテハ町村ノ監督ニ甚ダ困難ヲ感ズル事情モ多クアルヤウデゴザイマス、故ニ此郡制ヲ廢シマシテ町村ノ監督ヲ十分ニ郡長ヲシテ致サセルト云フ方針ヲ採リタイト考ヘマスルカラ、尙更以テ郡長ヲ廢シ郡役所ヲ全廢スルト云フコトハ考ヘ及バザルノミナラズ殊ニ必要ト考ヘテ居リマス、何レ詳細ノコトハ尙ホ委員會ニ於テ陳述イタサウト考ヘマスルガ、大體斯ノ如キ次第デアリマスカラ、願ハクハ諸君ノ御贊成ヲ得タイト希望イタス次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ、次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○子爵岡部長職君 本案ハ日程第十三ノ市制改正法律案並ニ第十五ノ町村制改正法律案ト相牽聯イタシテ居リマスル案デアリマシテ、實ニ重要ナ案デアリマスカラ、審議ヲ慎重ニスルガ爲ニ委員ノ數ヲ十五名ト致シテ選舉ハ議長ノ御指名ニ御任せ申シタイト思ヒマス、何レ市制並ニ町村制ノ兩案モ同一委

員ニ付スルト云フ議ヲ提出イタシタイ考ヘデ居リマスガ、唯今ハ郡制廢止法律案ノ所デアリマスカラ、先ヅ此案ニ付テノ意見ヲ提出イタシマス

○伯爵大原重朝君 賛成

○子爵曾我祐準君 賛成

○男爵吉川重吉君 賛成

〔賛成〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 岡部子爵ノ本案特別委員ノ數ハ十五名、議長指名、此動議ニ御異存ゴザイマセムカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三ニ移リマス、市制改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

市制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月十七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

〔小字ハ修正ハ削除ノ符號〕

市制改正法律案

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第二款 市住民及其ノ權利義務

第三款 市條例及市規則

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織選舉及任免

第二款 市吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第五章 市ノ財務

第一款 財産營造物及市稅

第二款 歲入出豫算及決算

第六章 市内一部ノ行政

第七章 市町村組合

第八章 市行政ノ監督

第九章 雜則

市制

第一章 總則

第一款 市及其ノ區域

第一條 市ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 市ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ市ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ヲ變シテ市ト爲シ市ヲ變シテ町村ト爲スコトヲ要スルトキハ關係アル市町村會及府縣參事會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

本條ノ處分ニ付財産處分ヲ要スルトキハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 町村ヲ市ニ合併シ又ハ市ノ區域ヲ分割シ若ハ市ノ境界變更ヲ要スルトキハ町村制第三條ヲ準用ス所屬未定地ヲ市ノ區域ニ編入スルトキ亦同シ

第五條 市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ裁決及決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ關係市町村ニ交付スヘシ
本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六條 勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ從來ノ區ヲ存ス其ノ區ハ財産ニ
關スル事務其ノ他法律勅令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス
區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ第四條第五條ノ規
定ヲ準用ス

第七條 市ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ市ノ申請ニ依リ内務大臣
之ヲ定ム
市役所ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ市ハ府縣知事ノ許
可ヲ受クヘシ

勅令ヲ以テ指定シタル市ノ區ノ名稱ヲ變更シ又ハ區役所ノ位置ヲ定メ若
ハ變更スルコトヲ要スルトキハ前二項ノ例ニ依ル

第二款 市住民及其ノ權利義務

第八條 市内ニ住所ヲ有スル者ハ其ノ市住民トス

市住民ハ本法ニ從ヒ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ市ノ負擔ヲ分任
スル義務ヲ負フ

第九條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二
箇年以來市ノ住民ト爲リ其ノ市ノ負擔ヲ分任シ及其ノ市内ニ於テ直接國
稅ヲ納ムル者ハ其ノ市公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二
箇年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス
市ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ前項二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル
納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

市公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更
ノ爲中斷セラルルコトナシ

市稅ヲ賦課セサル市ニ在リテハ第一項市公民ノ要件中市ノ負擔分任ニ關
スル規定ヲ適用セス

第十條 市公民ハ市ノ選舉ニ參與シ市ノ名譽職ニ選舉セララル權利ヲ有シ
市ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ退職シ又ハ
其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ市ハ一箇年以上六箇年以下市公民權

ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期以內其ノ者ノ負擔スヘキ市稅ノ十分ノ
一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ市内ニ居ルコトヲ得サル者

三 滿六十年以上ノ者

四 官職ノ爲市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四箇年以上名譽職市吏員ノ職ニ任シ又ハ六箇年以上名譽職參事會員

市會議員若ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者
六 其ノ他市會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條 市公民ニシテ第九條ニ掲ケタル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民
權ヲ失フ

市公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資
分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル
迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵
役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 市條例及市規則

第十二條 市ハ市住民ノ權利義務又ハ市ノ事務ニ關シ市條例ヲ設クルコト
ヲ得

市ハ市ノ營造物ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及市規則ハ法令ニ牴觸スルコトヲ得ス

市條例及市規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 市會

第一款 組織及選舉

第十三條 市會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉ス
市會議員ノ定數ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人人口五萬以上ノ市ニ

於テハ三十六人トシ人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎ニ人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ増シ六十人ヲ定限トス

市會議員ノ定數ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但シ定限ヲ超ユルコトヲ得ス

○總選舉ヲ行フ場合

市會議員ノ定數ハ定期改選ノ時ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 市公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第十一條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者其ノ額市公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ第九條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ直接市稅ヲ賦課セサル市ニ在リテハ其ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

本條ノ直接市稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十五條 選舉人ハ分テ三級ト爲ス

選舉人中直接市稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ一級トス但シ一級選舉人ノ數三名ニ滿タサルトキハ

納額最多キ者三名ヲ以テ一級トス

一級選舉人ノ外直接市稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルヘキ者ヲ

二級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其ノ市内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シトキハ年長者ヲ以テシ年齡同シトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人毎級各別ニ議員ノ三分ノ一ヲ選舉ス但シ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ議員ノ數三分シ難キトキハ其ノ配當方法ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得直接市稅ヲ賦課セサル市ニ在リテハ本條ノ納稅額ハ選舉人ノ市内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

第十六條 市ハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級又ハ三級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ケナシ

選舉區ノ數及其ノ區域並各選舉區ヨリ選出スル議員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人ハ住所ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム市内ニ住所ナキ者ハ直接市稅又ハ直接國稅ノ賦課ヲ受ケタル物件又ハ營業所ノ所在ニ依リ若物件又ハ營業所ニシテ數選舉區ニ在ル場合ニハ之ニ對スル課稅ノ最多キ所ニ依リ其ノ之ニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ選舉區ヲ定ムヘシ

選舉區ヲ設クルトキハ前條ノ規定ニ準シ其ノ選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツヘシ

被選舉人ハ其ノ選舉區内ノ者ニ限ラサルモノトス勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選舉區トス其ノ各選舉區ヨリ選出スル議員數ニ付テハ第二項ノ例ニ依ル

第十七條 特別ノ事情アルトキハ市ハ府縣知事ノ許可ヲ得區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級若ハ三級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ケナシ

第十八條 選舉權ヲ有スル市公民ハ被選舉權ヲ有ス左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有ヒス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

- 一 所屬府縣ノ官吏及有給吏員
- 二 其ノ市ノ有給吏員
- 三 檢察警察官吏及收稅官吏
- 四 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

市ノ爲工事ノ請負物件努力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ市ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ市ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ若同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

市長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケ又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第十九條 市會議員ハ名譽職トス

市會議員ノ任期ハ六箇年トシ^四毎三箇年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員數二分シ難キトキハ先ツ多數ノ一半ヲ解任ス初回ノ半數改選ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル[○]爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツヘシ
ムル方法ニ依リ其ノ増員又ハ減員ヲ配當ス若之ヲ同シカラシメ難キトキハ任期ノ短キモノヲ多カラシムル方法ニ依リ配當ス

前項ノ場合ニ於テ解任ヲ要スルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

選舉區ノ變更又ハ各選舉區ヨリ選出スヘキ議員數ノ變更ニ關シ必要ナル事項ハ第十六條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二十條 市會議員中議員アルトキハ定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フヘシ但シ議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ府縣知事若ハ市長市會ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期改選前ト雖補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
補闕議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第二十一條 市長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉區ヲ設クルトキハ選舉區毎ニ名簿ヲ調製シ選舉分會ヲ設クルトキハ名簿ニ依リ分會ノ區畫毎ニ名簿ノ抄本ヲ調製スヘシ

勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ市長ハ區長ヲシテ前項名簿及抄本ヲ調製セシムヘシ

市長ハ其ノ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄市役所^{第二項ノ市ニ}於テハ區役所^{又ハ其ノ他ノ場所ニ}於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之ヲ市長^{第二項ノ市ニ}於テハ區長^{ヲ經テ}ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ市長ハ縦覽期限後三日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項市會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ決定又ハ裁決ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ市長^{第二項ノ市ニ}於テハ區長^{ハ其ノ}確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一箇年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日ノ前三日迄ニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接市稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者

ノ納額ニシテ名簿ニ登録セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ二級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ二級ニ於テ其ノ他ハ三級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縦覧修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル天災事變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用非縦覧修正及確定ニ關スル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第二十二條 選舉ヲ行フトキハ市長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ選舉會場投票ノ日時及等級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉區ヲ設クル場合ニ於テハ各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ仍選舉區毎ニ分別シ選舉分會ヲ設クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區畫ヲ告示スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入りタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

各選舉區ノ選舉ハ同日時ニ之ヲ開始シ選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開始スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十三條 市長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス各選舉區ニ於ケル選舉會ハ市長又ハ其ノ指名シタル吏員勅令ヲ以テ指定シタル市長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

市長勅令ヲ以テ指定シタル臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉區又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十四條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ

從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會掛長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登録セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ市長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テ選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬ニ異動ヲ生スルコトアルモ其ノ選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ行フヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘシ

第二十六條 定期改選増員選舉、補闕選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 第十四條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第九條第一項但書ニ當ル者第十條ニ依ル公民權停止中ノ者及第十一條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會掛長ニ示スヘシ

第二十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用井タル場合ニ

於テハ第一號及第六號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ
定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號第四號及第五號ニ該當スルモ
ノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

二 現ニ市會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又
ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキ
ハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナル
トキハ分會掛長之ヲ決スヘシ

第三十條 市會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者
トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタ
ル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要
ス

當選者ヲ定ムルニ當リ議員ノ任期異ルモノアルトキハ得票數ノ多キ者ヲ
以テ任期ノ長キモノニ充ツ

前二項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキハ年長者ヲ取り
年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十一條 選舉長又ハ分會掛長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ
記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ
之ニ署名スヘシ

各選舉區ノ選舉長ハ選舉錄 勅令ヲ以テ指定シタルヲ添ヘ當選者ノ住所氏
名ヲ市長ニ報告スヘシ

選舉分會掛長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定ス
ルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第三十二條 當選者定マリタルトキハ市長 勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區長
者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五
日以内ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ但シ第十八條第三項ノ官吏ニシテ當選シ
タル者ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ
否ヲ市長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭
シタルモノト看做ス

一人ニシテ數級又ハ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知
ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ市長ニ申立ツヘ
シ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做
ス但シ第十八條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ム
ル期間ヲ二十日トス

第三十三條 市會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ第三十條ノ例ニ依リ
之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第三十四條 選舉ヲ終リタルトキハ市長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ府
縣知事ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ市長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セ
テ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十五條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シ
テハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ市長
ニ申立ツルコトヲ得 此ノ場合ニ於テハ市長ハ七日以内ニ市會ノ決定ニ付スヘシ市會ハ其
ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ異議ハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參
事會ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテ
ハ前條第一項ノ報知ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ前條第二項ノ報告
ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

前項府縣參事會ノ決定アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及
市會ノ決定ハ無効トス

本條府縣參事會ノ決定又ハ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス
當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス
得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ被選舉權ヲ有セサル爲其ノ他當選無効ト確定シタルトキハ第三十條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム

第三十七條 選舉ニシテ無効ト確定シタルトキ又ハ前數條ノ規定ニ依リ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十八條 市會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ市會之ヲ決定ス
市長ニ於テ市會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ市會ノ決定ニ付スヘシ

本條市會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

市會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストズル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十九條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ開設スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第四十一條 市會ハ市ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十二條 市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 市條例及市規則ヲ設ケ及改廢スル事
- 二 市費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第九十二條ノ事務其ノ他法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歲入出豫算ヲ定メ豫備費ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金市税及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及買受^{取得}ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令中ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

十 市吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 市ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十三條 市會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ノ一部ヲ市參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十四條 市會ハ法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十五條 市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

市會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ市長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十七條 市會ハ行政廳ノ諮問アリタルトキハ意見ヲ答申スヘシ

市會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ市會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 市會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ^{總選舉}定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十九條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第五十條 市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事

ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス
前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之
カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十一條 市會ハ市長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキ
ハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

市長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ市會ヲ招集スルコトヲ得
招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施
ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

市會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付ス
ルコトヲ得

市會ハ市長之ヲ開閉ス
第五十二條 市會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコ
トヲ得但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又

ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半
數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 市會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決
スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ
關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ市會ノ同意ヲ得
タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十五條 法律勅令ノ規定ニ依リ市會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ本法中別
段ノ規定アル場合ヲ除ク外一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數
ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タ
ル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數
者アルトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ
決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年
長者ヲ取リ年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第二十五條
及第二十八條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ
議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ市會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ
用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條 市會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 市長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
前項議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開
閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條 市會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委囑ヲ受クヘカラス
市會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ
得ス

第五十九條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員
アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ
議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要
ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉
ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲
ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル
場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ
於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 市會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十二條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名
ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス
其ノ議員ハ市會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ市長ニ報告スヘシ
第六十三條 市會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受
クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ市會ノ議決ニ依リ
五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコト
ヲ得

第三章 市參事會

第一款 組織及選舉

第六十四條 市ニ市參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 市長

二 助役

三 名譽職參事會會員勅令ヲ以テ指定シタル市ハ各八名其ノ他ノ市ハ各六名

第六十五條 名譽職參事會會員ハ市會ニ於テ其ノ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

其ノ選舉ニ關シテハ第二十五條第二十八條第三十條及第三十三條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ市會之ヲ議決ス

名譽職參事會會員中關員アルトキハ直ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

名譽職參事會會員ハ市會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ後任者就任ノ日迄在任ス

第六十六條 市參事會ハ市長ヲ以テ議長トシ市長故障アルトキハ市長代理者之ヲ代理ス市長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ會員中ヨリ臨時ニ假議長ヲ選舉スヘシ

第二款 職務權限及處務規程

第六十七條 市參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述フル事

三 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第六十八條 市參事會ハ市長之ヲ招集ス名譽職參事會會員半數以上ノ請求アルトキハ市長ハ之ヲ招集スヘシ

第六十九條 市參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十條 市參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會會員定數ノ半數

以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍名譽職參事會會員ノ半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スル

モ出席名譽職參事會會員定數ヲ關キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

議長及參事會會員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ市參事會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第七十一條 第四十六條第四十七條第五十條第五十一條第二項第五項第五十三條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條及第六十二條第一項ノ規定ハ市參事會ニ之ヲ準用ス

第四章 市行政

第一款 市吏員ノ組織選舉及任免

第七十二條 市ニ市長助役各一名ヲ置ク但シ勅令ヲ以テ指定シタル市ノ助役ノ定數ハ內務大臣之ヲ定ム

助役ノ定數ハ市條例ヲ以テ之ヲ增加スルコトヲ得

第七十三條 市長ハ有給吏員トシテ其ノ任期ハ六箇年トス

內務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フヘシ

市長ハ內務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十四條 助役ハ有給吏員トシテ其ノ任期ハ六箇年トス

助役ハ市會之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長市會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

第七十五條 市公民ニ非スシテ市長又ハ助役タル者ハ在職ノ間其ノ市公民權ヲ得

第七十六條 市長及助役ハ第十八條第二項ニ掲ケタル職ト相兼マルコトヲ得ス又其ノ市ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ市長及助役タルコトヲ得ス若其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當リタルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル助役ハ其ノ職ヲ失フ助役數名アル場合ハ第十八條第五項ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 市長及助役ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

市長及助役ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第七十八條 市ニ收入役一名ヲ置ク但シ市條例ヲ以テ副收入役ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ニ關シテハ第七十四條第一項第三項及第七十五條乃至第七十七條ノ規定ヲ準用ス

市長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ副收入役タルコトヲ得ス若收入役又ハ副收入役トノ間ニ其ノ緣故アル者市長ニ推薦セラレ其ノ裁可ヲ受ケ又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル收入役又ハ副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

第七十九條 勅令ヲ以テ指定シタル市ノ區ニ區長一名ヲ置キ有給吏員トシテ府縣知事ノ認可ヲ得テ市長之ヲ任免ス
前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ市長ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

區長ニ關シテハ第七十四條第四項第七十五條第七十六條第一項及第七十七條ノ規定ヲ準用ス

第八十條 前條ノ市ハ區ニ區收入役一名又ハ區收入役及區副收入役各一名ヲ置クコトヲ得

區收入役及區副收入役ハ市長助役市收入役市副收入役區長トノ間及其ノ相互ノ間ニ父子兄弟タル緣故アラサル區ノ吏員中ニ就キ市長之ヲ命ス

第八十一條 第七十九條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス
區長及其ノ代理者ハ市會ニ於テ市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第八十二條 市ハ市條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス
委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第八十三條 市公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ市公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレ又ハ第十一條第三項ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲公民權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產

ノ宣告ヲ受ケ又ハ第十一條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ
前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第八十四條 前數條ニ定ムルモノノ外市ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ市長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
第八十五條 前數條ニ定ムルモノノ外第七十九條ノ市ノ區ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ區長ノ申請ニ依リ市長之ヲ任免ス
前項吏員ノ定數ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 市吏員ノ職務權限及處務規程

第八十六條 市長ハ市ヲ統轄シ市ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス
市長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 市會及市參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ市會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ市長ノ職權ニ屬スル事項

第八十七條 市長ハ議案ヲ市會ニ提出スル前之ヲ市參事會ノ審查ニ付シ若市參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ市參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ市會ニ提出スヘシ

第八十八條 市長ハ市吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免ニ係ル市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及十圓以下ノ過怠金トス

第八十九條 市會又ハ市參事會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メ

サルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ裁決又ハ處分ニ不服アル市長市會市參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市會又ハ市參事會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決市ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ

前項裁決ニ不服アル市長市會市參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十條 市會成立セス又ハ第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ若ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得第五十四條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

前項ニ依リ市參事會ニ於テ議決ヲ爲ストキハ市長及助役ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

市參事會成立セス又ハ第七十條第一項但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ其ノ議決スヘキ事件ニ付府縣參事會ノ議決ヲ請フコトヲ得同條第二項ノ規定ニ依リ出席會員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

市會又ハ市參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

市會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前四項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル市參事會又ハ府縣參事會ノ決定ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十一條 市參事會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セス又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルト

キ又ハ第七十條第二項ノ規定ニ依リ出席會員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ市長ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其ノ處分ヲ市參事會ニ報告スヘシ

前項市長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 市長其ノ他市吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十三條 市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市行政事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

市長ハ市吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九十四條 助役ハ市長ノ事務ヲ補助ス
助役ハ市長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第九十五條 收入役ハ市ノ出納其ノ他會計事務及第九十二條ニ關スル國府縣其他ノ公共團體ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

市長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ市ノ出納其ノ他會計事務ニ付テハ豫メ市會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

第七十九條ノ市ノ市長ハ前項ノ例ニ依リ收入役ノ事務ノ一部ヲ區收入役ニ分掌セシムルコトヲ得

副收入役ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス副收入役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

副收入役ヲ置カサル場合ニ於テハ市ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第九十六條 第七十九條ノ區長ハ市長又ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ區内ニ關スル市ノ事務及區ノ事務ヲ掌ル

區長其ノ他區ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

區長故障アルトキハ區ノ上席吏員之ヲ代理ス

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ市ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 區收入役ハ市收入役ノ命ヲ承ケ又ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣市其ノ他公共團體及區ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル

區收入役區副收入役ニ關シテハ第九十五條第二項第三項第五項及第六項ノ規定ヲ準用ス

區收入役區副收入役ノ職務權限處務規程ニ關シテハ本條ニ規定スルモノノ外市收入役市副收入役ニ關スル規定ヲ準用ス

第九十八條 第八十一條ノ區長ハ市長ノ命ヲ承ケ市長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助執行ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第九十九條 委員ハ市長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他市行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第一百條 第八十四條ノ吏員ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第一百一條 第八十五條ノ吏員ハ區長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

區長ハ前項ノ吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第一百二條 市長ハ處務規程ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三款 給料及給與

第一百三條 市會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職區長區長代理者及委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ市會ノ決議ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第一百四條 市長助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

市長ノ給料額ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

額旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第一百五條 有給吏員ノ退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ市條例ヲ以テ之ヲ定ム

第一百六條 前數條ニ定ムルモノノ外市ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サントスルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第一百七條 費用辨償報酬給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百八條 費用辨償報酬給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ市ノ負擔トス

第五章 市ノ財務

第一款 財產營造物及市稅

第一百九條 市ハ不動產積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

市ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

第一百十條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ市内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ市會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス

前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第一百十一條 市ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ

徵收スルコトヲ得

第百十二條 市ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ市内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

市ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第百十三條 市ハ第百十條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ市規則ヲ設クルコトヲ得

第百十四條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ市會ノ同意ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第百十五條 市ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百十六條 市ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ市ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

市ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手数料過料過怠金其ノ他法律勅令ニ依リ市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ市税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第百十七條 市税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第百十八條 三箇月以上市内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初二週リ市税ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百十九條 市内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖市内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ市内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若

ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル市税ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百二十條 納稅者ノ市外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件

若ハ其ノ收入又ハ市外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル

住所滞在數市町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ市税ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係市町村ニ平分シ其ノ一部ニミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第百二十一條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テハ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ市税ヲ賦課スルコトヲ得ス

前各項ノ外市税ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル市税ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第百二十二條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

市内ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ市税ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ市内ノ一部ヲ利スル財産ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル

第二百二十三條 數個人又ハ市内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 市税及其ノ賦課徵收ニ關シテハ法律中規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二百二十五條 市ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接市税ヲ準率ト爲シ直接市税ヲ賦課セサル市ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二百二十六條 市税ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日没迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間間家宅營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二百二十七條 市長ハ納稅者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ市參事會ノ議決ヲ經ヘシ

市長ハ特別ノ事情アル者ニ限リ市參事會ノ議決ヲ經テ市税ヲ減免スルコトヲ得

第二百二十八條 使用料手数料及特別税ニ關スル事項ニ付テハ市條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル市規則ニ付亦同シ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ市長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十九條 市税ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三箇月以内ニ市長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ市長ニ申立ツル

コトヲ得

本條ノ異議ハ之ヲ市參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三百十條 市税使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他市ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ市長ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ其ノ急迫ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ市條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條市長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第三百十一條 市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ已ヲ得サル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第三百三十二條 市長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遅クトモ年度開始ノ

一箇月前ニ市會ノ議決ヲ經ヘシ

市ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ市會ニ提出スルトキハ市長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出ス

ヘシ

第三百三十三條 市長ハ市會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコ

トヲ得

第三百三十四條 市費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモ

ノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ市會ノ議決ヲ經テ其ノ

年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三百三十五條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設ク

ヘシ

豫備費ハ市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三百三十六條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ且其ノ要

領ヲ告示スヘシ

第三百三十七條 市ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第三百三十八條 市會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其ノ謄本ヲ收

入役ニ交付スヘシ

收入役ハ市長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

又市長ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用

其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第三百三十九條 市ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第四百十條 市ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且每會計年度少クトモ

二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ市長之ヲ爲シ臨時検査ニハ名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事

會員二名以上ノ立會ヲ要ス

第四百十一條 市ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市長ニ提

出スヘシ市長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ

之ヲ市會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル市會ノ議決ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ且決算ハ其

ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ヲ市參事會ノ會議ニ付スル場合ニ於テハ市長及助役共ニ故障アルモ

ノトス

第四百二十二條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定

ハ內務大臣之ヲ定ム

第六章 市内一部ノ行政

第四百二十三條 市内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ市有財

産ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在

ラス

前項ノ爲特ニ要スル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル市内ノ一部ノ負擔トス

市内一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第四百二十四條 市内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ市内ノ一部ヲ利スル財産

營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ市會ノ意見ヲ徵シ府縣參

事會ノ議決ヲ經テ市條例ヲ設定シ區會ヲ設ケテ該事件ニ關シ市會ノ議決

スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

第四百四十五條 區會議員ハ市ノ名譽職トス其ノ定員任期及選舉權被選舉權

ニ關スル事項ハ前條ノ市條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第四百四十六條 區會議員ノ選舉ニ付テハ市會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但

シ選舉人名簿選舉又ハ當選ノ效力及被選舉權ニ關スル異議ノ決定ハ市會

ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會議員ノ選舉ニ付テハ市條例ヲ以テ選舉人ノ等級ヲ設ケサルコトヲ得

區會ニ關シテハ市會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四百四十七條 市内一部ノ行政ニ關シ本章中規定スルモノノ外必要ナル事

項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 市町村組合

第四百四十八條 市町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ

府縣知事ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ設クルコトヲ得

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ

府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ市町村組合ヲ設クル

コトヲ得

第四百十九條 前條ノ市町村組合ニシテ其ノ組合市町村ノ數ヲ増減シ又ハ
共同事務ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事
ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ
府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合市町村ノ數ヲ増減シ又
ハ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得

第五百十條 市町村組合ヲ設クルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ組合規
約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ組合規約ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ
府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更ス
ルコトヲ得

第五百十一條 組合規約ニ於テハ組合ノ名稱組合ヲ組織スル市町村組合ノ
共同事務組合役場ノ位置組合會ノ組織及選舉組合吏員ノ組織及選任組合
費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クルコトヲ要ス

第五百十二條 市町村組合ハ法人トス
市町村組合ニ關シテハ市ニ關スル規定ヲ準用ス但シ法律勅令ヲ以テ別段
ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五百十三條 市町村組合ヲ解カムトスルトキハ關係市町村ノ協議ニ依リ
府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ
府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ市町村組合ヲ解クコトヲ得

第五百十四條 第四百十九條第一項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產處分其
ノ他必要ナル事項ハ關係市町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ
第五百十九條第二項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル
事項ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事
之ヲ定ム

第五百十五條 第四百十八條第二項第四百十九條第二項第五百十條第二項
及第五百十三條第二項ノ場合ヲ除クノ外本章府縣知事ノ處分ニ不服アル
者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第八章 市行政ノ監督
第一百五十六條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内

務大臣之ヲ監督ス

第五百十七條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外市ノ行政ニ關スル府
縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコ
トヲ得ス

第五百十八條 本法ニ依リ府縣參事會ノ議決決定若ハ裁決ヲ請ヒ又ハ府縣
參事會ニ對シ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ府縣知事ニ之ヲ申立ツヘシ

第五百十九條 本法ニ規定スル異議又ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ
裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十
四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限
ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其
ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申
立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ
依ル

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依
リ又ハ關係者ノ請求ニ作リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第六十條 監督官廳ハ市行政ノ法令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサ
ルヤ又ハ其ノ事務錯亂滯塞サルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行
政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ視察
シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ市行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ市行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ
停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第六十一條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ市會ノ停會
ヲ命スルコトヲ得

第六十二條 内務大臣ハ市會ノ解散ヲ命スルコトヲ得
市會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第六十三條 市ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ

命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

市又ハ市長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ府縣知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ市ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル市又ハ市長其ノ他ノ吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第六十四條 市長助役收入役副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ市費ヲ以テ辨償セシムヘシ臨時代理者ノ給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第六十五條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市條例ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ大ナル變更ヲ爲ス事

三 使用料手数料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第六十六條 左ニ掲クル事件ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市債ヲ起シ或起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第三百三十一條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租十分ノ三其ノ他直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第六十七條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 市規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

三 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

四 第一百十條ノ處分ヲ爲ス事

五 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

六 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

八 第二百二十二條ニ依リ數個人又ハ市内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

九 市稅納稅義務者ノ一部ニ對シ又ハ第二百二十五條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

十 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

十一 特別會計ヲ設クル事

第六十八條 市ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第六十九條 市ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第七十條 府縣知事ハ市長助役收入役副收入役委員區長區長代理者其ノ他市吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ市長助役收入役副收入役及第七十九條ノ區長ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經市長ニ付テハ仍勅裁ヲ經ルコトヲ要ス

懲戒審査會ハ町村制第一百五十四條ノ定ムル所ニ依リ

解職ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ市長ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事ハ市長助役收入役副收入役及第七十九條ノ區長ノ解職ヲ行ハム

トスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二箇年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレルコトヲ得ス

第七十一條 市吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九章 雜則

第七十二條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件

ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣

ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事府縣參事會ヲ指定スヘシ

第七十三條 本法中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定シタ

ル市ノ有給吏員ノ組織任用分限等及區ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百七十四條 本法ニ記載スル人口ハ内務大臣ノ告示スル所ニ依ル

第百七十五條 本法ニ定ムル直接税ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百七十六條 本法施行ノ際現ニ市會議員區會議員ノ職ニ在ル者ハ本法施行後舊規定ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 市制改正法律案ノ理由ヲ簡單ニ陳述イタシマス、是ハ御承知ノ通りニ數年來實行イタシマシテ段々實行上、改正スベキ點ヲ發見イタシタコトガ多イノデアリマス、依テ此實際ノ情況ニ顧ミマシテ今回改正案ヲ提出イタシマシタガ、御覽ノ通り甚ダ多數ノ箇條デアリマスカラ悉ク大體ト申シマシテモ之ヲ説明スルノハ便ナラヌ次第デアリマスガ、要スルニ從來ノ實驗ニ徴シマスルト、市制ノ改正ハ今日ニ於テ最モ急務ト考ヘマス、郡市ノ自治制モ段々發達ヲ致シタニ相違アリマセスガ、一二ノ例ヲ申シマスレバ市長ト市參事會ノ關係ノ如キモ現今ノ有様デハ到底市長ヲシテ十分ニ責任ヲ取ツテ働カシムルコトハ出來ヌト考ヘマスカラ、是等モ改正イタシマシタ次第デアリマス、斯様ナル次第實驗上已ムヲ得ヌ所ニ改正ヲ加ヘマシタノデアリマス、箇條モ多數デアリマスルデ、何レ詳細ノコトハ委員會ニ於テ陳述イタサウト考ヘマス、大體斯ノ如キ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御發言ガゴザイマセヌカラ次ノ議事日程ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉

○子爵岡部長職君 此特別委員ハ前案ノ特別委員ト同一委員ニ致シタイト考ヘマス

〔贊成ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 岡部子爵ノ動議ノ通りデ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ニ議事日程第十五、町村制改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

町村制改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月十七日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

〔小字ハ修正、ハ削除ノ符號〕

町村制 町村制改正法律案

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第三款 町村條例及町村規則

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第二款 職務權限及處務規程

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選舉及任免

第二款 町村吏員ノ職務權限及處務規程

第三款 給料及給與

第四章 町村ノ財務

第一款 財產營造物及町村稅

第二款 歲入出豫算及決算

第五章 町村内一部ノ行政

第六章 町村組合

第七章 町村行政ノ監督

第八章 雜則

町村制

第一章 總則

第一款 町村及其ノ區域

第一條 町村ハ從來ノ區域ニ依ル

第二條 町村ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務並從來法令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ府縣知事ハ關係アル市町村會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

第四條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村ノ境界判明ナラサル場合ニ於テ前項ノ爭論ナキトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ裁決及決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ關係町村ニ交付スヘシ
本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五條 町村ノ名稱ヲ變更シ又ハ村ヲ町ト爲シ若ハ町ヲ村ト爲スコトヲ要スルトキハ町村ノ申請ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

町村役場ノ位置ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ要スルトキハ町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二款 町村住民及其ノ權利義務

第六條 町村内ニ住所有スル者ハ其ノ町村住民トス

町村住民ハ本法ニ從ヒ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ町村ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第七條 帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ一戸ヲ構フル滿二十五年以上ノ男子二箇年以來町村ノ住民ト爲リ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村内ニ於テ

直接國稅ヲ納ムル者ハ其ノ町村公民トス但シ公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二箇年ヲ經サル者及禁治產者準禁治產者ハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ郡長ノ許可ヲ得テ前項二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得
家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

町村公民ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ第一項町村公民ノ要件中町村ノ負擔分任ニ關スル規定ヲ適用セス

第八條 町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラルル權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ退職シ又ハ其ノ職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一箇年以上六箇年以下町村公民權ヲ停止シ場合ニ依リ其ノ停止年期以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ増課スルコトヲ得

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 業務ノ爲常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

三 滿六十年以上ノ者

四 官職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四箇年以上名譽職町村吏員ノ職ニ任シ又ハ六箇年以上町村會議員若ハ區會議員ノ職ニ任シ爾後同一ノ期間ヲ經過セサル者

六 其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムル者
前項ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條 町村公民ニシテ第七條ニ掲ケタル要件ノ一ヲ失フトキハ其ノ公民權ヲ失フ

町村公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定ス

ル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定ニ至ル迄亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第三款 町村條例及町村規則

第十條 町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

町村ハ町村ノ營造物ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及町村規則ハ法令ニ牴觸スルコトヲ得ス

町村條例及町村規則ハ一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ハ其ノ被選舉權アル者ニ就キ選舉人ノ選舉ス

町村會議員ノ定數左ノ如シ

一人口千五百未満ノ町村ニ於テハ

議員 八人

一人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ

議員 十二人

一人口五千以上一萬未満ノ町村ニ於テハ

議員 十八人

一人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ

議員 二十四人

一人口二萬以上ノ町村ニ於テハ

議員 三十人

町村會議員ノ定數ハ町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得但シ三十人ヲ超ユルコトヲ得ス

總選舉ナ行フ場合

町村會議員ノ定數ハ定期改選ノ時ニ非サレハ之ヲ増減セス但シ著シク人口ノ増減アリタル場合ニ於テ内務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 町村公民ハ總テ選舉權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者又ハ第九條

第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其ノ額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一名ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖選舉權ヲ有ス但シ第九條第二項ノ公民權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此ノ限ニ在ラス

帝國法律ニ依リ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ
直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ其ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅ニ依リ前二項ノ規定ヲ適用ス

本條ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ルヘシ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半

ニ當ルヘキ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス但シ一級選舉人ノ數三名ニ滿タサルトキハ納額最多キ者三名ヲ以テ一級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ルヘシ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若住所ヲ有スル年數同シトキハ年長者ヲ以テシ年齡同シトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス

被選舉人ハ同級内ノ者ニ限ラス各級ニ通シテ選舉セラルコトヲ得

直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ本條ノ納稅額ハ選舉人ノ町村内ニ於テ納ムル直接國稅額ニ依ルヘシ

本條ノ直接町村稅及直接國稅ノ納額ニ關シテハ前條第五項ノ規定ヲ準用ス

特別ノ事情アリテ本條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ特別ヲ設クルコトヲ得

第十四條 特別ノ事情アルトキハ町村ハ郡長ノ許可ヲ得區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但シ特ニ二級選舉ノ爲ノミニ之ヲ設クルモ妨ケナシ

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民ハ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員

二 其ノ町村ノ有給吏員

○名譽職町村長名譽職助役及

- 三 檢事、警察官吏及收稅官吏
- 四 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師
- 五 小學校教員

前項ニ掲ケサル官吏ニシテ當選シ之ニ應セムトスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

町村ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲ス者又ハ町村ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ町村ニ於テ被選舉權ヲ有セス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其ノ同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニ依リ其ノ多キ者一人ヲ當選トシ若同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其ノ時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若議員トノ間ニ其ノ緣故アル者町村長又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル議員ハ其ノ職ヲ失フ

第十六條 町村會議員ハ名譽職トス

町村會議員ノ任期ハ六箇年トシ^四每三箇年各級ニ於テ其ノ半數ヲ改選ス若各級ノ議員數二分シ難キトキハ先ツ多數ノ一半ヲ解任ス初回ノ半數改選ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル^{○爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツヘシ}トキハ各級各任期ノ議員數ヲ同シカラシムル方法ニ依リ其ノ増員又ハ減員ヲ配當ス若之ヲ同シカラシメ難キトキハ任期ノ短キモノヲ多カラシムル方法ニ依リ配當ス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲新ニ選舉セラレタル議員ハ次ノ總選舉迄在任ス前項ノ場合ニ於テ解任ヲ要スルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ議員アルトキハ其ノ議員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第十七條 町村會議員中關員

○チ生シ其ノ議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長若ハ町村長町村會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ
選舉ヲ行フヘシ但シ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ郡長若ハ町村長町村會ニ於テ臨時補關ヲ必要ト認ムルトキハ定期改選前ト雖補關選舉ヲ行フヘシ

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補關議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十八條 町村長ハ選舉期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ但シ選舉分會ヲ設クルトキハ名簿ニ依リ分會ノ區畫毎ニ名簿ヲ抄本ヲ調製スヘシ

町村長ハ其ノ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ縱覽期限後三日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ決定又ハ裁決ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前三項ノ決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ町村長ハ其ノ確定期日迄ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其ノ確定シタル日ヨリ一箇年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用ウ但シ名簿確定後訴願ノ裁決又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日ノ前三日迄ニ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登錄セラレヘキ確定裁決書又ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ選舉人ハ等級ノ標準タル直接町村稅又ハ直接國稅ニ依リ其ノ者ノ納額ニシテ名簿ニ登錄セラレタル一級選舉人中ノ最少額ヨリ多キトキハ一級ニ於テ其ノ他ハ二級ニ於テ選舉ヲ行フヘシ但シ直接町村稅又ハ直接國稅ヲ以テ等級ノ標準ト爲ササル町村ニ於テハ選舉長ノ定ムル所ニ依ル

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調製縱覽修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ郡長ノ定ムル所ニ依ル天災事變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉ノ期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用非縱覽修正及確定ニ關スル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

第十九條 選舉ヲ行フトキハ町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クモ七日前ニ選舉會場投票ノ日時及各級ヨリ選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ選舉分會ヲ設

クル場合ニ於テハ併セテ其ノ等級及區畫ヲ告示スヘシ

投票時間内ニ選舉會場ニ入リタル選舉人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

選舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開始スヘシ

選舉ヲ行フ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フヘシ

第二十條 町村長ハ選舉長ト爲リ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

選舉分會ハ町村長ノ指名シタル吏員分會掛長ト爲リ之ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

町村長ハ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ但シ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各別ニ選舉立會人ヲ設クヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十一條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

選舉會場ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選舉會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉長又ハ分會掛長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ選舉會場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選舉會場閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ到リ選舉人名簿又ハ其ノ抄本ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ但シ確定名簿ニ登録セラレタル毎級選舉人ノ數其ノ選舉スヘキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票ノ法ヲ用ウヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス投票用紙ハ町村長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ送致スヘシ

第二十三條 定期改選増員選舉補關選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十四條 第十二條第二項及第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但シ滿二十五年以上ノ男子ニ非サル者禁治產者

及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ且公權停止中ニ非サル滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第七條第一項但書ニ當ル者第八條ニ依ル公權停止中ノ者及第九條第二項ノ公權停止ノ條件又ハ同條第三項ノ場合ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其ノ他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長又ハ分會掛長ニ示スヘシ

第二十五條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ノ法ヲ用非タル場合ニ於テハ第一號及第六號ニ該當スルモノ及其ノ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キタルモノハ之ヲ無効トシ第二號第四號及第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

二 現ニ町村會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

三 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

選舉分會ニ於ケル投票ノ拒否ハ其ノ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ分會掛長之ヲ決スヘシ

第二十七條 町村會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ各級ニ於テ選舉スヘキ議員數ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル各級ノ人員數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選者ヲ定ムルニ當リ議員ノ任期異ナルモノアルトキハ得票數ノ多キ者ヲ以テ任期ノ長キモノニ充ツ

前二項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第二十八條 選舉長又ハ分會掛長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉又ハ投票ノ顛末ヲ記載シ選舉又ハ投票ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

選舉分會掛長ハ投票函ト同時ニ選舉錄ヲ本會ニ送致スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第二十九條 當選者定マリタルトキハ町村長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

當選者ニシテ當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタルヨリ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツヘシ但シ第十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應スルヤ否ヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ町村長ニ申立ツヘシ其ノ期間内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス但シ第十五條第三項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本項ニ定ムル期間ヲ二十日トス

第三十條 町村會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ第二十七條ノ例ニ

依リ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ム

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ町村長ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者其ノ當選ヲ辭セサルトキハ町村長ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

第三十二條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ前條告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ七日以内ニ町村會ノ決定ニ付スヘシ町村會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

郡長ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ前條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ當選ニ關シテハ前條第二項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

前項郡長ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及町村會ノ決定ハ無効トス

本條郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第二項ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十三條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ被選舉權ヲ有セサル爲其ノ他當選無効ト確定シタルトキハ第二十七條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ム

第三十四條 選舉ニシテ無効ト確定シタルトキ又ハ前數條ノ規定ニ依リ議員ノ定數ニ足ル當選者ヲ得ル能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十五條 町村會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ町村會之ヲ決定ス

町村長ニ於テ町村會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之

ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ

本條町村會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ府縣知事町村長ヨリモ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十六條 本款ニ規定スル異議ノ決定訴願ノ裁決及第三十二條第三項ノ處分ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ開設スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第三十八條 特別ノ事情アル町村ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村會ヲ設ケス選舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
町村總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二款 職務權限及處務規程

第三十九條 町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

第四十條 町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 町村條例及町村規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業但シ第七十八條ノ事務其ノ他法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 歳入出豫算ヲ定メ豫備費ノ支出ヲ認定スル事

四 決算報告ヲ認定スル事

五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金町村税及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

六 不動産ノ管理處分及買受^{取得}讓受ニ關スル事

七 基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律勅令中ニ規定アルモノ

ハ此ノ限ニ在ラス

十 町村吏員ノ身元保證ニ關スル事

十一 町村ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事

第四十一條 町村會ハ法律勅令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十二條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

町村會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ町村長又ハ其ノ指名シタル吏員立會ノ上實地ニ就キ前項町村會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムコトヲ得

第四十三條 町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第四十四條 町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

町村會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ町村會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セス又ハ町村會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該行政廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十五條 町村會ハ^{議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ}町村長ヲ以テ議長トス町村長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス町村長及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ總選舉毎ニ之ヲ改選スヘシ
議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十六條 町村長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十七條 町村會ハ町村長之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ町村長ハ之ヲ招集スヘシ

町村長ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ町村會ヲ招集スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

町村會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ町村長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

町村會ハ町村長之ヲ開閉ス

第四十八條 町村會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ關キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十九條 町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十條 議長及議員ハ自己又ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ町村會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第五十一條 法律勅令ノ規定ニ依リ町村會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用シ投票ノ效力ニ關シ異議アルトキハ町村會之ヲ議決ス

前項ノ選舉ニ付テハ町村會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選又ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十二條 町村會ノ會議ハ公開ス但シ^{左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス}議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

一 町村長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ
前項又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須キス其ノ否決ヲ決スヘシ

第五十三條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十四條 町村會議員ハ選舉人ノ指示又ハ委嘱ヲ受クヘカラス

第五十五條 町村會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用非又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第五十六條 會議中本法又ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員

アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉スルコトヲ得

第五十七條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第五十八條 町村會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十九條 議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ町村會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ町村長ニ報告スヘシ

第六十條 町村會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ本法及會議規則ニ違反シタル議員ニ對シ町村會ノ議決ニ依リ五日以内出席ヲ停止シ又ハ二圓以下ノ過怠金ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織選舉及任免

第六十一條 町村ニ町村長助役各一名ヲ置ク但シ町村條例ヲ以テ助役ノ定數ヲ増加スルコトヲ得

第六十二條 町村長及助役ハ名譽職トス

町村ノ情況ニ依リ町村條例ヲ以テ町村長助役ヲ有給ト爲スコトヲ得

第六十三條 町村長及助役ノ任期ハ四箇年トス

第六十四條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス
名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉スヘシ但シ特ニ必要アル場合ニ於テハ一戸ヲ構ヘサル者ト雖他ノ被

選資格ノ要件ヲ具備スルトキハ之ヲ選舉スルコトヲ得
町村公民ニ非シテ町村長又ハ助役タル者ハ在職ノ間其ノ町村公民權ヲ得

第六十五條 町村長又ハ助役ヲ選舉シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
前項ノ場合ニ於テ府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具狀シテ認可ヲ請フコトヲ得

町村長及助役ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ任期中退職スルコトヲ得ス

前項ノ認可ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ職務ニ關シ第八條第二項ノ規定ヲ適用セス

第六十六條 町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲ケタル職ト相兼ヌルコトヲ得ス又其ノ町村ノ爲工事ノ請負物件勞力其ノ他供給ノ契約若ハ金錢出納ノ取扱ヲ爲シ又ハ其ノ町村ノ爲同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ役員タルコトヲ得ス

父子兄弟タル緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役タルコトヲ得ス若其ノ緣故アル者助役ノ選舉ニ當リタルトキハ其ノ當選ヲ無効トシ町村長ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル助役ハ其ノ職ヲ失フ助役數名アル場合ハ第十五條第五項ノ規定ヲ適用ス

第六十七條 有給町村長及有給助役ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業又ハ他ノ報償アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

有給町村長及有給助役ハ營利ヲ目的トスル法人ノ役員又ハ事務員タルコトヲ得ス

第六十八條 町村ニ收入役一名ヲ置ク但シ特別ノ事情アル町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ副收入役一名ヲ置クコトヲ得

收入役及副收入役ハ有給吏員トシ其ノ任期ハ四箇年トス

收入役及副收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選定シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

收入役及副收入役ニ關シテハ第六十四條第三項第六十五條第二項第六十六條及第六十七條ノ規定ヲ適用ス

町村長又ハ助役トノ間ニ父子兄弟タル緣故アル者ハ之ト同時ニ收入役又ハ副收入役タルコトヲ得ス若收入役又ハ副收入役トノ間ニ其ノ緣故アル

者町村長又ハ助役ニ選舉セラレ其ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ緣故アル收入役又ハ副收入役ハ其ノ職ヲ失フ

特別ノ事情アル町村ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十九條 町村ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者各一名ヲ置クコトヲ得

區長及其ノ代理者ハ名譽職トス

區長及其ノ代理者ハ町村會ニ於テ町村公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

第七十條 町村ハ町村條例ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ第一項ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十一條 名譽職町村長及名譽職助役其ノ他町村公民ニ限リテ擔任スヘキ職務ニ在ル吏員ニシテ町村公民權ヲ喪失シ若ハ停止セラレ又ハ第九條第三項ニ當ルトキハ其ノ職ヲ失フ職ニ就キタルカ爲公民權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ禁治產若ハ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ又ハ第九條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキ及第六十四條第二項但書ニ依リ選舉セラレタル者ニシテ其ノ被選資格ノ要件ヲ失フトキ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル者ニシテ禁錮以上ノ刑ニ當ルヘキ罪ノ爲豫審又ハ公判ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其ノ職務ノ執行ヲ停止シ併セテ其ノ報酬又ハ給料ヲ支給セシメサルコトヲ得

第七十二條 前數條ニ定ムルモノノ外町村ニ書記其ノ他必要ノ吏員ヲ置キ町村長之ヲ任免ス

前項吏員ノ定數ハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二款 町村吏員ノ職務權限及處務規程

第七十三條 町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表シ其ノ行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 町村會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事

二 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務

ヲ監督スル事

三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

四 證書及公文書類ヲ保管スル事

五 法令又ハ町村會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

六 其ノ他法令ニ依リ町村長ノ職權ニ屬スル事項

第七十四條 町村長ハ町村吏員ヲ指揮監督シ其ノ任免ニ係ル町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第七十五條 町村會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ裁決ヲ請フコトヲ得

監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ裁決ノ申請アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項郡長ノ處分ニ不服アル町村長町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ前二項ノ裁決若ハ處分ニ不服アル町村長町村會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

町村會ノ議決公益ヲ害シ又ハ其ノ議決町村ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ町村長ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ郡長ノ指揮ヲ請フヘシ前項郡長ノ處分ニ不服アル町村長町村會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十六條 町村會成立セス又ハ第四十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ郡長ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

町村會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル町村會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル

町村長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ町村會ニ報告スヘシ

第七十七條 町村會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ町村會成立セス又ハ町村長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ又ハ第五十條ノ規定ニ依リ出席議員ノ數減少シテ會議ヲ開クコト能ハサルトキハ町村長ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其ノ處分ヲ町村會ニ報告スヘシ

前項町村長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第七十八條 町村長其ノ他町村吏員ハ法令ノ定ムル所ニ依リ國及府縣其ノ他公共團體ノ行政事務ヲ掌ル

本條ノ事務ヲ執行スル爲要スル費用ハ町村ノ負擔トス但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ一部ヲ助役又ハ區長ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村行政事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

町村長ハ町村吏員ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十條 助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス

第八十一條 收入役ハ町村ノ出納其ノ他會計事務及第七十八條ニ關スル國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他會計事務ヲ掌ル但シ法令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理スヘキ吏員ヲ定メ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但シ副收入役ヲ置キタル町村ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

副收入役ハ收入役ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ郡長ノ許可ヲ得テ收入役ノ事務ノ一部ヲ副收入役ニ分掌セシムルコトヲ得但シ町村ノ出納其ノ他會計事務ニ付テハ豫メ町村會ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス

副收入役ハ收入役故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十二條 區長ハ町村長ノ命ヲ承ケ町村長ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助執行ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第八十三條 委員ハ町村長ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他町村行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第八十四條 第七十二條ノ吏員ハ町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八十五條 町村長ハ處務規程ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三款 給料及給與

第八十六條 町村會議員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

名譽職町村長名譽職助役區長及區長代理者並委員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額報酬額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經郡長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第八十七條 有給町村長有給助役其ノ他有給吏員ノ給料額旅費額及其ノ支給方法ハ町村會ノ議決ヲ經郡長ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第八十八條 有給吏員ノ退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ町村條例ヲ以テ之ヲ定ム

第八十九條 前數條ニ定ムルモノノ外町村ニ於テ吏員又ハ其ノ退職者ニ對シ賞與慰勞其ノ他特別ノ給與ヲ爲サムトスルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第九十條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料ノ給與ニ付關係者ニ於テ異議アルトキハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 費用辨償報酬給料旅費退職料退職給與金死亡給與金遺族扶助料其ノ他諸給與ハ町村ノ負擔トス

第四章 町村ノ財務

第一款 財産營造物及町村稅

第九十二條 町村ハ不動産積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スル義務アリ

臨時ニ取得シタル財産ハ基本財産ニ加入スヘシ但シ寄附ニ係ル物件ニシテ寄附者其ノ使用ノ目的ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

町村ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ基本財産ニ加入スヘキモノノ全部又ハ一部ヲ特別ノ基本財産又ハ積立金穀等ニ加入スルコトヲ得

第九十三條 舊來ノ慣行ニ依リ數個人又ハ町村内ノ一部ニ於テ特ニ營造物又ハ財産ヲ使用スル權利ヲ有スルトキハ其ノ舊慣ニ依リ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其ノ舊慣ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得ス

前項ノ營造物又ハ財産ヲ新ニ使用セムトスル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九十四條 町村ハ前條第一項ノ使用者ヨリ使用料ヲ徵收シ同條第二項ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

第九十五條 町村ハ營造物又ハ公共ノ使用ニ供スル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

數個人又ハ町村内ノ一部ヲ利スル營造物又ハ財産ノ使用ニ關シテハ使用料若ハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收スルコトヲ得

町村ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十六條 町村ハ第九十三條及前條ニ規定スル財産ノ使用方法ニ關シ町村規則ヲ設クルコトヲ得

第九十七條 財産ノ賣却貸與工事ノ請負及物件勞力其ノ他ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ入札ノ價額其ノ費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ同意ヲ得ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 町村ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 町村ハ其ノ必要ナル費用及從來法令ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依リ町村ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

町村ハ其ノ財産ヨリ生スル收入使用料手數料過料過怠金其ノ他法律勅令

ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ町村税及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第一百條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得ヘキモノ左ノ如シ
一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス

國稅ノ附加稅タル府縣稅ニ對シテハ附加稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
特別稅ハ別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第一百一條 三箇月以上町村內ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初ニ遡リ町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第一百二條 町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ町村內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業又ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 納稅者ノ町村外ニ於テ所有シ使用シ若ハ占有スル土地家屋物件若ハ其ノ收入又ハ町村外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業若ハ其ノ收入ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ數市町村ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ營業又ハ其ノ收入ニ對スル本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係市町村ニ於テ附加稅ヲ賦課スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依ル住所滞在數市町村ニ涉ル者ノ收入ニ對シ町村稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ關係市町村ニ平分シ其ノ一部ニミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第一百四條 所得稅法第五條ニ掲クル所得ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

神社遙拜所寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物ニシテ其ノ境内地ニ存在スルモノ及其ノ境内地教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者ニ賦課スル場合及住宅ヲ以テ

教會所說教所ノ用ニ充ツルモノハ此ノ限ニ在ラス

國府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル家屋物件及營造物ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ賃貸者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

國有ノ土地家屋物件ニ對シテハ國ニ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
前各項ノ外町村稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノハ別ニ法律勅令ノ定ムル所ニ依ル

皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル
第一百五條 數個人ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ關係者ニ負擔セシムルコトヲ得

町村內ノ一部ヲ利スル營造物ノ設置維持其ノ他必要ナル費用ハ其ノ部内ニ於テ町村稅ヲ納ムル義務アル者ニ負擔セシムルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ營造物ヨリ生スル收入又ハ一部ノ收入アルトキハ先ツ其ノ收入ヲ以テ其ノ費用ニ充ツヘシ

數個人又ハ町村內ノ一部ヲ利スル財產ニ付テモ亦本條ノ例ニ依ル
第一百六條 數個人又ハ町村內ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第一百七條 町村稅及其ノ賦課徴收ニ關シテハ法律中規定アルモノノ外勅令ノ定ムル所ニ依ル

第一百八條 町村ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ納稅義務者ノ全部又ハ一部ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ直接町村稅ヲ賦課セサル町村ニ於テハ直接國稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百九條 町村稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第一百十條 町村長ハ納税者中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限り納税延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ町村會ノ議決ヲ經ヘシ町村長ハ特別ノ事情アル者ニ限り町村會ノ議決ヲ經テ町村稅ヲ減免スルコトヲ得

第一百十一條 使用料手数料及特別稅ニ關スル事項ニ付テハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定スヘシ其ノ條例中ニハ二圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得營造物又ハ財産ノ使用方法ニ關スル町村規則ニ付亦同シ過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第一百十二條 町村稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書ノ交付後三箇月以内ニ町村長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

財產又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得
本條ノ異議ハ之ヲ町村會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得使用料手数料加入金ノ徵收及夫役現品ノ賦課ニ關シテモ亦前數項ノ例ニ依ル

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一百十三條 町村稅使用料手数料加入金過料過怠金其ノ他町村ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者定期内ニ其ノ履行ヲ爲サス又ハ夫役現品ニ代フル金錢ヲ納メサルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ督促スヘシ其ノ急迫ノ場合ニ賦課シタルモノニ付テハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ其ノ納付ヲ命スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ町村條例ノ規定ニ依リ手数料ヲ徵收スルコトヲ得
滯納者第一項又ハ第二項ノ督促又ハ命令ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ仍之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條町村長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事町村長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
本條第四項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第一百十四條 町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲メ又ハ町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲メ又ハ天災事變等ノ爲メ已ヲ得サル場合ニ限り町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二款 歲入出豫算及決算

第一百十五條 町村長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ遲クトモ年度開始ノ一箇月前ニ町村會ノ議決ヲ經ヘシ

町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ
豫算ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ事務報告書及財産表ヲ提出スヘシ

第一百十六條 町村長ハ町村會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第一百十七條 町村費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ町村會ノ議決ヲ經テ其ノ年期间各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第一百十八條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第一百十九條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ郡長ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第一百二十條 町村ハ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二百一十一條 町村會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其ノ謄本ヲ收入役ニ交付スヘシ

收入役ハ町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又町村長ノ命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

本條ノ規定ハ收入役ノ事務ヲ兼掌シタル町村長又ハ助役ニ之ヲ準用ス

第二百一十二條 町村ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第二百一十三條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ且毎會計年度少クトモ二回臨時検査ヲ爲スヘシ

検査ハ町村長之ヲ爲シ臨時検査ニハ町村會ニ於テ選舉シタル議員二名以上ノ立會ヲ要ス

第二百一十四條 町村ノ出納閉鎖ハ翌年度六月三十日ヲ限トス

決算ハ出納閉鎖後一箇月以内ニ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出スヘシ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常豫算ヲ議スル會議迄ニ之ヲ町村會ノ認定ニ付スヘシ

第六十八條第六項ノ場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル但シ町村長ニ於テ兼掌シタルトキハ直ニ町村會ノ認定ニ付スヘシ

決算及其ノ認定ニ關スル町村會ノ議決ハ之ヲ郡長ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ町村長及助役共ニ故障アルモノトス

第二百二十五條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第五章 町村内一部ノ行政

第二百二十六條 町村内ノ一部ニ於テ從來所有スル財産ノ管理及處分ハ町村有財産ニ關スル規定ニ依ル但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ爲特ニ要スル費用ハ其ノ財産ヲ所有スル町村内ノ一部ノ負擔トス

町村内一部ノ會計ハ之ヲ分別スヘシ

第二百二十七條 町村内ノ一部ニ於テ有スル財産又ハ町村内ノ一部ヲ利スル

財産營造物ニ關シ必要アル場合ニ於テハ郡長ハ町村會ノ意見ヲ徴シテ町村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ設ケテ該事件ニ關シ町村會ノ議決スヘキ事項ノ全部又ハ一部ヲ議決セシムルコトヲ得

第二百二十八條 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定員任期及選舉權被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ

第二百二十九條 區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿選舉又ハ當選ノ效力及被選舉權ニ關スル異議ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百三十條 町村内一部ノ行政ニ關シ本章中規定スルモノノ外必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章 町村組合

第三百一十一條 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ關スル事項ナキトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

町村ニシテ特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村會及町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徴シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ本條ノ町村組合ヲ設クルコトヲ得

第三百十二條 前條第一項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サントスルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ減少セムトスルトキハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合町村ノ數ヲ増加セムトスルトキハ其ノ町村組合ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意

見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲スコトヲ得
第三百三十三條 町村組合ヲ設クルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ノ變更ヲ要スルトキハ一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

第三百三十四條 組合規約ニ於テハ組合ノ名稱組合ヲ組織スル町村組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムルコトヲ要ス

一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ於テハ前項ノ外仍組合會ノ組織及選舉組合吏員ノ組織及選任組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クルコトヲ要ス
第三百三十五條 町村組合ハ法人トス

町村組合ニ關シテハ町村ニ關スル規定ヲ準用ス但シ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百三十六條 町村組合ヲ解カムトスルトキハ一部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設ケタル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ解クコトヲ得

第三百三十七條 第三百三十二條第一項第二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係町村若ハ組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三百三十二條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產處分其ノ他必要ナル事項ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三百三十八條 第三百三十一條第三項第三百三十二條第三項第三百三十三條第三項及第三百三十六條第二項ノ場合ヲ除クノ外本章府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

ル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七章 町村行政ノ監督

第三百三十九條 町村行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第四百十條 本法中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外町村ノ行政ニ關スル郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四百十一條 本法ニ依リ府縣參事會ノ裁決ヲ請ヒ又ハ府縣參事會ニ對シ訴願ヲ爲ス場合ニ於テハ府縣知事ニ之ヲ申立ツヘシ

第四百十二條 本法ニ規定スル異議又ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

本法ニ規定スル行政訴訟ハ決定書又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依リ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第四百十三條 監督官廳ハ町村行政ノ法令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ又ハ其ノ事務ノ錯亂澁滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ及實地ニ就キ事務ヲ

視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

監督官廳ハ町村行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町村行政ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第四百十四條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ町村會ノ停

會ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 內務大臣ハ町村會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

町村會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第四百十六條 町村ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ郡長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス

本條ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四百十七條 町村長助役收入役副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ

臨時代理者ノ給料額旅費額又ハ費用辨償額報酬額等ハ監督官廳之ヲ定ム

第四百十八條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ及改廢スル事

二 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ大ナル變更ヲ爲ス事

三 使用料手数料加入金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

第四百十九條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更スル事但シ第四百十四條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租十分ノ三其ノ他直接國稅二分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

四 間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第五百十條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村規則ヲ設ケ及改廢スル事

二 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

三 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事

四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅又ハ府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

第五百十一條 左ニ掲クル事件ハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 第九十三條ノ處分ヲ爲ス事

二 第五百五條ニ依リ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

三 町村稅納稅義務者ノ一部ニ對シ又ハ第八八條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

四 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

五 特別會計ヲ設クル事

第五百十二條 町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第五百十三條 町村ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第五百十四條 府縣知事郡長ハ町村長助役收入役副收入役委員區長區長代理者其ノ他町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス但シ町村長助役收入役及副收入役ニ對スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經テ府縣知事之ヲ行フ

懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル府縣高等官三名府縣名譽職參事會員ニ於テ互選シタル參事會員三名ヲ以テ組織シ府縣知事ヲ以テ會長トス知事故障アルトキハ其ノ代理者會長ノ職務ヲ行フ

府縣名譽職參事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補關任期及懲戒審査會ノ召集及會議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限ニ在ラス

郡長ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長助役收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停

職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得
懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二箇年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ
任命セラレルコトヲ得ス

第五百五十五條 町村吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル
規定ハ命令ヲ以テ定ム

第八章 雜則

第五百五十六條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數郡ニ涉
ルモノアルトキハ關係郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其ノ事件ヲ管理
スヘキ郡長ヲ指定スヘシ其ノ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事
ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ郡長ヲ指定スヘシ
第五百五十七條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件
ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣
ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事府縣參事會ヲ指定スヘシ

第五百五十八條 本法ハ北海道沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ
施行セス別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第五百五十九條 本法ニ記載スル人口ハ內務大臣ノ告示スル所ニ依ル

第六百六十條 本法ニ定ムル直接税ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示
ス

第六百六十一條 本法施行ノ際現ニ町村會議員區會議員及全部事務ノ爲ニ設ケタル町村組合會議員ノ
職ニ在ル者ハ本法施行後舊規定ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ爲ニ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 是モ市制同様ニ實驗上改正ヲ必要トシマス點ニ改正ヲ
加ヘマシタノデアリマス、是亦多數ノ箇條デアリアスルカラ悉ク説明ヲ致ス
譯ニ參リマセヌガ、要スルニ市制トノ權衡ヲ保ッテ大概同様ノ點ニ於テ同様
ノ趣旨ニ依テ改正ヲ加ヘタノデアリマス、是ガ又郡制トハ殊ニ關係モ多イノ
デアリマス、郡制ノ市町村ニ關係ヲ持チマシタ點ハ、郡制ノ廢止案ヲ提出ス
ルト共ニ其部分ニ改正ヲ加ヘデアリマス、何レ委員會ニ於テ彼是對照シテ御
調査アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程ノ第十六ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付
託スベキ特別委員ノ選舉

○子爵岡部長職君 本案モ前二案ノ委員ニ付託サレタイ

〔贊成「ト呼ブ者アリ」〕

○議長(公爵德川家達君) 岡部子爵ノ動議ノ通りデ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ「ト呼ブ者アリ」〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十七、明治二十九年法律第六十三號ニ
代ルベキ法律案、政府提出、第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省略イタシテ宜シウ
ゴザイマスカ

〔異議ナシ「ト呼ブ者アリ」〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

明治二十九年法律第六十三號ニ代ルベキ法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十九年三月十七日

內閣總理大臣 侯爵西園寺公望
內務大臣 原 敬

明治二十九年法律第六十三號ニ代ルベキ法律案

第一條 臺灣ニ於テハ法律ヲ要スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ
得

第二條 法律ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ
之ヲ定ム

第三條 臺灣總督ノ發シタル律令ハ仍其ノ效力ヲ有ス

附則

本法ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 此法律ハ極メテ簡單ナ法律デハアリマスルガ、謂ハユ

ル六三ト申シマシテ世間ニ大分議論ノアリマスル法案デアリマスル、依テ政府ニ於テハ從來此コトニ付テハ段々致究モ致シテアリマシタ、現内閣ニ相成リマシテモ篤ト調査ヲ致シマシタガ、臺灣ノ今日ノ情況ニ照シマシテハ内地ト同様ノ法制ノ下ニ統治スルト云フコトハ到底困難ヲ感ズル次第デアリマス、出來得ヌコトト考ヘマス、サリナガラ明治三十九年ニ發布ニナリマシタ謂ハユル法律第六十三號ヲ此儘ニ繼續イタスト云フコトモ今日ノ時勢ニ於テハ少シク穩當ヲ缺クカトモ考ヘマス、臺灣ノ情況ニ照シ現在ノ制度ノ上ヨリ觀察イタシマシテ、此改正案ハ今日ニ適當ナル法案トシテ提出イタシタ次第デアリマス、從來御承知ノ通り臺灣總督ハ法律ニ代ルベキ律令ヲ發布イタシテ居リマシタ、是ハ二十九年ニ臺灣ガ日本ノ領有ニ歸シテ種々ナル經畫モアリマシタ、其間ニハ或ハ軍政トナリ或ハ民政ヲ布キ色々變遷モ致シマシタガ、二十九年ニ於テドウシテモ斯ノ如キ特別法ヲ設ケヌケレバ臺灣ノ統治上ニ困難ヲ感ズルト云フノデ、即チ二十九年ニ六十三號ノ法律ガ發布セラレマシタ、爾來三年又三年ト申スガ如ク繼續ヲ致シテ參タノデアリマスガ、丁度昨年戰爭中ニ於テ臺灣總督モ出征中デアリ、又戰爭中ニ著シキ制度ノ變更モ許サヌ次第デアリマシタ、旁デ平和克復ノ後一年間ハ此法律ハ效力ヲ有スル譯ニ相成ッテ居リマシタガ、其期限ガ丁度今年ノ十二月三十一日ニ到著スル次第デアリマス、本期ノ議會ニ於テ御協賛ヲ得マシテ六十三號ニ代ルベキ法律ヲ制定シテ置クベキ必要ヲ感ジマシタ、尙ホ詳細ノ事情ハ是亦委員會ニ於テ申シテ差支ナカラウト考ヘマスガ、是ハ大體ノ方針ハ唯今申シマシタヤウニ、到底、臺灣ニ對シテ内地同様ノ普通ノ制度ヲ布クト云フコトハ出來得マセヌガ故ニ、此特別法ヲ設ケザルヲ得スト云フ次第デアリマス、是亦速ニ御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○奥山政敬君 チョット質問ヲ致シマス、唯今内務大臣ヨリ詳細ノ御説明ガアリマシタ、一通リ分リマシタガ、固ヨリ臺灣ト内地ト一樣ノ法律ヲ以テ律スル譯ニハ行カナイト云フコトハ本員モ認メテ居リマス、認メテ居リマスガ、此六十三號ト云フモノガ代テ來テ他ノモノニナルト云フコトニナル、矢張り實際ハ六十三號ガ生キテ居ルト云フコトニナリマスガ、ソレヲ名ヲ變ヘテ此所ニ出ルト云フコトニ過ギヌノデアリマスガ、オバケニナッテ來ルト云フコトハ今ノ内務大臣ノ御説明デハ十分分リ兼ネル、六十三號デハ置ケヌ、名ヲ變ヘナケレバナラヌト云フコトガ、ドウ云フモノデアリマスルカ、又承ル所デ

ハ臺灣總督ガ、勅令ヲ發スル場合ニハ副署ヲスルト云フコトモ話ヲ聞キマスルガ、サウ云フコトガ出來得ルノデアリマスルカ、又ナサル、御思召デアリマスカ、其邊ヲチョット伺ッテ置キタイ

○國務大臣(原敬君) 御答イタシマスルガ、是ハ六十三號ニ代ルベキ法律デアリマスルガ、實體ニ於テ同様ナリト云フ次第デハゴザイマセヌ、既ニ申シマシタ通りニ臺灣ノ日本ノ領土ニ歸シテ間モナク制定ニナリマシタノガ六十三號デアリマスルガ、當時ノ情況ニ照シマスレバ、臺灣總督ヲシテ十分ニ統治上專斷イタス所ノ權力ヲ有テマセヌケレバ統治ガ困難デアラウト云フ次第デアッタノデアリマスルガ、併シ是ハ領有ニ歸シテ間モナキ情況ニ照シタ譯デアリマス、今日ニ至リマシテハ臺灣ニ特別ノ制度ヲ布クニ當ッテモ責任アル國務大臣ガ副署ヲ致シテ發布スル所ノ勅令ニ讓ルト云フコトガ至當デアラウト考ヘマス、又斯様ナル場合ニハ斯ノ如キ方針ヲ執ッテ殖民地ヲ治メテ居ル國モアルカト考ヘマスルガ、是ハ他國ノ例ヲ以テ必ズ申ス次第デアリマセヌ、今日ノ情況ニ照シマスレバ勅令ヲ以テ規定イタシマスガ適當デアルト斯様ニ信ジマス、副署云々ト云フコトハ御聞及ビデアッタト云フコトデアリマスガ、是ハ此法律ニ規定スベキコトデハゴザイマセヌ、要スルニ公文式ヲ如何ニスルカト云フコトデアリマス、是ハ政府ニ於テモ目下調査中デアリマス、臺灣ノ如キ特別ナル地方ニハ特別ノ規定ヲ設ケルコトハ必要デアラウカトモ考ヘマスガ、併ナガラ此事ハ公文式ノ關係デアリマシテ、政府ニ於テ調査中ナリト御了承ヲ願ヒマス

○小松原英太郎君 本員モチョット質問ヲ致シテ置キタイト存ジマス、此案ニ據リマスト從來臺灣ニ於テハ總督ニ委任シテ法律ニ代ルベキ律令ヲ出シタ、其律令ヲヤメテ今度ハ勅令デアラウト云フコトニナルノデアリマスルガ、然ルニ臺灣ノ現情ニ於キマシテハ從來緊急律令ノ如キモノヲ發シマシテ急場ノ種々ノ事情ニ對シテ處置ヲ致シテ行クコトガ出來マシタ、然ルニ勅令ニナッテ見マスルト從來ヤッテ居リマシタヤウニ緊急律令ヲ要スル場合ニ於テ急場ノ間ニ合ハナイ、然ルニ臺灣ノ如キ今日ノ現情ニ於テハ緊急律令ノ如キモノヲ尙ホ要スル場合ガアラウト思フ、必要デアラウカト思フノデアリマスガ、政府ハ是等ノ場合ニ對シテハ如何ナル處置ヲスル積リデアルカ、此點ヲ一應承ッテ置キタイ、尙モウ一ツハ臺灣ノ如キ新領土ノ人民ニ對シテハ此形式ノ變ハルト云フコトガ人心ニ餘程ノ關係ヲ來タシハシナイカ、例

へバ從來ハ臺灣總督ト云フモノガ非常ナ權力ヲ持ッテ居ル、法律ニ代ルベキ律令ヲ出シテ居ル、緊急必要ノ場合ニ於テハ緊急律令ヲ發シテ之ヲ處置スルコトガ出來ル、斯ウ云フ非常ナ權力ヲ持ッテ居ルモノデアル、然ルニ今度ハ勅令ニナッテ臺灣總督ノ權力ト云フモノハ無クナル、斯ウ云フコトニナルダラウト思ヒマスガ、此新領土ノ新附ノ人民ニ對シテ俄ニ形式ガ變ッテ臺灣總督ノ權力ガ無クナッテ仕舞フト云フコトガ統治上ニ於テ或ハ意外ナ關係ヲ生ジハシナイカ、其邊ニ對シテハ政府ハドウ云フ御考デアラウカ、併セテ此點ニ付テモ承ッテ置キタイ

○國務大臣(原敬君) 唯今御質問デアリマスルガ、臺灣ノ統治上ニ變更ヲ來タシテ困難ヲ感ジハシマイカト云フコトハ最モ考慮スベキ點ト考ヘマス、故ニ副署云々ノ論、即チ奥山君ノ御述ベニナッテヤウナコトモ調査中デアアル次第デアリマス、若シモ副署ガ出來ルト云フコトデアラバ今日ヨリモ權力ガ増加シタト云フ觀念ヲ與ヘルトモ減少シタト云フ觀念ハアルマイト考ヘマスルガ、併シ是ハ調査中デアリマスカラ此所ニ確言ハ申シマセヌガ、緊急ノ場合ノコトハ是ハ六十三號中ニアリマスルガ、元來六十三號ハ先刻モ申シマシタヤウニ匆卒ノ間ニ出來マシタ法律デアッテ、甚ダ法律中ニモ首尾貫徹イタサス所モ見出シマス、而シテ此緊急ノ場合ハ是マデ澤山其場合ガアル次第デハゴザイマセヌ、サリナガラ今日マデノ統治上ニ於テ緊急ノ場合ニ緊急ノ律令ヲ發シマシタコトモ幾タビモアリマス、將來ニ於テモ斯様ナル場合ナシトハ限リマセヌト考ヘマスルガ、幸ニシテ此法律ガ御協賛ヲ得マシテ成立イタシマスルナラバ、此法律ニ基キマシテ臺灣總督ニ斯ク斯クノ場合ニ於テハ斯ノ如キ規定ヲ設クルコトヲ得ルト云フ勅令ヲ發布イタシマシタ事足ルコトト考ヘマス、ト申シマスルモノハ、緊急ノ場合ニ律令ヲ發スルトシマシテモ全ク想像シ得ナイ不意ノ出來事デハ無イノデアリマス、前以テ斯ク斯クノ場合ニハ斯クスルト云フ處分法ヲ決メテ置カレルモノデハアリマセヌ、例ヘバ不穩ノ場合、土人ニ對シテ斯ノ如キ場合ト云フヤウナコトニハ總督ハ十分ノ權力ヲ以テ之ヲ治ムルコトノ規定ヲ前以テ設ケマシタナラバ何等差支ガ無カラウト考ヘマスルノデアリマス、其方針ヲ探ラウト考ヘマス

○伊澤修二君 本員モチヨット質問イタシタイ、元來此臺灣ニ律令ヲ出シマシタ時ニハ協議會ト云フ組織ガアリマシテ臺灣ニ數年奉職シテ最モ臺灣ノ情況ニ明ルイ人トノ評決ヲ經テ、サウシテ此律令ト云フモノガ出ルコトニナッ

テ居リマシタ、今日マデ此臺灣ノ治績ガ能ク舉ッテ段々此臺灣ノ事ノ緒ニ就イテ參ッタト云フモノハ矢張り是ハ協議會ノ效果ガ與ッテ力ガアッタラウト思ヒマス、然ルニ若シ之ヲ勅令ト云フコトニナリマスレバ、無論右様ノ組織ノモノハ無クナリハセヌカト本員ハ考ヘマス、ソレハドウ云フ御方針デアリマスルカ、最早臺灣ノ事ハ日本ニ於テ即チ内地ニ居ル人デ十分ニ出來ル、臺灣ニ長ク奉職シテ居ッタ即チ其臺灣ニ經驗ノ有ル人ノ力ヲ借ルニ及バヌト云フマデノ御考デアアルカ、或ハ何カ他ニ探ルベキ方法ガアルモノデアリマスルカ、ソレヲ一ツ伺ッテ置キタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 伊澤君ノ御質問ニ御答イタシマスガ、此評議員ノコトハ斯様ナ次第デアリマス、六十三號ノ法律制定ノ當時ニ私モ政府ニ居リマシテ臺灣事務局ト云フ所デ調査イタシマシタノデアリマス、其折ニ協議ノ結果六十三號ノ草案ガ規定イタシテアリマスガ、當時ノ議論ニ於キマシテモ評議員ヲ必要ナリトスルノト、不必要トスル議論トアリマシタ、ト申スノハ評議員ヲ設クルト云フコトハ御承知ノ通り印度ニアリマス、斯様ナコトハ故ニ此制ニ據ル方ガ宜カラウト云フ議論ガ多カッタ、併シ印度ハ評議員ニナル所ノ人ガ違ヒマス、臺灣ニ於テ評議員ニナル者ハ臺灣ノ總督府ニ奉職イタシテ居ル官吏デアリマス、時トシテ必要ナル時ニハ武官ヲ加フルニ過ギヌノデアリマス、故ニ左様ナル手續ヲ今回提出イタシマシタ法律ニ據ッテモ總督ガ出來ルノデアリマス、是ハ法律ノ保障ニナラヌト考ヘマスカラ、之ヲ原案ニ於テ削リマシタ次第デアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ハ議長ガ選定イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二十一ニ移リマス、屯田兵土地給與規則廢止法律案、衆議院提出、第一讀會、議長ハ誤リマシタ、議事日程第二十ノ鹽專賣法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開ク等デゴザイマスガ、特別

委員長カラ請求ガゴザイマシテ延期イタスコトニ相成リマシタ、……議事日程第二十一

屯田兵土地給與規則廢止法律案
右本院提出案及送付候也

明治三十九年三月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

屯田兵土地給與規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

屯田兵村ニ屬スル公有財産、營造物、事業及權利義務ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ町村又ハ部落ニ歸屬ス

屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ニ對スル國稅ノ免除ニ係ルモノハ仍從前ノ例ニ依ル

○議長(公爵德川家達君) 石本陸軍次官

〔政府委員石本新六君演壇ニ登ル〕

○政府委員(石本新六君) 本案ハ衆議院カラ提出ニナリマシタノデゴザイマスガ、之ニ同意ヲ表シマシテ差支ナイト云フ考デ同意ヲ致シマシタノデゴザイマス、ドウゾ御審査ノ上、御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十二ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉……此特別委員ハ議長ガ選定シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十三、明治三十年法律第四十二號廢止法律案、衆議院提出、第一讀會

明治三十年法律第四十二號廢止法律案

右本院提出案及送付候也

明治三十九年三月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長杉田定一

明治三十年法律第四十二號ハ之ヲ廢止ス

附則

本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 石本陸軍次官

〔政府委員石本新六君演壇ニ登ル〕

○政府委員(石本新六君) 此案モ前ノ案ト同様な性質デゴザイマス、是ハ矢張り政府ガ同意ヲ致シマスノデゴザイマスカラ、前ノ案ト同様ニ御審査ノ上、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十四ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉……此特別委員ハ前ノ委員ニ付託シテハ如何デゴザイマセウカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十五、會計法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告、平山君

會計法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月十七日

右特別委員長

伯爵柳澤 保惠

貴族院議長公爵德川家達殿

〔平山成信君演壇ニ登ル〕

○平山成信君 委員長柳澤伯退席ニナリマシタカラ、私カラ報告ヲ致シマス、此案ニ付キマシテハ一回委員會ヲ開キマシタ上、審議ヲ致シテ全會一致ヲ以テ否決スベキモノト決シマシタノデアリマス、此案ハ衆議院提出ノ案デアリマスカラ、原案者ガ居リマセヌノデ、政府委員ニ對シテ衆議院ノ審査ノ

模様ヲ承リマシタ、政府委員ヨリ縷々此反對ノ意見ヲ述べラレマシタ、ソレハ速記録ガゴザイマスカラ略シテ申上デマセヌガ、簡略ニ否決ノ理由ヲ申上デマス、要スルニ此第八條ノ方ハ是ハ昨年同ジク衆議院ヨリ法律案トシテ送付ニナリマシテ本院ニ於テ否決ニナリマシタ、本年否決ニナリマシタノモ同ジ理由デ、豫備金ノ支出ハ唯今御承知ノ通り年度經過後ニ詳細ノ計算ヲ備ヘテ議院ヘ提出スルコトニナツテ居マスル、此案ニ依リマスル、年度ノ半ニ總テノ事ガマダ分ラヌ中ニ持出スト云フコトデアツテ却ツテ都合デアラウト云フ理由デアリマス、又第十二條ノ一項ヲ追加スルト云フコトハ是ハ本年新ニ出テ參ッタノデアリマスル、此趣意ハ豫算超過又ハ豫算外ノ支出ヲ防グト云フ趣意デアツテ趣意ハ如何ニモ宜イコトデアツテ宜イ方法ガアレバ同意シタイデアリマスルガ、奈何セム此案デハ何分同意ガ出來ナイ、ト云フモノハ議院ノ協賛ヲ經タ豫算ト云フモノハ無論確實ノモノデアツテ其以外ニ縱シヤ剩餘金ガアツタ所ガ政府ハ一錢タリトモ支出ヲスルコトハ出來ヌノデアリマシテ、ソレヲ已ムヲ得ズスルト云フコトハ事實非常ナコトガアツテ、事實上已ムヲ得ナイ所カラシテ政府ハ責任ヲ取ツテ豫算外ノ支出ヲシテ、而シテ議院ニ承諾ヲ求ムルノデアリマスカラ、是ハ事實已ムヲ得ナイノデアリマス、此今度ノ追加ノ如キ案ガ成立ツタ所ガ矢張りサウ云フコトハ免レヌノデアリマス、詰リ是ハ責任問題デ其責任ハ議院ニ出シテ支出ガ不當デアレバ其責任ヲ問フベシ、正當デアレバ之ヲ事後承諾ヲスルヨリ外ニ途ハ無イノデアツテ、此案ヲ設クル必要ハドウモ無イト云フ理由ヲ以テシテ、此第十二條ノ追加ノ方モ否決ニナリマシタ譯デゴザイマス、右ノ次第デアリマスカラ、ドウゾ滿場諸君モ委員會ノ決議通り此原案ヲ否決サレムコトヲ切望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ガゴザイマセヌ、故ニ否決セラレタモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、先キニ御委託ニ相成リマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス、書記官長ヲシテ朗讀ヲ致サセマス

〔太田書記官長朗讀〕
廢兵院法案外一件特別委員

伯爵吉井 幸藏君 三浦 安君 男爵小澤 武雄君
男爵船越 衛君 名村 泰藏君 男爵石黑 忠惠君
男爵川口 武定君 岡田 良平君 宮崎喜久太郎君
醬油稅則中改正法律案特別委員

子爵唐橋 在正君 子爵前田 利定君 男爵北垣 國道君
男爵西五辻 文仲君 西村 亮吉君 渡 正 元君
野崎 啓造君 佐藤伊左衛門君 五十嵐 敬止君
郡制廢止法律案外二件特別委員

侯爵細川 護成君 伯爵萬里小路通房君 伯爵清棲 家教君
子爵鍋島 直彬君 子爵入江 爲守君 男爵船越 衛君
小松原英太郎君 田邊 輝實君 男爵南岩倉 具威君
男爵小早川 四郎君 男爵藤大路 親春君 千坂 高雅君
一木 喜徳郎君 關 清 英君 野崎 武吉郎君

明治二十九年法律第六十三號ニ代ルヘキ法律案特別委員

公爵二條 基弘君 伯爵柳澤 保惠君 子爵水野 直君
男爵前島 密君 都筑 馨六君 菊池 武夫君
古莊 嘉門君 穗積 八東君 鎌田 勝太郎君
屯田兵土地給與規則廢止法律案外一件特別委員
伯爵大村 純雄君 子爵高木 正善君 子爵松平 康民君
男爵相浦 紀道君 長谷部 辰連君 男爵金子 有卿君
男爵安場 末喜君 湯地 定基君 木村 誓太郎君
○議長(公爵徳川家達君) 次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日は是デ散會イタシマス

午後二時三十三分散會